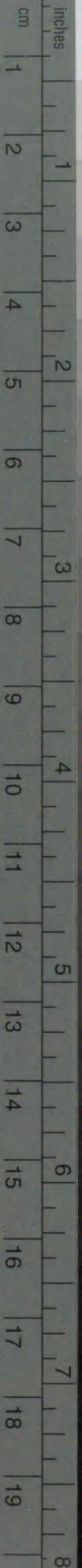


# Kodak Gray Scale



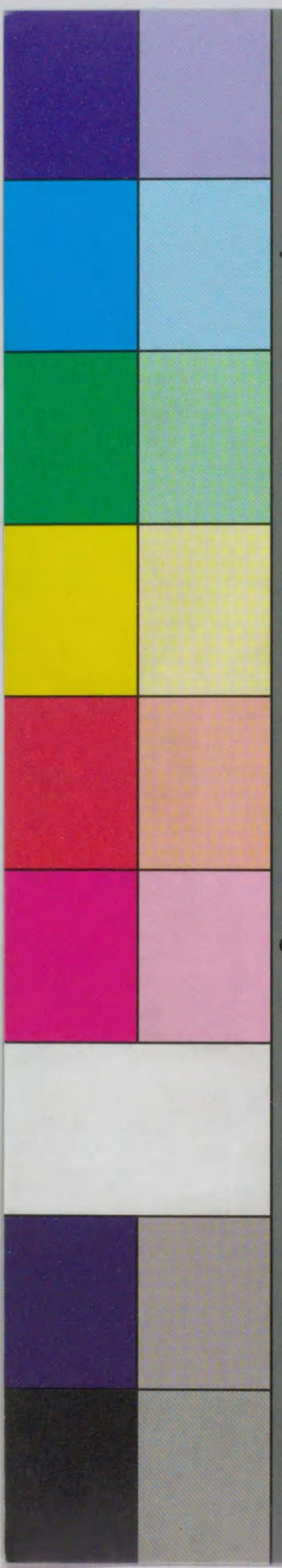
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



46

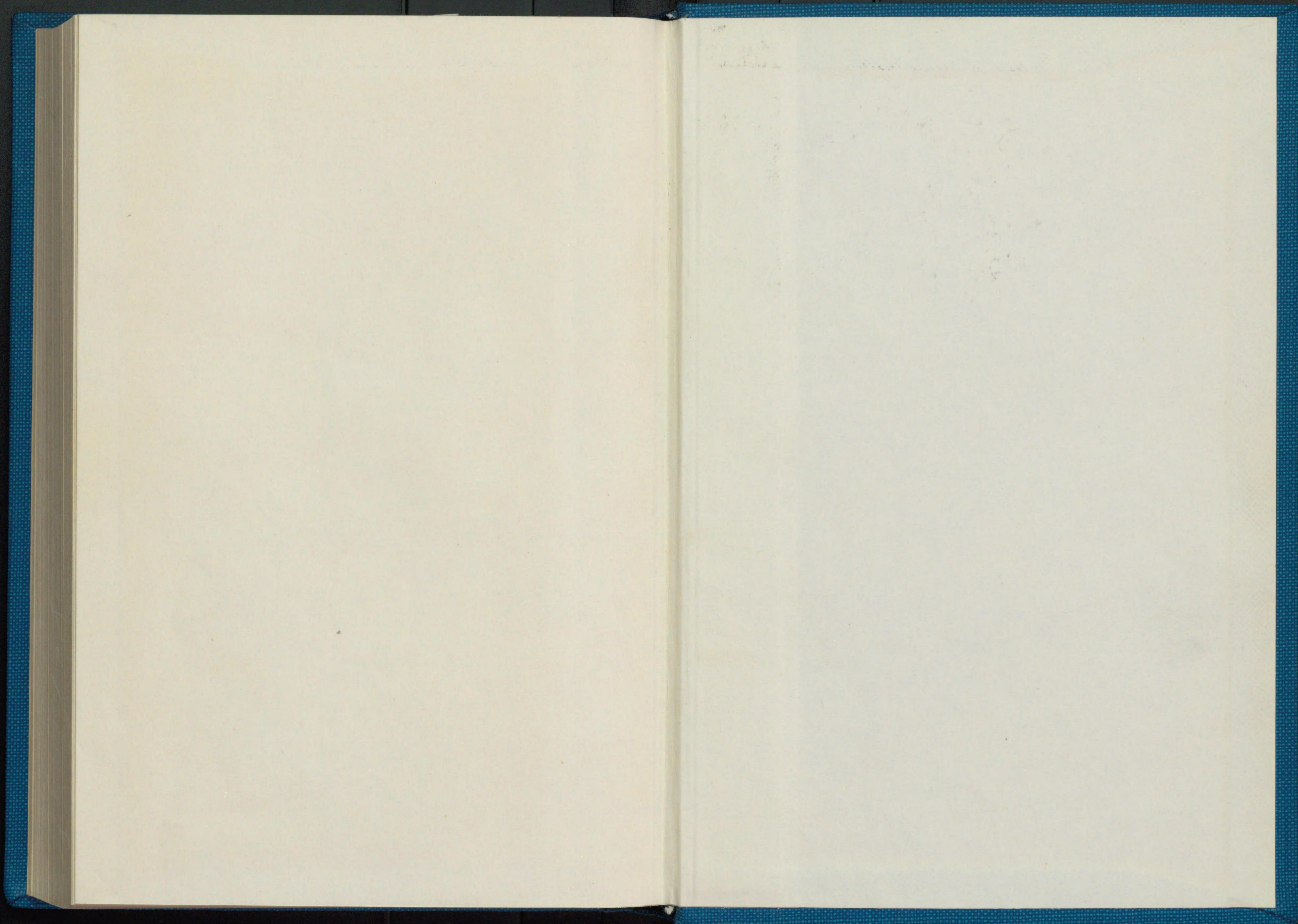
93

746-93

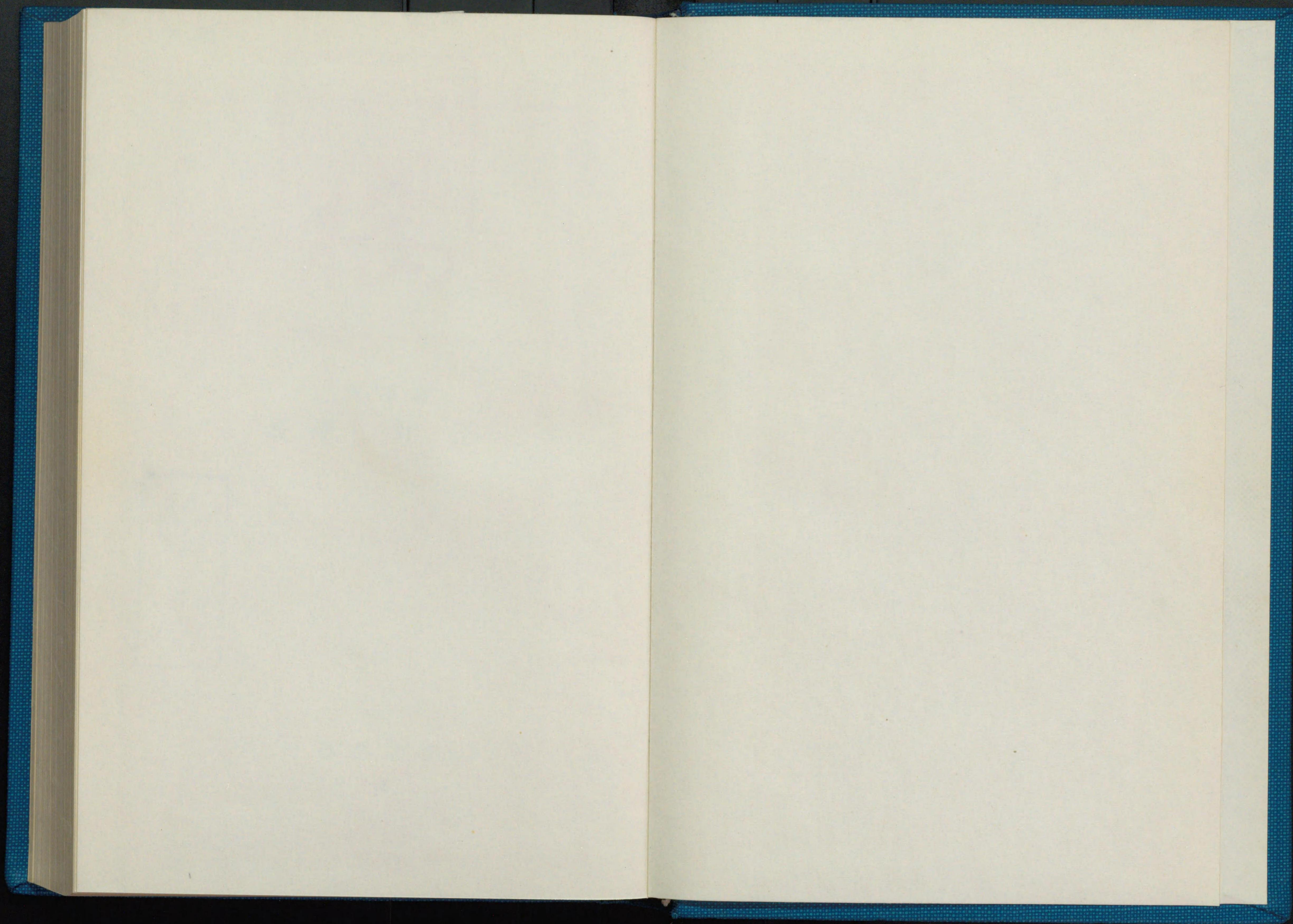


1200501593060



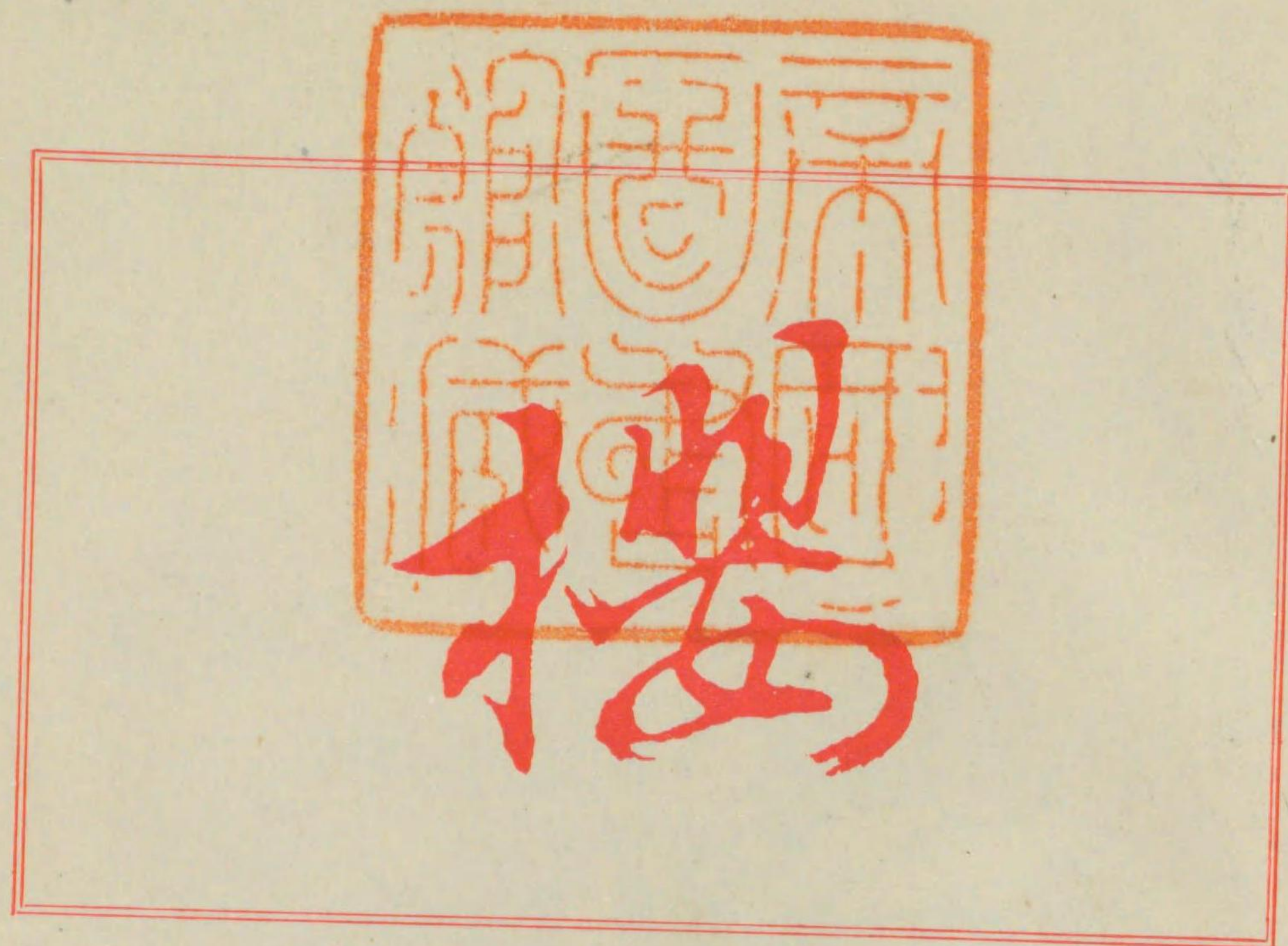




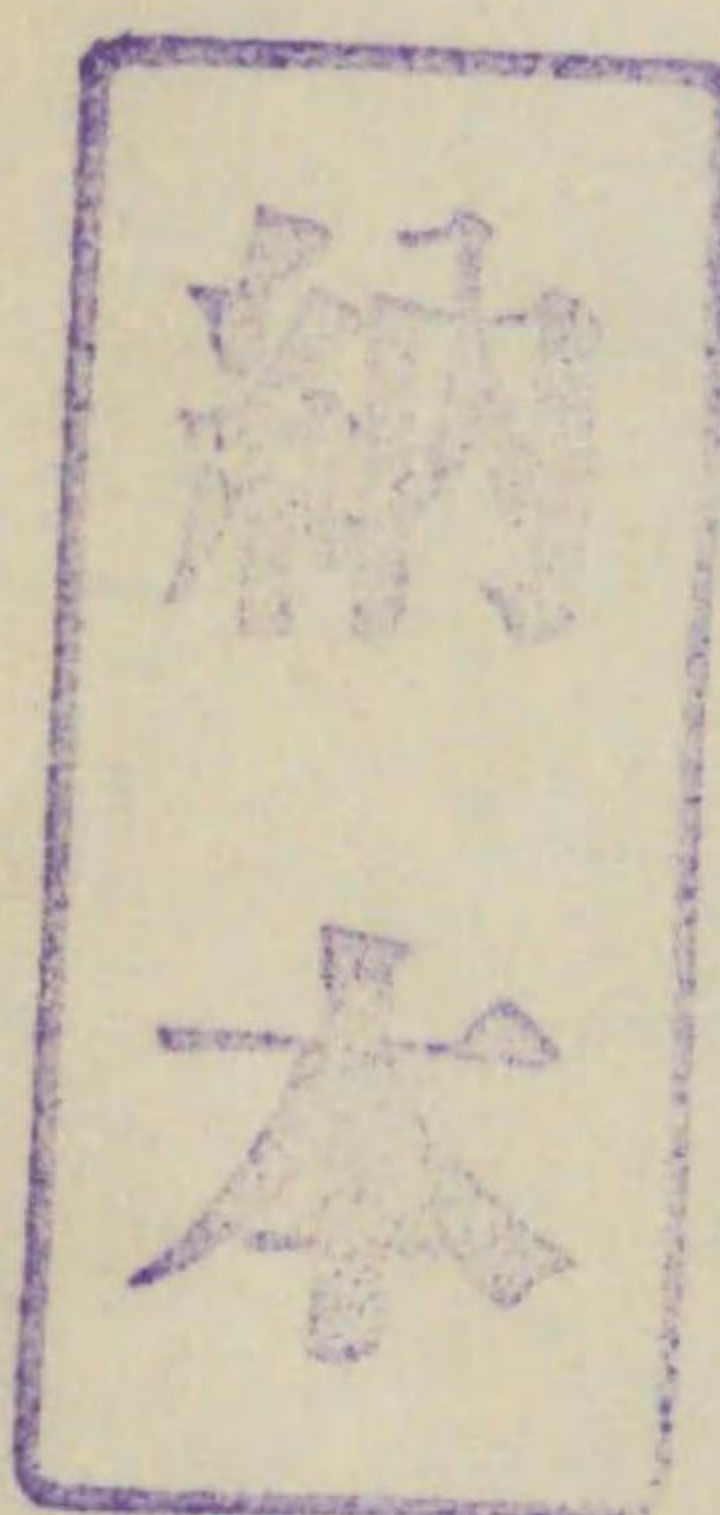




8076



理學博士  
三好學著



富山房發行

京







櫻 寒 緋

*Prunus campanulata* Maxim.

(生寫氏馬久猪野西)



## 序

私の幼年の時は舊藩の領邑美濃の岩村に居た。この屋敷は明治維新の際拙家が江戸の藩邸内から引越して來た時舊藩主から拜領したもので、城山の麓の熊洞といふ寂しい谷間にあつた。門外の溪流に架した土橋を渡つて山中に入ると、山櫻が生え、花時には能く遊びに行つた。幼少の時ではつきりした記憶はないが、櫻に就ての最初の印象を得たのは此頃であつたかと思ふ。

明治十五年以來東京に住つて上野、向島あたりの櫻を觀たが、併し櫻の美性に就て感興を催したのは、同二十八年の春獨逸留學から歸朝して本郷西片町の拙宅の庭に五本の里櫻が咲揃つてゐたのを見た時である。

是等の櫻は花の形や色が勝れたのみならず、芳香さへ發したものが



あつた。其後年々自宅の櫻を見るにつけても其名稱と來歴や系統が調べたくなつたが、恰も其頃東京市外の荒川の五色櫻が有名になり、古來の里櫻の名稱を知るには屈竟の場所であることがわかつた。是れと同時に又山櫻では小金井の長堤に列植された一々の天然品種の甄別の必要を認めたら、先づ此兩所の櫻の研究を始めることにした。是等の研究は數年間に互つて繼續したが、後には次第に調査範圍を擴め、次で大正八年史蹟名勝天然紀念物保存法の發布と共に全国各地の櫻の巨樹名木並に名所の實査に當ることとなり、其結果保存を要する櫻が多々發見された。

櫻に關する上記の研究調査により起草した拙文は四十四年後の今日まで種々の刊行物に載せられたが、今茲に其中の概説、隨筆並に主な櫻品の記載など數十篇を選び、多少字句を訂正し、又新に作つた數篇を加へ、一冊に纏めて刊行することにした。固より斷篇零筆に過ぎない

が、幸に國華としての櫻に關する知識普及の一助にもなれば本懐である。

昭和十三年一月

著者識す



目次

概序

説

昔の櫻と今の櫻	一
櫻の知識	三
江戸時代以來の櫻	五
科學上より見たる櫻	六
櫻に就て	七
優れたる櫻の品種	八
珍しい櫻	九
公園庭園等に栽植すべき櫻樹の品種	一〇
山の櫻	一一
櫻の話	一七

目次



櫻の來歴……………一三八

櫻の今昔……………一三四

名 櫻

櫻の名所……………一四九

吉野山の櫻……………一五七

東京の名櫻に就て……………一六五

霞間ヶ谷の櫻……………一六七

左近櫻……………一七四

梅護寺珠數掛櫻……………一七六

三春瀧櫻……………一七九

根尾谷淡墨櫻……………一八二

照源寺の金龍櫻……………一八四

三波川の櫻……………一八九

素櫻神社の神代櫻……………一九一

櫻の保存

榴ヶ岡の櫻に就て……………一九三

白山旗櫻……………一九八

祇園の枝垂櫻と金剛櫻……………二〇三

櫻の特性

櫻の名所と其保存……………二〇六

名櫻の保存に就て……………二二六

櫻の名木の保存に就て……………二三四

指定された櫻……………二三八

指定された富士櫻の群落……………二三八

國立公園選定地内の櫻……………二三九

花の壽命と其の生態……………二四二

櫻の樹齡……………二四八

櫻の健樹と病樹……………二五〇



冬 咲 の 櫻……………二五二

美しい枝垂櫻……………二五六

句櫻に就て……………二五八

櫻に現はれたる畸態……………二六一

櫻の向上性の實例……………二六三

櫻の讚美

花の下ふし……………二六五

櫻品圖扇……………二六七

三熊露香の櫻畫……………二六七

三熊花顛の櫻畫……………二六九

本居宣長翁と櫻の讚美……………二七〇

岡本花亭とその櫻詩……………二七一

櫻の思ひ出

櫻に關して戸川殘花翁を想ふ……………二七四

櫻の文獻

櫻に關して徳川頼倫侯を想ふ……………二七七

櫻に關して名和靖氏を想ふ……………二八〇

武田信賢翁と櫻の文獻……………二八二

句櫻と中村秋香翁……………二八三

櫻の名木と碓井小三郎氏……………二八五

荒川堤の櫻と船津靜作翁……………二八六

櫻井勉翁と櫻……………三〇二

西野猪久馬氏と其櫻畫……………三〇三

市橋長昭撰花譜の解題並に其文獻的價值……………三〇四

櫻花圖考……………三二四

草木寫生圖中の櫻の圖に就て……………三三四

三熊花顛の櫻花帖並に其解題……………三三八

江花櫻譜序……………三五三



花隠櫻譜序……………三五三

三十六櫻品の寫生圖譜に就て……………三五四

押花集解説……………三五六

地主櫻考……………三六二

浴恩園の櫻に就て……………三六八

勅銘の櫻に就て……………三七三

三熊露香筆櫻華藪の發見と其解題……………三七六

長者ヶ丸櫻譜と草木奇品家雅見……………三八六

坂本浩然の群櫻花譜……………三九九

六々櫻譜……………四〇四

太申櫻記……………四〇七

管春錄……………四〇八

京都名所櫻花帖……………四〇九

吉野夢見草……………四一〇

小金井觀花圖卷……………四一四

櫻品記載

櫻花記……………四一六

櫻記……………四一八

三熊花顛の飛驒入り……………四一九

櫻の文獻に就て……………四二一

大提灯……………四二五

五所櫻……………四二六

御車返……………四二七

江戸戸……………四二九

江祇女……………四三〇

八重曙……………四三一

松月……………四三二

日暮……………四三三

福祿壽……………四三四



王昭君	旗櫻	白雪	天の川	法輪寺	名月	薄墨	墨染	早晩山	南天	牡丹櫻	渦櫻	紫櫻	楊貴妃	九重
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
四四九	四四八	四四七	四四六	四四五	四四四	四四三	四四二	四四一	四四〇	四三九	四三八	四三七	四三六	四三五

附録

櫻に關する引用自著論文圖譜目錄

白妙	青葉	虎の尾	絲括	高砂	細川	千里香	萬里香	上句	駿河臺句	瀧句
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
四五〇	四五二	四五三	四五四	四五五	四五六	四五七	四五八	四五九	四六〇	四六一



圖版目次

緋 寒 櫻(色刷) ..... 口 繪

ひまらやざくら(色刷) ..... 三〇—三二

吉野の山櫻 ..... 一五八—一五九

三波川の冬櫻 ..... 一九〇—一九一

榴ヶ岡の彼岸櫻と枝垂櫻 ..... 一九四—一九五

國芳筆白山旗櫻(色刷) ..... 二〇〇—二〇一

日光輪王寺の金剛櫻 ..... 二〇四—二〇五

櫻 品 圖 扇 ..... 二六六—二六七

三熊露香筆枝垂櫻の畫扇 ..... 二六八—二六九

三熊花顛筆山櫻 ..... 同上

岸竹堂筆吉野の櫻と本居宣長の和歌讀 ..... 二七〇—二七一

荒川堤の里櫻 ..... 二九二—二九三

三熊花顛筆桐ヶ谷 ..... 三三八—三三九

櫻花三十六品寫生各軸展觀鈔附摺物 ..... 三五四—三五五

白河樂翁公消息 ..... 三七二—三七三

三熊露香筆虎尾(色刷) ..... 三七六—三七七

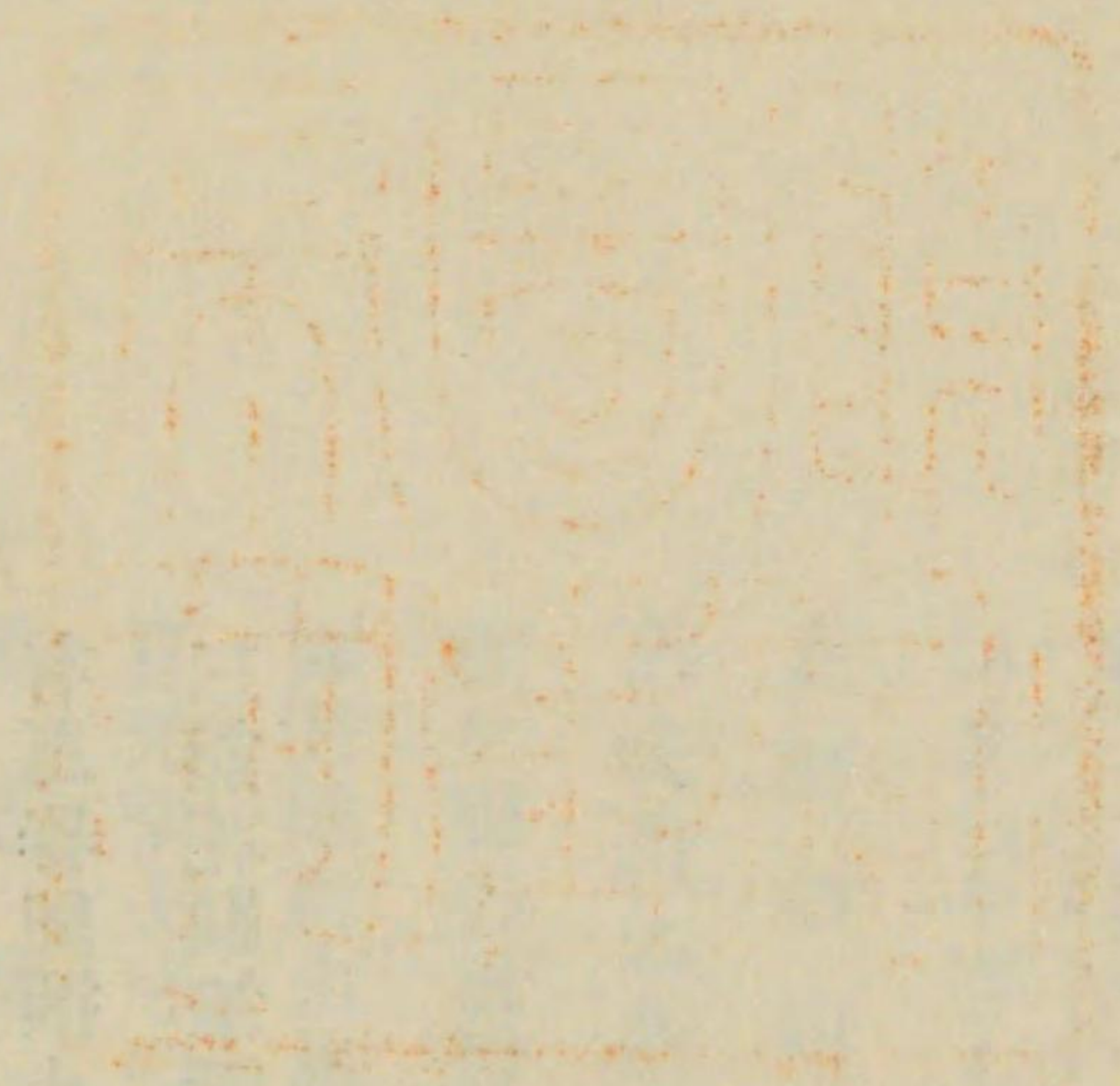
坂本浩然筆夕榮(色刷) ..... 四〇〇—四〇一

小澤華嶽筆御室の櫻(色刷) ..... 四〇八—四〇九

有馬譽純撰小金井觀花圖卷 ..... 四一四—四一五

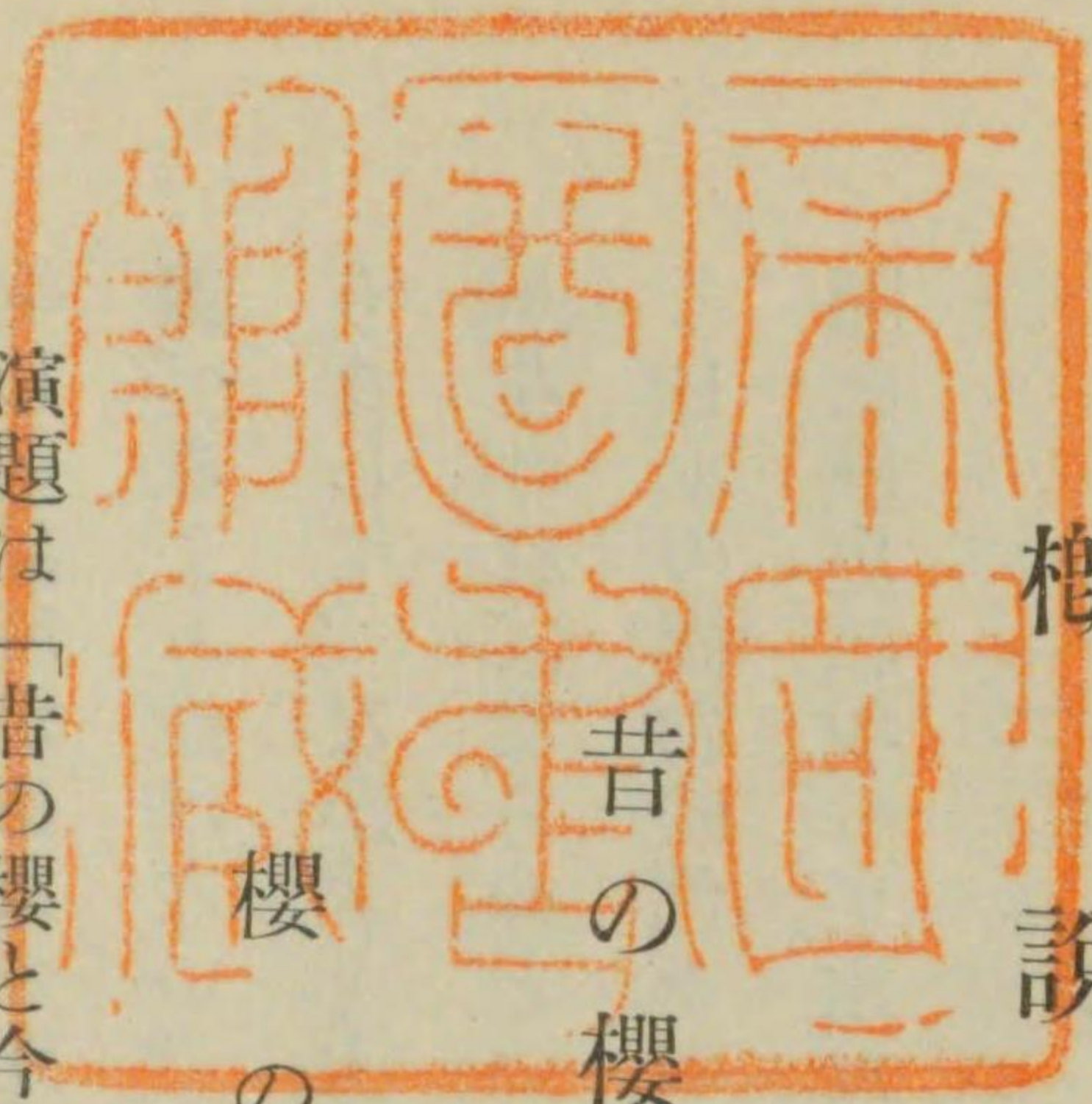
三熊花顛筆千光寺の襖の櫻畫 ..... 四二〇—四二一





# 櫻

理學博士 三好 學著



概説

昔の櫻と今の櫻

(大正九年三月廿八日南葵文庫大禮記念館に於ける講演)

櫻の歴史

演題は「昔の櫻と今の櫻」で、内譯は「櫻の歴史、櫻の種類」となつて居ます。「櫻の歴史」で昔の櫻の事を述べ、「櫻の種類」で今日の櫻のことを述べるつもりであります。櫻に關する専門上の細かいことは成るべく避けまして、努めて一般のことを述べる積りですが、併し多少専門的になるかも知れませぬから其邊は豫め御承知を願ひます。今日の櫻の研究をしますには無論世界的で

昔の櫻と今の櫻



ありまして、日本ばかりでなく世界の立場から見なければならぬことはいふまでもありません。併ながら櫻の如き日本の國華として大切なる植物に於きましては、科學的立場ばかりでなく歴史的に調べる必要があります。それと申すのは何故今日の櫻があれ程品種が多いか、どうしてあのやうに美しい品種が出来たかといふ淵源は非常に深く、非常に遠い。其淵源に遡つて調べるには歴史的に調べるより途はない。そこで之を櫻の歴史といひますが、併し歴史というても資料が甚不十分でありまして、なか／＼大袈裟に歴史といふだけの調は出来ては居ませぬ。併し大體さういふ點から行かなければならぬといふ積りで、櫻の歴史として述べようと思ひます。

日本の櫻には色々の種類、色々の品種があり、それら品種の系統を探すには古い頃からの櫻から順に歴史に現れて來た事實を集めて調べなければならぬ。此歴史は第一表に示してあります通りに

第 一 表

櫻の歴史の時代		野生種觀賞時代	
上古	奈良時代	千百餘年前	
中古	平安時代	約七百年間	栽 植 時 代
近古	江戸時代	約三百年間	品 種 生 成 時 代
近世	明治大正時代		科學的研究時代

四つに分けて、上古、中古、近古、近世とします。上古とは神代の昔から奈良時代まで、即ち今から約千百年ばかり前まで、あります。中古は平安時代から、是は天正あたりまで、約七百年間の

時代であります。近古は江戸時代で約三百年間の歴史を有つて居り、又近世は明治、大正時代で、約五十年の間であります。斯ういふやうに分けて見るのが一番便利だらうと思ひます。此四つの時期に就ての櫻の歴史を簡単に御話します。

**上古時代** の精しいことは無論分りませんが、萬葉集に出て居る櫻の歌などから考へて見ますと、上古時代に於て已に櫻が普通であつたといふことは疑ひない。日本の櫻は外國から來たものでなく、神代の昔からして存在して居つたのであります。櫻は全國にありましたが、古代の記録に現はれて居ますのは當時の皇居のあつた畿内地方のものであります。其他の邊鄙な地方の櫻に就ては何等の證據がありません。そこで奈良以前の御歴代天皇の皇居のあつた所に於て櫻が如何に賞観されたかといふことを第一に調べて見ますと、日本書紀に出て居ます通り、今から千數百年前に於きまして 天皇が皇居の櫻を御覽あらせられて、御製のあつたことが知れて居ます。斯ういふ記録に據つて見ますと非常に古い頃に於て既に美しい櫻が近畿地方にあつたことは疑ひがない。それから志賀の都や奈良の都になりまして、到る處櫻があつて宮中に於て御覽あらせられたのみならず、一般臣民も亦美しい花を賞観したのでありませう。此時代は第一表に書いて置きました通り、櫻の野生種の觀賞時代であります。彼の野生の櫻を十分培養して色々の美しい品種を作り出した時代には未だなつて居りませぬので、主として野生の櫻を其儘觀賞したものと見なければなりませぬ。



今日でも京阪地方それから大津あたりの山々を見ますと、美しい櫻が木立の間に見え隠れて、昔の時代でもこういう有様であつたらうと思ひます。それで皇居の附近にあつた美しい山櫻は觀賞されずに違ひない、さういふことが歴史に遺つて居るのであります。尤も古歌にも「古の奈良の都の八重櫻けふこのへにほひぬるかな」とあります通り、奈良時代に於ても八重櫻があつたとして見ますと、既に上古時代に於ても櫻は多少植ゑられて、さうして段々に其性質が發達して來たことが證據立てられます。それで八重櫻といふのは今日では皆大抵庭園に栽培して居る櫻であつて、山に生えて居る八重櫻は殆どありません。併しながら今日でも木曾・日光或は吉野山の奥などを歩いて見ますと、稀に瓣が六七枚ぐらゐになつて居る山櫻があります。是はまだ十分に八重とはいへませぬが、八重になりかゝつて居る。さういふのが野生にある。さうすると昔の時代に於ても既に天然に八重になりかゝつた山櫻がありました、それが培養されるに従つて益々重ねが厚くなり、眞の八重櫻が出來たらしい。それが既に奈良時代にあつたとすると、八重櫻の起源は非常に古いと云はねばならぬ。即ち八重櫻には其頃からの歴史がある。是は確かな歴史であります。其以前はどれ程古いか考へ及ばぬことであります。

**中古時代** 桓武天皇の御世に皇居が京都に御遷りになりましたから、平安時代の長い間に櫻がどういふ工合になつたかといふと、此時代は專櫻の栽植された時代で、第一表に記して置きました

が、櫻を盛に植ゑた時代であります。それは以前の都と違つて平安時代になりましたは皇居の規模が大きくなり、さうして公卿等の邸宅が彼方此方に出來、段々に民家が殖えて來たので、遊園が處々に出來、神社佛閣にも殖ゑた。さういふ場處には次第に美しい櫻を植ゑて來たものと見なければなりません。それ等の證據は歴史に載つて居ます。例へば櫻町中納言は櫻の壽命を延ばす爲に泰山府君に祈つて三七日長くすることが出來たといひます。此人は非常なる櫻の愛觀者で、吉野の櫻を庭内に澤山植ゑました。是は保元時代で今から七百六十年ばかりの昔で、其頃已に吉野の櫻が多數京都へ來ました。さうして見ると吉野は櫻の淵源であつて、同處には古から櫻が多かつたことが想像されます。吉野のことは後に述べますから爰では省きまして、兎に角櫻町中納言のやうな櫻を愛せられた人があつて、京都へ多數の櫻を植ゑられたが、それから又 龜山天皇が嵐山に吉野の櫻を御移しになつたことも傳へられて居ます。是も約六百餘年前であります。一方に於ては又奈良の都であつた所には櫻が以前から多かつたものと見えて 後鳥羽天皇の建久六年、即ち今から七百二十十六年前、東大寺供養の時に、興福寺の八重櫻の満開であつたといふことが歴史に載つて居ます。是は美しい八重櫻であつて、それを 天皇が御覽あらせられたといふことでありますから、彼の奈良の都の八重櫻といふやうな和歌にあるものと違つて、八重櫻のあつた立派な證據である。斯様に皇居が京都へ御遷りになつてから盛んに櫻が植ゑられて、後世の櫻の品種の出來る淵源になつたの



であります。

山櫻には元より天然の品種が多く、且多方面に變化して行く性質があつて、さうして出来た多数の品種が長い年月の間に淘汰され、段々に良いものが残つて来た。なか／＼一朝一夕に出来たものではない。さうして見ると中古時代で櫻の栽植が盛んになつた頃が今日の種々なる櫻の變り物が出来た時である。斯ういふやうに考へられます。足利氏の末になつて京都邊は戦亂が續いて度々兵燹に罹りましたが、併し其頃に於ても多数の櫻が残つて居たらしい。其戦亂の間に於て、それらの櫻に就て連歌を催し、又和歌を詠んだことが歴史に遺つて居ます。當時の武將武人には一面歌も詠み詩も作るといふ文雅な心のあつたことが分ります。それが爲に櫻の如きも自ら愛護されて、良い種類が割合に多く残つて来たものと考へられる。

中古時代の終りに於ては豊太閤が文祿三年、諸將を引率されて吉野に花見に行かれたことが櫻の歴史に就ての有名なる出来事であります。當時は今の如き交通の便利がなかつたから、丁度花の好い時期に吉野に行くことはなか／＼むづかしかつた。併し太閤の行つた時は恰かも花の盛りで、吉野に數日滞在して連れて行かれた武將や連歌師等と共に歌の會を催された。其時の櫻の歌は「吉野百首」となつて今日に遺つて居ます。太閤の花見のあつてから、一層吉野の櫻の保存に努め櫻の補植をしました。現に吉野にある關屋の櫻といふのが花見の當時を記念するもので、木は代はつても

其名が依然として遺つて居ます。さういふやうに中古時代に於ても櫻の愛觀が盛でありましたが、それから近古時代即ち江戸時代となつてから櫻の品種が一層多くなりました。



Prunus serrulata Lindl. f. classica Miyos. 象賢普

(生寫氏馬久猪野西) (一の櫻里の堤川荒)

#### 近古時代 は中古時代に較べ

ると比較的短かい。併し泰平三百年の間には里櫻の品種も夥しく出来たのであります。それで此時代を品種時代と名づけました。江戸時代は慶長から明治維新まで、ありますが、此時代に就て二つの區別すべき點があります。其一つは京都に於けるもの、又他の一つは江戸に於ける

ものである。京都の方と江戸の方とは自ら別々に櫻の品種生成等の歴史を有つて居ますが、先づ京都に就て述べますと、京都は中古時代からの櫻の栽植が續いて益々盛んになり、さうして天正から慶長、元和、降つて元祿、享保から寶曆の頃になるに隨つて、次第に櫻の珍らしい品種が世間に知



れて來ました。櫻の品種の著しいもの、數は今日では約五十餘種もありまして其一一の歴史が多少知れて居ます。是等の品種の中で最も古い櫻は普賢象であります。此櫻の雌藥は普賢菩薩の乗つて居る象の鼻の本から牙の出たやうな形になつて居ることから名がつけました。此櫻は今日に傳はつて居ますが、是れは室町時代に出來たことを私は想像して居たところが、當南葵文庫に藏せらるゝ弘治年間の節用集に普賢象といふ名が出て居ります。弘治元年は今から三百六十六年前で足利氏の末であります。此事は此櫻の來歴に就ての明かな證據となるので、其時代の節用集に載るくらゐの普通の櫻であつたことが分る。さうして見ますと、普賢象の出來たのは弘治よりもずつと前である。ずつと前と申しても未だ其以前の文獻が知れませぬが、已に室町時代には良く知れて居たもので、恐らく今日から四五百年前に遡るべきものと思ひます。畢竟江戸時代以前の櫻であります。其他西行櫻、墨染櫻なども寛永以前の書物に出て居ますから、是も室町時代からあつた櫻と思ひます。

近古時代になつてから夥しい品種が知れて來ましたが、中古時代からあつたものであるか、或は近古時代に出來たものであるか、文獻のないものでは證據が無いから分りませぬ。或は物があつても名が附いて居なかつたかも知れない。併し慥かなる來歴のある多數の櫻は近古時代に出來たものといはなければならぬので、其多數は京都附近に於て出來たものと思ひます。是は中古時代に於て櫻の栽植が盛んになつた爲、櫻の變異が次第に著しくなつた結果である。すべて櫻は實生に依つて

變化するので、前に述べました通り、山に生えて居るものでも實を播くと花の重ねが厚くなり、初は六七瓣から八九瓣十瓣以上に花瓣の數が殖えてゆく。色も白から淡桃色になり、それが更に濃くなり、又花の輪りんが大きくなり、花の柄が長くなり、香ひが強くなり、種々に發達して來る。普通園藝植物の良い品種の實を播くと野生の悪いものに戻つてしまふものがありすが、櫻はさうではない。私の實驗した所では多くは性質が良くなる。實生に依て發達して行くことが櫻の貴い性質であると思ひます。さういふ譯で段々に櫻の實が落ちて生え、又は人が態々實を播く中に良い品種が出來て、それに特別の名が付き、其名で呼ばれて來たのであります。其名はどうして附けたかといふと、元は名所の名を附けた。京都の嵐山の橋向ふの法輪寺に良い櫻があつたから「法輪寺」といふ名が附いた。是れも 御水尾天皇の勅銘であります。此法輪寺櫻に就ては昔の時代の記録にも出て居ります。それから又其他の名所の櫻にも場所の名を附けたものが多い。それは其處に良い櫻があつたからで、それが終には櫻の品種の名になつてしまつた。斯様に櫻の品種の名が出來て區別され、其數が次第に殖えて來て、元祿前後には數十になりました。

京都附近に於て元祿前後から櫻の品種が多く出來たといふことを述べましたが江戸の方はどうかといふと、江戸では櫻を多く殖えましたのは寛永の頃であります。是は三代將軍家光公時代からで、上野に彼岸櫻や垂枝櫻を殖え、又山櫻も殖えました。又隅田川には吉野の櫻を取寄せて殖えたこと



があります。元祿の頃には浅草寺の境内などに櫻が大分あつた。其事は此時代の人で戸田茂睡の書いた「紫の一本」に出て居ます。此本を讀んで見ると、浅草や上野邊りの花見の様子が精しく分ります。浅草寺の境内に多數の櫻があり、又上野にも櫻が多かつた。清水堂の後ろなどには澤山の人が出て、花見の幕が三四百とあつたといふことが書いてあります。昔の花見は優長で、花の下に幕を張り、其中で酒宴をして、花を眺めたもので、其幕の数が三四百もあつたといふことから見ると、澤山の人出であつたことが分ります。それが元祿あたりの江戸の花見の有様であります。それから享保の頃になつて復浅草に櫻を植附け、寶曆の頃に深川に櫻を植えました。深川には、元歌仙櫻という芭蕉の弟子の園女の植えた櫻があつたが、それが枯れてから同じ場所に再び櫻を植えたのである。併し深川は汐風の吹く所でどうも櫻が育たない。此昔の櫻のあつた場處を記念する爲近年有志家が深川八幡の境内に櫻を植附けました。今日では昔の櫻は大抵無くなりました。浅草寺の元の櫻も今日ではない。唯上野と隅田川に多少ある位で、飛鳥山などにも昔の樹は殆ど残つて居ませぬ。

これから第二表に移りまして櫻の甄別家、寫生畫家、愛護家として功勞あつた人々に就て述べます。

表二第 櫻の甄別家、寫生畫家、愛護家

那波活所	稻生若水	松岡恕庵	三熊花顛	同露香	廣瀬花隱	織田瑟々	市橋星峯	櫻井雪鮮	白河樂翁	屋代弘賢	三好汝圭	久保櫻顛	坂本浩然	堀本良山	櫻戸玉緒	跡見玉枝
正保	元祿	正徳	寛政	文政	文政	文政	文政	文政	文政	文政	文政	天保	文久	明治	現代	
十	二	六	三	三	三	三	二	二	百	百	六	百	二	百	百	
二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	

櫻の甄別家、寫生家、愛護家としての人々の名を挙げました。一番初にある那波活所は正保時代で、紀州公に仕へた有名な儒者で「櫻譜」を著しました。其中には十二種記載されて居ます。是が恐



らく日本の櫻品を記載した始りであらうと思ひます。尤も其前に林羅山其他が櫻を記載したものがありますが、纏つたものはさうありませぬ。次の稻生若水は加州侯の儒者で、「庶物類纂」一千卷を著しました。此書の中に櫻が二十六種記載されて居ます。是は元祿の頃で漢文で書いた著述であります。それから正徳の頃の松岡恕庵は、京都の本草家で、若水に就て本草を研究した人で、「怡顔齋櫻品」の著者であります。此書には六十九種載つて居ります。櫻品の出版は寶曆であります。正徳時代に著したものとしてあります。此「櫻品」は櫻の昔の文獻中の大切なもので、其以前の那波活所、稻生若水の著述は餘り世間には知れて居ませぬ。松岡恕庵の「櫻品」は和文で誰にも分るやうに書いてあります。さうして簡単な繪が附いて居て洵に便利でありますから昔から汎く行はれました。

寛政時代になつて、櫻の熱心なる愛護者が出ました。是は三熊花顛で、「近世畸人傳」の著者であります。花顛と其妹の露香は共に櫻の觀察と寫生とに努めて、寢食を忘れたくらゐである。さうして大きな櫻を自分の家に運んで植ゑたといふやうな逸事があります。花顛は櫻品三十六種を寫生して「櫻花帖」と題して櫻の好きな人に贈りました。花顛の書いた櫻の畫は折々見ますが、纏つたものは三十六種の寫生帖であります。此花顛の弟子に廣瀬花隱がありますが、文政頃の人で、花顛の描法を習つて、櫻を多く寫生した。此人の寫した六々櫻譜には矢張三十六種の櫻品が載つて居ます。又露香の門人には近江の織田瑟々女の如き櫻の寫生に熱心な人があつて、其門葉が後世に續いて居ます。

京都の方面では三熊花顛が寛政頃の最も熱心なる櫻の愛護家并に寫生畫家でありましたが、江戸の方では又市橋星峯公の如き熱心家がありました。是は近江の仁正寺の城主で、名を長昭と云ひ、佐藤一齋に儒學を受けた人であります。仁正寺侯が櫻井雪鮮といふ畫家に命じて、櫻を二百三十四種寫生させた。是は日本の櫻の寫生圖として最も貴重なもので、「花譜」と題して五冊の大本になつて居ます。此圖譜には佐藤一齋其他の有名なる學者の序文や跋があり、實に立派なものであります。現に帝室圖書となつて宮内省の圖書寮に藏せられて居まして、他に比類のない最重要なる櫻の圖譜であります。此圖譜は長い月日を費したもので、享和から始め文化頃に出來上りました。此當時に於て櫻を集められた苦心が撰者星峯公の序文に述べてあります。實際日光、奥州、關西等の諸地方から態々櫻を集めて寫生させたのである。雪鮮の畫は實に美事で、忠實な寫生圖であります。此「花譜」がある爲に今日吾々が櫻を甄別するに大なる参考とあります。畢竟「花譜」は我邦の櫻譜の基礎となるもので、後世に至つて之を本とした種々の櫻譜が出ました。此事は續いて御話しますが、又此同時代に白河樂翁公が櫻を愛觀せられたことが知れて居ます。樂翁公は御承知の通り寛政文化時代の名相で、江戸築地浴恩園の別墅に櫻を多く植ゑられ、畫家文晁の門人に命じて同園の櫻を寫生させました。此櫻の寫生圖は立派な巻物になつて樂翁公の後なる現時の松平子爵家に藏せられて



居ます。此圖譜には百二十四種が載つて居ります。

次に櫻の品類の區別に努めた人は屋代弘賢で「古今要覽稿」の著者として知られて居ます。有名なる故實家で、塙保巳一の門から出て、熱心に昔の文書を集めて、不忍池の所に文庫を持つて居た人であります。「古今要覽稿」の櫻の部には立派な彩色畫が多數載つて居ますが、其圖の來歴が記してない。是等の圖に就て篤と調べて見ますと、其一部分は松岡恕庵の「櫻品」から採り、大部分は市橋星峯公の「花譜」から採つたものであることが知れました。即ち「花譜」が「古今要覽稿」の櫻の部の土臺になつたことが明かになりましたが何故か其事が同書に見當りませぬ。尙其外に弘賢が寫生させた櫻の圖譜があります。即ち「櫻圖説」と題する二冊の本で、三好汝圭に櫻の繪を寫させ、弘賢が處々に説明を附けて居ます。其説明は主もに文學的であるが、併し櫻の名は正しく附けて居ます。此汝圭といふ人は文化頃の畫家で、餘り世間に名が出て居りませぬが、至つて緻密な筆で、草木を寫生した人であります。さうして櫻の葉には、柄の上部にある蜜腺まで描いてあるものがあります。今日でも櫻の寫生に往々蜜腺は落すくらゐであるのに、昔の寫生に於て蜜腺まで現はしたのは餘程注意が周到であつたと言はねばなりません。「櫻圖説」は此時代の作として著るしいものであります。尙ほ當時の本草家岩崎灌園の如きも「古今要覽稿」の繪を作る時に手傳つた人でありましたが、此人の著「本草圖譜」には櫻としては唯一の山櫻の畫を載せてあります。

尙江戸時代に於ての櫻の熱心なる蒐集家としては久保櫻顛（帶刀）があります。青山長者ケ丸に住んで居て茲に櫻園を作りました。此長者ケ丸の櫻園の跡は今日でははつきり分りませぬが、天保時代に於ては餘程名高かつたと見えて其時代の花曆などに長者ケ丸櫻園を櫻の名所として擧げてあります。此櫻園には少くとも櫻の品種が百三十六ぐらゐあつたらしい。此櫻園の櫻の番附も出來て居ます。其頃青山の權田原に有名な植木屋が居ました。増田金太郎、號を繁亭といつた人で、草木の奇品、變り物を多く集めて、有名なる人々に繪を書かせて「草木奇品家雅見」と云ふ三冊の本にして出しました。是は今日でも珍重すべき書物であります。此人が長者ケ丸の櫻園にあつた櫻の品種百三十六を坂本浩然に書かせた。浩然は紀州の本草家で、繪が巧みでありました。本草家で繪の上手な人は昔から少くはありませぬが、其中でも浩然は著しい。それで浩然の寫生した百三十六種の櫻の圖譜が増田金太郎の家に出來て、さうして一圖毎に當時名のある俳人の鳳朗、卓池、梅室などに花の句を書いて貰つて、之を圖と對照させて帖にしました。又此畫帖には尙繁亭の所に來た手紙を張り込んで記念にしましたが、それが繁亭の歿後世に出て、轉々他人の手に渡りまして今は私の藏本となつて居ます。此櫻譜を見る、其頃長者ケ丸にあつた櫻の品種が悉く分ります。即ち天保時代の江戸にあつた櫻は略、斯様なものであつたことが知れて櫻の史料として參考になります。それから文久年間になつてから堀良山——信州須坂の城主でありますが、「しゃくふ叢譜」と云ふ櫻の圖譜



を出しました。これは寫本として往々世間にありますが、卷首に良山の序があり、次で二百五十種の櫻の圖が載つて居ります。此書は固より世に普通であつたと見えて、明治前後の櫻譜には此本から採つたものが少くない。「古今要覽稿」は大部で容易に手に入らぬ。又其他の櫻譜も容易に參考されぬ所から、いつも「彙譜」が引用されて居ます。「彙譜」の原本は從來全く分らなかつたものであります。私は此本の圖と「古今要覽稿」の櫻の圖とを調べて見ましたとき、何れも前に擧げた市橋星峯公が雪鮮に描かせた「花譜」の圖に符合する所から直ちに其出處を知りました。良山の序文には「彙譜」の圖が何人の手になるか分らないと書いてあるのは甚だ不思議であります。何故に出處が知れなかつたのかは姑く措いて、兎に角「花譜」が後世の櫻譜の根源になつたことは前に述べた通りで、是れで「花譜」の貴いことが分ります。

江戸時代に於て櫻の品種が澤山に知れて、それに一々名の附いたのは寛政の頃から享和、文化、文政、天保あたりまで約五十年間で、是れが櫻の品種の發達の全盛時期と言つて宜しからうと思ひます。其時に知れて居た品種は約二百五六十もありますが、併し是れは其當時に出來たものばかりでなく、多數は其前からあつたらしい。それは何故かといふと、是等の多數の櫻は彼方此方から集めたもので、決して一つの園、一つの庭で種を播いて拵へたものでない。交通不便の時代に遠い所から骨を折つて集めたもので、中には佐渡から來た日蓮上人の珠數掛櫻といふものもある。是は今

日に残つて居ますが、甚だ珍しい櫻であります。今日知れて居ますくわんざん關山、麒麟、猩々などといふ櫻は櫻品にも名が出て居て、未だ其種類を詳にせずと書いてありますが、是等もずつと昔からあつたものらしい。櫻の品種は江戸時代に多數出來たとしても、決して寛政以後に一時に出來たものでなく、遙に其前に出來て居たものが集つたのであることは言ふまでもない。それで櫻の種類を研究し櫻の品種を調べ、櫻の歴史を知るには、唯今申した通り寛政以後が最も大切な時代で、其頃知れて居た櫻の歴史を調べる必要があると思ひます。近古時代に就ては先づ是れだけに止めて置きます。

**近世** とは明治大正時代を云ふので、科學的研究時代といふ名を付けました。今日では唯櫻の色色の品種を集めて、之を繪に書くとか、又珍しいといつて愛觀するばかりではない、更に進んでそれを科學的に研究しなければならぬ。即ち植物學上から研究して其種類を定め、又一方に於ては櫻の特徴を今日の學問的方法に依て調べる必要がある。今日は斯ういふ時代に達して來たのであります。是は櫻に限らず總べての調べ方が今日と昔とは違つて來ました。それで肝腎の櫻の材料はどうなつて居るかといふと、材料は今日に於ては大變に減つて來ました。それといふのは前に述べました寛政から天保あたりには二百何十といふ品種が知れて居たが、維新前後になつてから殆ど分らなくなつたものが多いからで、殊に維新の際に諸侯の庭園が無くなつて、浴恩園其他の名園が廢毀され、長者ケ丸の櫻園なども全く無くなりましたから、其時代にあつた所の色々の珍しい櫻は何處に行つ



たか分らない。然るに一方に於ては幸に櫻の熱心家があつて、絶えかゝつた品種を集めた人がある。其熱心家には篤志家畫家等として櫻に熱心な人もあり、又植木屋の中に櫻を熱心に集めた人もある。其一つの例をいひますと第三表にある高木孫右衛門であります。

江戸巢鴨の殿中に高木孫右衛門といふ植木屋がありました。今では無くなりましたが以前は手廣く、植木の商賣をして居ました。此孫右衛門の家では先代から櫻の品種を多く集めました。其品種は何處から來たか分りませぬが、恐らく白河樂翁公の浴恩園、長者ヶ丸櫻園、それ等の所にあつたものが轉々して孫右衛門の種樹園に來たものではないか、尤も直接に其處から來なくても、間接に來たものではなからうかと思ひます。此高木の有つて居た櫻の品種が明治十九年に悉く荒川（江北村の堤上）に植ゑられましたから、其後高木の種樹園は無くなりましたが其品種は現に荒川には遺つて居ます。若し是れが同處に植ゑられなかつたら昔の櫻が散りくゞばらくゞに無くなつてしまつたことと思ひます。茲に一つ大事なことは、縦令櫻が遺つて居てもそれに正しい名が附いて居なければ役に立たぬ。先年上野の或る寺に楊貴妃といふ名の附いて居る櫻を見ましたが、全く別物で普通の普賢象でありました。それで一々正しい名が附いて居ることが大切で、高木の園にあつたものは昔の正しい名が附いて居ましたから貴重である。それが荒川に移されたときは七十九種といふことで、明治時代の櫻の品種の一大蒐集であります。此荒川種が今日では小石川の植物園にも行つて

居り、又徳川侯爵家の大磯の高麗園にもあり、又其他にも移されて居ます。外國では米國華盛頓のポトマック公園に東京から送つたのがあり、又紐育公園其他にも植はつて居ます。明治大正の時代になつて櫻の品種の数は減りましたが、併し一方に於て研究時代になりましたから、唯品種を澤山に集めて眺めるばかりでなく、それに就て一々實驗を施し、學問的に研究する時代になつたのであります。

そこで上古から近世までの櫻の歴史の御話をしましたが、總括して見ますと、上古時代では殆皆山櫻でありましたが、中古時代になつてから段々里櫻が知れて來ました。山櫻は元來山に生えて居る自生のものでありますから、それを唯栽植しても天來の性質は餘り變りませんが、里櫻は之に反し、古來庭園に植ゑられた櫻で、花が大きく、輪が大きくなり、色も美しく、色々に變つて來ました。此里櫻の出來ましたのが主に中古時代である。それから近古時代は里櫻の全盛時代で、多數の里櫻が出來て、其數が非常に多かつたに違ひない。決して百や二百ではない。併し其多數の中で優れたものでなければ人が顧みない。普賢象が足利時代に出來て四五百年後の今日に遺つて來たのも此櫻に著しく立派な特徴があるからである。普賢象は實が出來ない。雌葉が全く葉に變つて居ますから、接木で殖やします。四五百年間一々接木を施して、今日まで傳へて來たのは全く此原因に歸するのである。即ち優勝劣敗で、良い櫻が自然に遺り悪い櫻は次第に消えてしまふ。昔から今日に



遺つて居る櫻の品種は何れも良い特徴があつて人に愛せられたからである。是で此櫻の大體の歴史は終りましたから、次に櫻の種類に就て御話致します。

### 櫻の種類

前の講演の時に申落したことがあります。それは櫻の名所のことで、これから追加します。即ち第三表にある吉野、櫻川、小金井等であります。

櫻の名所とは櫻を見に行く遊覧の場所でありますが、一方からいひますと櫻を調べる材料を得る上に大事な處であります。櫻の名所の中で一番古いのは吉野で、第一表の上古時代から續いてあつたものらしい。極古くから花の名所としての吉野の名が出て居ます。さうして前に述べた中古時代に於て今から七百餘年前に櫻町中納言が吉野の櫻を京都に移されたことがありますから、是れで見ても當時の吉野は櫻で名高かつたことは疑ない。櫻の歴史では吉野は第一番に大切な處で、此處の櫻は純粹の山櫻で即ち白山櫻であります。嵐山は主に吉野の花を移しましたもので、嵐山と吉野は唯規模が小さい大きいの差であります。常陸の櫻川は別の系統で、昔から有名な櫻の名所でありましたが、永く忘れられて居ました。僅に近世になつてから再び世に知られて來て人が出るやうになりました。櫻の数が少い割合に天然品種が多い。花の色の赤いもの、香のあるもの、花の柄に毛の

あるものなどが多く、變異に富んで居る。美濃の霞間ヶ谷は右の場所ほど著しくないが、一の名所として棄てがたい所である。此處は大垣から遠くない所で、養老と反對の方にある。風景の良い所で、白山櫻が多い。小金井は山櫻の色々な天然品種を集めた點に於て大切な名所で、元文年間に出

第三表 櫻の名所及品種の植場所

吉野	山櫻	元文頃
櫻川	山櫻	文永頃
小金井	山櫻	享和 文化
嵐山	山櫻	天保
霞間ヶ谷	山櫻	明治
本所五の橋(市橋星峰)	山櫻	明治
浴恩園(白河樂翁)	山櫻	明治
長者ヶ丸櫻園(久保櫻顛)	山櫻	明治
高木孫右衛門種樹園	山櫻	明治
荒川(江北)堤上	山櫻	明治

來ました。尤も元文以前から植ゑて來て、段々に櫻が殖えたので、今から百八十年ばかり前から名所となりました。小金井の山櫻は現時殆ど皆白山櫻で主に吉野の種であります。小金井に櫻の名所が出來たことは江戸の櫻の歴史の中で大切な出來事であります。同處の櫻は御承知の通り水道の兩岸に植はつて居て、樹の数は非常に多い。雷山櫻の天然品種に富んで居るばかりでなく、地味が櫻



に適して居て發生が甚だ宜しい。

これからして櫻の種類に就て御話致します。第四表は日本産の著しい櫻の種類であります。櫻の種類と申すと植物學上の種類で、俗に植木屋が云ふ種類とは違ひます。

第四表 日本産の著しい櫻の種類

山	里	彼	染	緋	富	千
櫻	櫻	岸	井	寒	士	島
櫻	櫻	野	吉	櫻	櫻	櫻
〔白〕	〔紅〕	櫻…(枝垂櫻)				
山櫻	山櫻					

種類としての日本の櫻は山櫻、里櫻、彼岸櫻(枝垂櫻)、染井吉野、緋寒櫻、富士櫻、千島櫻等が著しいものであります。櫻は臺灣にもあり、朝鮮にもあり、精しく調べるに従つて植物學上の種類と認むべきものが多く出て來ますが、併し花の美しい所を賞観する上からの著しいものは大約前の通であります。之を簡単に説明しますと、先づ

**山櫻** 是は日本の櫻の中の代表であります。日本の櫻の中でどの櫻が一番固有であるかといふと無論山櫻であります。さうして分布が最も廣く、南から北の方までずつとあります。山櫻を大きく

分けると**白山櫻**、**紅山櫻**との二つの種類になります。白山櫻の花は白色又は淡紅色であります。紅山櫻は紅い。白山櫻は小金井櫻の中の大部分がそれでありす。吉野も全部白山櫻、嵐山も白山櫻、櫻川のも大部分それでありす。白山櫻は概して日本の中部以南に多い。

中部以北には紅山櫻がある。即ち日光から會津邊の山々、奥羽、北海道、千島、樺太、黒龍江邊まで分布して居ます。此に二つの櫻の中で日本の櫻の歴史に大なる關係あるのは白山櫻で、前に述べた昔の皇居の附近にあつたのは皆白山櫻であります。紅山櫻は邊鄙な地方にありましたから人が知らない。僅に後世になつて知られるやうになりました。

それから**里櫻**は、一つの大きな種類でありますから、此中に色々な細かい區別があります。山櫻といふ名は古い頃からありましたが、里櫻といふ名は近世になつて白井光太郎氏が附けられたもので、適當な名と思ひます。

**彼岸櫻**は御承知の通り上野あたりに大木があります。是は全く別種で、葉や花の形態、木振などすべて特徴があります。是も山に生えて居ます。

それから**枝垂櫻**は彼岸櫻から生じた變種で、白彼岸、紅彼岸に對して白垂枝、紅垂枝があります。京都祇園の櫻は白垂枝であります。其他仙臺の榴ヶ岡にもあり、又上野公園にも垂枝の大木があります。段々木が傷んで來ました。



彼岸性の櫻には尙曙彼岸と云ふものがあつて、普通の彼岸櫻とは種々の點に於て區別されます。染井吉野は極新しい櫻で俗に吉野櫻といひますが、大和の吉野山の櫻と違ひ、元染井の植木屋が作り出したといふので此名がつかました。維新前後次第に植ゑられた新しい種類であります。日本の昔の歴史には關係が無い。近頃になつて朝鮮の濟州島に此櫻の野生があると言はれました。併し彼處から直ちに日本の内地に渡來したかどうか分りませぬ。兎に角新しい櫻で、繁殖が早い。花の咲くとき葉が出なくて洵に立派であります。それで近世の趣味に適したと見え、維新以後方々に植ゑられました。向島の櫻などは昔は山櫻でありましたが、今日では全部染井吉野になりました。東京では江戸川や上野あたりにも此櫻が多く又人家にも多く植ゑてあります。上州の熊谷の土手に植ゑてあるのも此櫻で、遠くは北海道函館の公園などには澤山に植ゑられて居ます。北海道固有の櫻は紅山櫻であるが、紅い櫻は陰氣であるとして却て染井吉野が喜ばれます。染井吉野は上海までも行つて居ます。

**緋寒櫻** は寒中に咲いて、さうして花が眞紅でありますから緋寒櫻といひます。櫻の中で一番紅い櫻で、臺灣の亞里山などに自生して居ます。薩摩の緋櫻、元日櫻などといつて、昔から珍重した櫻であります。東京では稀に見ます。

**富士櫻** は富士の裾野に多いが、又箱根や上總などにも自生して居ます。小喬木又は灌木で、葉は小さく、花は白又は淡紅色で、種々な變異が現れて居ます。それから**千島櫻** は千島列島にある櫻で、花は左程大きくはありませぬが、愛らしい形で、淡紅色のものもあり、又香もあります。

日本の著しい櫻は先づ斯様なものでありますが、今日櫻として一般に人が觀賞するのは山櫻、里櫻、彼岸櫻、垂枝櫻、染井吉野是だけであります。此外のものは地方的か又唯植物學的に知られて居るくらいで一般には觀賞されない。特に著しいのは山櫻と里櫻であります。染井吉野は極めて單調で變化が無い。花が澤山咲くだけで、植物學的には面白くない櫻であります。彼岸櫻と垂枝櫻も割合に變化が多くない。

**山櫻** を見ますと色々な特徴があります。其特徴を調べますと、白山櫻では先づ第五表の如き區別が見られます。

第五表	
白山櫻の種別	自然別
若葉の色	青芽 黄芽 茶芽 赤芽
花の瓣の数	五枚 六、七枚 十數枚
花の香	無香 有香
花の梗の毛	無毛 有毛
其他の特徴	花の着方、花の形、大きい花の形、大いさ、花期

小金井に行くか、又吉野に行きますと、咲いてゐる多數の櫻が一つ一つ違つて居るやうに見えます。先づ第一に目に着くのが若葉の色であります。山櫻では若葉の色を四つに分けて、青い芽の出



るものと、黄色の芽の出るものと、茶色の芽の出るものと、赤い芽の出るものとしませぬ。尤も其  
 中間の移り行きはありますが、ざつと四色に分けられます。此中で一番普通なのは茶芽であります。  
 それから黄芽で、黄芽といつても眞の黄色ではなく、幾らか萌黄になつて居ます。次は赤芽で最も  
 綺麗に見えます。是等の特徴は大抵遺傳しますから、ザツト此芽色で區別します。

花瓣の数は通常五枚でありますが、時として八重になりかゝり、六、七枚以上になつて居るもの  
 がある。八重の山櫻は時々あります。先年吉野に行きましたときも山中で斯様の山櫻を見ました  
 が、其外櫻川にも、又美濃の霞間ヶ谷にも花瓣の多くなつた山櫻がありました。

次には香の有無であります。山櫻には香ひが普通無い。併し稀にはあります。是も吉野や小金井  
 にあります。小金井の櫻並木の下を歩るさますと、時としては佳い香がします。此香櫻も矢張山中  
 に自生して居るものがあつて、斯かる特徴によつて他の山櫻と區別されます。

花梗の毛の有無、即ち花の柄に毛のあるのと無いのとがある。普通は毛が無いが、稀には毛のあ  
 るのがある。染井吉野の花の柄には毛が密に生えて居ますが、山櫻にも時として多少毛のあるもの  
 があります。

其他の特徴は花の着方で、即ち着方の疎密がいくらか違つて居ます。又花梗の長さ、花の形、花  
 瓣の形、花期の早晚などでも互に區別されます。花期の早いのと晚いのとでは、一週間乃至二週間

ぐらゐ違ひます。

其他尙植物學上の細かい區別がありますが、此處では述べませぬ。白山櫻を一寸見た所で、斯様  
 に種々の區別がある。是に依て見ますと、天然に生えて居る山櫻に色々の變り物が出來て居ること  
 が分ります。其變つたものは唯一時變つたのでなく、種子によつて多少遺傳する。即ち赤芽の種子  
 を播けば赤芽が出て、八重になり掛つたものを播けば、八重が出來すのみならず、八重の度が一層  
 著しくなる。香のあるものからは、香の一層強いものが出る。斯様に性質が遺傳しますから、是等  
 の一々の變り物をそれ／＼の天然品種と見ることが出來ます。それで小金井の櫻にも吉野の櫻にも  
 多數の天然品種がある。其中の著しいものには特に名が附けられて區別されて居る。例へば小金井  
 の日の出の櫻、入日の櫻、三吉野櫻、内裏の櫻など、名の附いた櫻は其特徴が著しいからである。  
 次に紅山櫻の方も無論變異があります。札幌附近の山中にある紅山櫻を見ても色々違つて居ます。  
 此紅山櫻は萼や苞が粘るので著しい。白山櫻にはさういふ特徴はありません。

里櫻の品種の特徴はどうであるかといふと、是は一層變異が多くなつて居ます。

表 六 第		種 品 別		種 品 別	
種 品 別		種 品 別		種 品 別	
菊	八	一	重	一	重
咲	重	重	重	重	重
色 の 花		色 の 花		色 の 花	
黄	濃	淡	口	淡	白
綠	紅	紅	紅	紅	紅
紅	紅	紅	紅	紅	紅
毛 の 梗 花		毛 の 梗 花		毛 の 梗 花	
有	無	有	無	有	無
毛	毛	毛	毛	毛	毛
無 有 の 香 花		無 有 の 香 花		無 有 の 香 花	
香	無	香	無	香	無
振 木 傘		振 木 傘		振 木 傘	
下	上	形	形	形	形
向	向	向	向	向	向
微 特 の 他 其		微 特 の 他 其		微 特 の 他 其	
花	花	花	花	花	花
期	期	期	期	期	期



第一に花の重ねで、即ち一重の里櫻、一重八重の里櫻、八重の里櫻、菊咲の里櫻といふやうに分けます。一重といふのは花瓣が五枚です。里櫻は皆八重になつて居ると思ふ人がありますが、里櫻にも花瓣の一重のものが少くない。唯花瓣が大きくなつて居るのみで、数は山櫻の場合と同じもの



*Prunus serrulata* Lindl. f. *chrysanthemoides*  
Miyos.

(生寫氏馬久猪野西) 櫻 菊

がある。次に一重八重とは、一重と八重とが混つて居るので、彼の御車返といふ櫻はそれである。其他有明、大提灯なども此類であります。八重は花瓣が五枚以上になつて居るので、其中でも重ねの厚いものと薄いのがあつて、花瓣の数が十五六乃至三十ぐらゐるものあります。一層進んで来ると、菊咲といつて、菊の花のやうに見える。菊咲の櫻は一番早く咲きます。東京では五月上旬で、外の櫻が散つた後に咲きます。是等の櫻の花弁の数は殆ど二百ぐらゐになつて居るものがあります。

花の色では白から淡紅になり、又口紅、濃紅、萌黄、萌黄紅などに變つて居るものがあります。

彼の荒川の五色櫻とは斯様に色が變つて居る櫻が多いからさういふ名が附きました。

それから花の柄の毛の有無で、是は山櫻と同じことで、毛のあるのと無いのとがあります。花に香のあるのと無いのとがある。里櫻の中に特に香櫻といふ一群があります。それは晚咲の櫻で、四月二十日頃に咲く。花も立派で、香が高い。是等の香櫻は日本の櫻の中で著しいものであります。

木振が傘形、箒形、上向、下向などになつて居るものがあります。傘形とは上枝が扁たく擴がつて居るもので、普賢象のやうな樹の形であります。箒形とは御車返のやうに、枝が斜に上へ向ひ、又關山のやうな形である。上向とは枝がすべて眞直に上へ向くことで、天の川のやうな品種に見られます。天の川では、花の柄や雄蕊までも皆上へ立ちます。それから下向とは垂枝になるもので、普通の垂枝櫻のやうになつて居るものであります。

其他の特徴は花の着方、花の形、大いさ、花瓣の形、花瓣の大いさなどで、一々區別します。

爰では主に山櫻と里櫻とに就て述べましたが、能く調べて見ますと、其他の櫻、例へば千島櫻などにも天然品種があります。花の色の淡赤いのもあれば、濃いのもあり、又香のあるものもある。要するに櫻の種類には天然の變異性に富み、其性質が發達しつゝあるものが多い。是れは實生試験をして見ると證明されます。實生を作つて調べて見れば見る程、變異が強くなつて行くことが分る。



先年荒川の紫櫻の種子を取つて播きましたら、紫櫻の八重で即ち八重紫櫻といふのが出来ました。それは一つの例であります。さういふやうに段々變異が盛になつて行くものが少くない。其の點からいひますと、山櫻や里櫻は學問上非常に面白いものであります。

斯様に日本には櫻の色々な種類や品種が出来て居ます。今日日本の櫻を世界的に見たらどうかといふと、一層日本の櫻の貴いことが證明されます。昔の時代では外國の櫻は知らなかつた。支那には櫻が無いといつたくらゐである。それで日本の櫻を唐土の人に見せたいとの意を詠んだ和歌もあるくらゐで、櫻は日本限りのやうに思つて居ました。ところが又昔の學者の中には支那の櫻桃が櫻である。それで支那にも櫻があるといひました。さうして又櫻に就て支那の文字を當嵌めることに就ての見解も色々になつて居ました。併し古人にも達見を有つて居て、日本の櫻は日本固有の櫻で、支那の櫻とは違ふといつた人もありました。

それで今日ではどうかといふと、段々に世界中の事が分つて來ましたから、外國にはどんな櫻があるかといふことは知れて居ます。隣國なる支那はどうかといふと、支那にも實際櫻のあることは近世になつて外國の植物學者の探檢に依つて知れて來ました。それはどういふ所にあるかといふと、邊鄙な土地ですが四川地方の山々には、野生の櫻があつて、可成り廣く分布して居ることが報告されてある。それから近年になつて外國の植物採集家などが支那の内地を歩いて調べて見た所が、色



*Cerasus Puddum*

copied from plate 143 of  
Sakaki Plantae Quinque Sinensium  
Vol. II.

1842  
24.4.7

らくざやらまひ

*Prunus Puddum* Roxb.

を圖の載所志物植亞細亞奇珍氏ナッリーヨウ)  
(のもるたれら贈てし寫摸氏ジーゲルトクド



色の櫻がある。其櫻は純然たる野生で、山に生えて居る。大體から見ると日本の山櫻のやうであるが、併し其花の美觀や培養種の點から見ると、日本の山櫻並に里櫻とは全く別であります。支那では昔から櫻といふものは一般に知れて居ない。古書にも櫻に關する記事は殆ど見られない。今日では支那に櫻のあることが分つても支那の如き大國で、其中の邊鄙な所に限られて居るのでありますから、一般の人が知らなかつたのは無理がない。唯探究が普くなつた結果として、隠れた櫻が世の中に知れて來たのである。其等の櫻は日本の櫻とは全く同一のものではないが、廣い意味からいふと、山櫻の系統に近いものである。さうして又支那の野生の櫻から美しい培養種が出來て居るや否やは少しも知れて居ませぬから、支那の國民性には櫻は何等の影響がないと思ひます。

更に少し西の方に進んで、緬甸から印度へ移りますと、此處には美しい櫻があります。緬甸からヒマラヤ地方にはヒマラヤ櫻といふ綺麗な櫻があります。此櫻は外國の櫻の中で一番美しい櫻だらうと思ひます。ヒマラヤ櫻はヒマラヤの東南部の中腹以下で、四五千尺ぐらゐの所まで自生して居ます。カルカッタのやうな平地では氣候が暑過ぎて適しませぬ。涼しい所でないと生長しませぬから、山中に立派な櫻があつた所で、一般の人は見ることが出來ない。それで櫻の咲く頃になると態々山へ花見に行く。今日では便利が良いからカルカッタからダージリンまで一晩で行かれます。汽車が四五千尺の高い所まで行くと、山中に此櫻が咲いて居ます。ヒマラヤ櫻は元來變異の多い櫻で、



花の色の淡いになると、殆ど日本の白山櫻の如く淡白であります。濃いになると紅山櫻のやうな色が現はれる。此兩極端の間には多くの色の變異があります。それから若葉の色も種々に變り、花の形や着方も多少變つて居ます、一寸見ると日本の紅山櫻に似た點がありますのは唯花の色ばかりでなく、萼や苞が粘ることである。此點に於て紅山櫻とヒマラヤ櫻とはよく似て居ます。一方に於て臺灣の緋寒櫻に似て居るかといふと、緋寒櫻では萼が粘らない。其他の點に於ても緋寒櫻とヒマラヤとは差違があります。然るに外國の植物學者の中には此二つの櫻を混同してヒマラヤ櫻と緋寒櫻と同種であるといふ者がありますが、是は間違ひであることは明かであります。印度には他にも櫻がありますが、ヒマラヤ櫻ほど綺麗な櫻はない。併し前に述べた通り此種は同國の一部分に限られて居るので、固より國華とは見ることが出来ない。其他歐米にはチェリーがあります。是れは實を喰べる櫻で、實は美味であります。花は日本の櫻を見た目では見るに足らぬ。花としての價値は洵に少い。櫻の種屬は随分多數であります。美しい櫻としては日本の櫻を除いてヒマラヤ櫻が一種あるだけで、他には著しいものはない。さうして見ると、日本は眞に櫻の國であります。昔世界の事を知らなかつた時代に於て櫻は日本に限られて居るといつたことが見様によつては必しも不當ではない。學問上から見しても、日本の櫻ほど美しい櫻で、さうして種類や品種の多い櫻は世界に類がない。櫻は日本の國華、日本は櫻の國といふのは至當であります。

さうして見ると櫻の分布は印度から始つて亞細亞の極東へ来て日本で止つて居る。亞細亞の極東の日本が中樞になつて、西の方へ行くに従つて少くなつて居ります。日本に於ては櫻が多いことは色々深い原因があるかも知れませぬが、一つは氣候風土が此花木に適し、一つは太古から此植物の系統が續いて居るからであります。さういふやうに日本の櫻は根原の深いもので、歴史の極めて古いものである。櫻が國華であるからは國民性に重大なる關係が出来て、櫻を見れば色々の感想が起り、又それから教訓を得、種々の理想を發揮することが出来る。吾々の祖先以來斯様な櫻の觀賞と櫻に對する觀念とが續いて來て居ますから、櫻は日本人には極めて大切な花であります。さうして見ますと、櫻を十分に調べて學術的に櫻の特徴を明かにし、其種類を區別し、又櫻の品種の改良や繁殖に努め、又一方に於ては櫻の眞の美性を觀賞するやうにしたいものと思ひます。

段々餘談に移りますが、昔の江戸時代に於ては櫻を見るは唯花を見て楽しんで歸るといふばかりでなく、十分に花の特徴を観察して、さうして花を區別して一々の花の性質を能く明かにしたものがあつたやうに見えます。それは其時代に出來た文學に現れて居て、和歌、狂歌、俳句などには種々の櫻の名が見えて居ます。尤も其時代の人それぞれ等の種類を一々知つて居つたといふ譯ではありませぬが、普賢象とか楊貴妃とかいふ櫻の名は普通で、人が知つて居つたのである。今日では科學的時代になつて居ながら却つてさういふ觀念が非常に薄くなつて來て、櫻といへば何もかも同じやう



に見られて居る。さうして東京にある櫻がどんな櫻であるか、山櫻と染井吉野とはどう違ふか、洵に觀念が薄い。却て外國から花見に来る人達はもつと能く注意を拂つて日本の櫻に就て區別して居るやうである。これは専門家でなくても、少し氣を付けて見ると分ります。

今日では盛んに花見をして非常に人が出ます。吉野山の如きは昔の時代では、六田の渡から山の上まで花がすつかり續いて居た。貝原益軒が元祿年間に行つた時にはさういふ有様であつたが、寛政年間三熊花顛、伴蒿蹊などが此處へ花見に行つた時は最早花より人が多くなつた。併し其頃でもまだ花見に行つた人には花の下で賣つて居る櫻の苗を買はせて植ゑて貰ふといふことが記してあつた。今日ではどうかといふと、一日に何千人といふ人が出る。さうして中にはオートバイで團隊を作つて山上へ駆登るといふやうな殺風景な時代になつて来て、非常な雜鬧で花を見るのやら人を見るのやら分らぬやうになりました。是は吉野に限らず、皆さうである。人出ばかり多くなつて肝腎の花を愛することが益、廢つて來た。斯ういふ工合になつて來ると終には日本の櫻の名所は無くなつてしまつて、極めて俗惡な場所になつてしまふことと思ひます。我櫻の會はさういふことの爲に櫻を眞に愛護する精神を普及したい趣意で起つたのであります。日本に生れて居て、日本にはどんな櫻があるかを知らずに居ては詰らぬから、國華として櫻がどうして貴いか、櫻にはどんな種類があるかを世に知らせ、さうして此花木を保護する途を講ぜなければならぬ。吉野に於ても吉野保勝

會があり、櫻川にも櫻川保勝會があつて、それぞれ櫻の愛護に努めて居ますが、肝腎の花見に行く人は無頓著に櫻を害することが多い。それで今日では史蹟、名勝、天然紀念物に互つて國の寶として大切なるものは、政府で指定して保存することになりました。史蹟の保存、名勝の保存、それから天然紀念物の保存といふ中には、櫻の保存も無論含んで居ます。此保存に就きましては徳川侯爵には史蹟名勝天然紀念物保存協會といふ會を起されて、其會長として今まで多大の御盡力であつて、それが爲に其保存の事業が段々進んで来て、終に昨年から政府で保存事業を行ふことになりました。それに就ては、日本の國華として國民の觀賞する所の優美なる山櫻を始め里櫻などの名木又は其名所を適當の方法に依て保存しなければならぬ。外國から年々多數の觀花の客が來ることを思ふと、肝腎の日本に於て櫻を一向構はなくては耻辱であると思ひます。先年東京市から亞米利加の華盛頓へ贈りました櫻の如きは、毎日樹の害蟲を取る人が見廻つて居て愛護して居ると云ふことです。日本では貝殼蟲が附かうが何が附かうが其儘で枯れるに任せて居るといふ譯で、それが爲に良い種類が絶えて行きますのは實に惜い。さういふ有様であるから今日では先づ櫻の愛護に努め、さうして十分に花見の出来るやうに櫻を大事にしなければならぬと思ひます。

それから序でに御話して置きたいことは、中古時代あたりからの櫻の大本が處々に残つて居ます。其一は東京附近の埼玉縣石戸の蒲櫻である。是は桶川在から一里半ばかりの所にある大本で、昔蒲



冠者範頼の紀念に植ゑたと言傳へます。此櫻の事は昔の書物にも出て居まして、「玄同放言」にもあり、又「甲子夜話」にもあります。櫻の下には古い板碑があつて、其中で貞永年間に建てたものがある。今日でも樹は健全で立派な天然紀念物であります。

それからもう一つ東京から遠くない富士の裾野にある頼朝の下馬櫻、是は頼朝の卷狩時代にあつたと稱する櫻で、赤芽の美しい山櫻である。白絲の瀧の附近で大宮から上つて行くと上井出村に此櫻が立つて居ります。

もう一つは甲州の神代櫻、是は諏訪と甲府との間で汽車線路から約一里ばかりある山高の實相寺にあります。本多靜六氏著「大日本老樹名木誌」の櫻の部の第一に載つて居ります。是は白彼岸で、山櫻ではありませぬ。樹齡は分りませぬが、非常に古いやうに見えます。

前に述べた三つの櫻は東京から餘り遠くないから、行つて見るに便利で、何れも櫻の天然紀念物であります。又荒川、小金井、櫻川、嵐山、吉野などにある多數の櫻も天然紀念物で、是等も保存を要することは申すまでもない。

東京は世界の大都會として著しい所でありますから、之を美化するには國華である所の櫻を巧みに植ゑるが宜しい。唯無暗に植ゑた所で功が無い。櫻を植ゑるには種類と背景とが必要である。山中に里櫻を植ゑた所で調和させぬ。里櫻は庭園に植ゑるに限ります。又荒川のやうな堤防には山櫻は適しませぬ。山櫻は本來は山に植ゑなければ釣合はない。背景としては槭樹もみぢか赤松が宜い。嵐山の櫻の景色が好いのは一つは背景が好いからである。吉野には杉が多くて、櫻には不向でありませんが、併し吉野は貴い歴史のある地で吉野の名高い點は其處にあります。其他染井吉野、彼岸櫻、枝垂櫻それらの櫻の特徴に依て適當の場所に植ゑなければならぬ。さうして種類の配合に注意して適當に混ぜて植ゑると花が引立ちます。尙又花の咲く時期を調べて植ゑたならば、三月中旬頃から五月の初旬まで約一ヶ月餘も花を見ることが出来る。何故かと云へば、薄寒櫻が三月中旬頃から咲きますから、之を先駆として、それから彼岸櫻、更に枝垂櫻が咲く、次に染井吉野が四月上旬頃から咲く。更に山櫻、里櫻の順序に植ゑ、又山櫻や里櫻でも花期の早い品種から遅い品種に移るやうに植ゑたならば、約一箇月半ばかりの間は絶えず花を見ることが出来ます。小金井などへは段々に電車が通じるやうになりますから、電車線路に沿うて花期の違ふ櫻を植ゑて置くと、四月一杯は花のトンネルの中を通るやうになるだらうと思ひます(下略)。(大正九年)



## 櫻の知識

## 外國の櫻

櫻の種類は、北半球の熱帯以外の國々に分布して居る。尤も此の中には、日本の櫻の如く花の立派なものが少くて、唯植物學上から櫻の種類に屬するものが多い。是等の種類の中で著しいものを舉げると、歐米諸國に普通のチェリーである。これは實を食用にする櫻で、花は餘り見事ではない。尤も獨逸の伯林から遠くないウエルダなどには、此櫻が多く植はつて居て、花の咲き揃つた時は、可なり美しく見られるが、これは周圍に美しい櫻が無いからである。

美しい櫻のある所は、亞細亞の中部から東部である。中部では印度のヒマラヤ山中にあるヒマラヤ櫻が最も著しい。此櫻は海面上二三千尺から五六千尺の高さの間にあつて、森林の内部に大木となつて生えて居る。花の咲いた時は、紅い美しい色で、目立つて見える。日本の櫻の中では、臺灣の緋櫻に稍、似て居るが、併しそれよりも花の色は薄い。

支那には昔は櫻が無いものと思つたが、近世になつて、段々植物の探檢が行はれて來た結果として、多數の櫻が其西部から西南部の方に於て見出された。此中には日本の山櫻に最も近いものもあり、又特別の種類に屬するものもある。何れにしても是等の櫻は、邊鄙の場所に限られて居るのみならず、又多く培養されて居ないから、古來支那では殆んど知られて居なかつた。斯やうに外國にも、櫻の種類は彼處此處に分布して居るが、其花の色や形が餘り美しくないこと、又花が綺麗でも、其生えて居る場所が至つて邊鄙な土地、或は山中に限られて居ることからして、一般にこれを觀賞するやうにはなつて居なかつた。随つて櫻が是等の國々の國民性の上には、殆んど何等の影響も與へて居ない。

## 日本の櫻

日本は櫻の國とも云はれて居るくらゐ櫻が多い。是等の櫻は種類が色々あつて、南は臺灣の緋寒櫻から北は千島の千島櫻に至るまで、其の間に分布して居る櫻の種類は少くない。又朝鮮にも櫻があれば、樺太にもあり、北海道にもあり、其他の島々にもある。

櫻の種類の中で主なるものは、昔から知られて來た彼岸櫻・枝垂櫻並びに山櫻などであるが、此外に又庭園に多く見る所の美しい里櫻がある。又舊幕府の末か明治維新頃に江戸に渡つた所の染井吉野が、今日では東京を始め國內に普通になつて來た。又深山に行くと、丁子櫻・深山櫻みやまなどの稀れなる種類もある。



是等の多くの種類の中で、最も著しいものは山櫻並びに是れから出た所の里櫻である。これは殆んど日本の大部分に見られる所のもので、今日の如く細かく調べて見ると、其中に多数の天然品種が含まれて居ることが分るが、併し總括して見ると、何れも皆山櫻の部類に入るべきものである。此櫻は大きく別けると、白山櫻と紅山櫻の二類になる。白山櫻では花は大概純白であるが、或は少しく桃色を帯びたものもある。花の着方は、一々の天然品種に依つて違ふが、大抵は花の柄が一點から出ないで、一つの主軸の處々から出て、其先端に着いた花が總べて稍、傘形になつて居る。若葉の色は茶色のものが最も多いが、之に次いで紅色・萌黄色又綠色などがある。又花の中には匂の好いものもある。花の形・色・大いさ・花の咲く時期の早晚・枝振・木振などに於ても、それぞれ違ふから、是等の特徴によつて、白山櫻を多くの天然品種に分けることが出来る。自分の調べた所によつても、今まで既に百數十の天然品種を區別したが、細かく調べて見たならば、更にそれ以上の多数に上るであらう。

白山櫻は、日本で西南部から中部並びに東北部の一部にまで分布して居るもので、昔から人が持て囃した櫻は、何れも此櫻に屬するものである。即ち白山櫻は日本の多くの櫻の中で最も普通のもので、櫻を國華として見る時には、先づ第一に白山櫻をこれに宛てなければならぬ。

白山櫻の外に紅山櫻がある。これは日本の中部以北のもので、日光の山中にも大木がある。同地の中禪寺湖の周圍の森林などでは、五月の初頃に花が咲く。又會津から奥州一帯、並びに北海道・樺太に至るまで此櫻が分布して居る。紅山櫻は、花が桃色であるから一見して白山櫻と區別がつく。尙花を細かく調べると、花の着方が多くは傘形になつて居り、其上に花や葉の苞に著しく粘る性質がある。此點は印度のヒマラヤ櫻と一致して居る所で、臺灣の緋寒櫻とは又これによつて明かに區別される。

紅山櫻は東北種であるから、昔の日本で、まだ文化が東方に進まなかつた時代には、此櫻は一般に知られなかつた。今日では此櫻は、日本の中部以西には見られない。北海道へ行くと、札幌の圓山公園には此櫻が多く植ゑてある。紅山櫻にも、亦種々の天然品種が出来て居る。併し白山櫻に較べると、それ程著しくない。

今日の東京に多い染井吉野は、昔は全く知られて居なかつた櫻で、前に述べた如く、幕府の末頃から、江戸に渡つて來たものである。此櫻は近年朝鮮の濟州島で發見されたとしてあるが、此島から直接に江戸に來たや否やは明かでない。此櫻は山櫻と違つて、花と葉とが一緒に出ないで、花が先きに出て、葉が後に出る。又花の柄に多く毛が生えて居ることに依つて普通の山櫻と區別される。尤も山櫻の中にも、花の柄に毛のあるのが無いではないが、染井吉野ほど著しくない。

彼岸櫻・枝垂櫻も亦古くから知られて居る櫻であるが、其中、枝垂櫻は彼岸櫻から變化したものと



で、花の形態を見ても直ちに分かる。是等の櫻には、花の白いものと、紅いものとある。又其他の點に於ても多少の相違がある。

臺灣の緋寒櫻は、臺灣の山中に固有の櫻で、平地には無い。寒中に咲く櫻で、花の色が甚だ赤く、又鐘状になつて居ること著しい。

### 櫻の來歴

日本で櫻が何故に國華として目されて來たか、是れには遠い深い來歴があつて、其根源は恐らく神代の昔に溯るであらう。萬葉集にも櫻の歌があり、又古い頃の歴史や記録にも、櫻に關する事柄が載せてある所を見ると、櫻の觀賞の來歴の古いことが分かる。

昔皇居のあつた難波・志賀・奈良其他畿内の諸地方に於て、山にも野にも櫻の多かつたことは、日本書記や、其他の古い歴史を見ても想像される。今より千百七年の昔、弘仁三年二月 嵯峨天皇が神泉苑に行幸あらせられて、櫻の花を御覽になり御宴を催されたことが日本後記に見えて居るが、これが後世の觀櫻御宴の濫觴であらう。斯やうに古い時代に於て櫻が觀賞された歴史のある所を以て見ると、其頃の皇居の附近は勿論所在に櫻殊に美しい櫻が多かつたことが考へられ、櫻の觀賞が遠き昔に始まつたことが明になる。

昔の時代では無論野生の櫻を賞したもので、今日の如く美しい里櫻などはなかつたであらう。併し段々に櫻が觀賞された結果として、里櫻が次第に多く人家の附近に植ゑられ、花其他の部分に種々の變異が現はれ、次第に品種が殖えて來た。

八重櫻が、いつの頃に出來たか明かでないが、「古の奈良の都の八重櫻」の歌に據つて見ても、古い時代に於て此類の櫻が出來て居たことが考へられる。今より七百二十四年前、建久六年後鳥羽天皇の東大寺供養行幸の時に、興福寺の八重櫻が盛りであつたことが記されてある所を以て見ると、此頃に於て既に八重櫻が彼所此處にあつたのである。兎に角八重櫻の起原は、今から少くとも千餘年の昔の奈良時代にあるらしう。

八重櫻に限らず、一重櫻の美しいもの又一重と八重の混じたものも古い時代に出來たので、花の色極めて美しいもの・輪りんの大きいもの・匂の強いものなどが昔から知れて居る。今日に見る普賢象の如きも、足利時代に出來た櫻で、四五百年前の昔に於て已に見られたものであらう。其他の現時の里櫻の類にも、其歴史の極めて古いものがある。

斯やうに櫻の多く觀賞されて來たのは、何れも前に述べた如く、當時の都となつた地方で、即ち畿内並に其附近の國々である。何故に櫻が斯やうに觀賞されたかといふと、第一此花が到る所に普通で、且春の半ば陽氣の最も好い時に開いて、山野の眺めが如何にも愉快に見える所から、自づか



ら花見を催すやうになつたのである。花見の起つたのは、山野に咲揃つた山櫻の美しい有様が、自づから人の心を浮立たせるからで、全く日本の春の景色の麗なる爲めである。

斯やうに昔から櫻が賞愛せられて培養された結果として、花の部分が變化し、美しい櫻の品種が多く出来て、それが所々に擴がり、方々に植ゑられて、櫻の名所が殖えて來た。平安朝時代には多數の里櫻が出来たが、特に舊幕府時代になつては、江戸に於て多くの櫻が植ゑられ、當時の大名の別業などには、優れた種類が集められた。白河樂翁公の浴恩園の如きは、其中でも著しいものであつた。

尙關西地方に於ては、古代の櫻が多く保存された。是等の櫻は所々の庭園又は神社佛閣の境内などに植ゑられてあつたので、それが櫻の保護者並びに研究者に依つて次第に世間に紹介せられ、著しくなつて來た。舊幕府の時代に於て、櫻の保護者並びに研究者として知られた人の中では松岡玄達の如きは、「櫻品」の著者として著しい。此書は寶暦年間に出版され、當時知られて居た櫻の種類が多く記載されて居る。又櫻の寫生家として名高い寛政時代の三熊花顛の如きは、終生櫻の寫生に努めた人で、其熱心の度が想像される。其外天保時代の坂本浩然の如きは、最も巧みに櫻を描き、且其品種の別を明にしたことに於て功勞のあつた人である。久保櫻顛も亦此頃の人で、庭内に多數の櫻の奇品を集め、又自園の櫻を描寫した。明治時代になつてから、宮崎玉緒の如きは櫻の寫生家且研究者として知られて居る。

昔から櫻を愛して之を保護し、又之を調べた人達の事蹟は、多くは明でないが、前に述べた人々の如きは、知れて居る。今日になつては、無論唯表面的觀察だけでは不十分で、學術的に研究しなければならぬ。斯やうに研究して見ると、山櫻並びに里櫻は、極めて變異性に富んだ植物で、且其變異は向上的で、性質が益々良くなつて行く。變異を現はす植物は他にも少くないが、櫻に於ては最も著しい。

### 櫻の美性

櫻には種々の優れた性質があつて、昔から和歌に詠まれ、俳句に表はされ、或は詩に作られたものもあるが、大抵は理想的で、眞に此花の美性を發揮したものは少い。總べて植物の美性の見方は、單純なる理想からしては分らない。其植物と外圍との關係上から實地に觀察して見なければ、眞の美性は現はれない。彼の本居宣長の

敷島の 大和心を人問はし 朝日に匂ふ山櫻はな

の和歌の如きは、朝日の光りが咲揃つた山櫻に映つた美しい有様を、大和心の心髓に譬へたもので、理想の高尙なることは言ふまでもないが、如何にも能く此櫻の美性を表はして居る。實際朝日の櫻



程美しいものはない。又賀茂眞淵の

かけろうのもゆる春日の山櫻あるかなさかの風にかをれり

の歌は、麗かなる春日の日の真中に山櫻の咲揃つた有様を表はしたので、朝日の櫻の壯觀なるに比して、自ら優美の趣が出て居る。

眞に櫻の美觀を知るには、櫻を單獨に觀るばかりでは十分でない。必ず其背景並びに空の有様等に配合して見なければならぬ。曇つた日では、花の白い色と空の色とが殆ど同じであるから、花が分明でないが、晴れた朝、朝日に映つたときは花の色が一層引立つて見える。殊に山櫻の若葉の赤色又は萌黄色などの爲めに花の美が更に増して來る。又風前の櫻・月夜の櫻・雨中の櫻、其他種々の氣象・天象に配合した見方もあるが、是等は單に特別の場合に過ぎない。櫻の眞の美觀は、本居宣長の和歌にある朝日の櫻の如き、清麗高潔なる有様を現はした所、或は加茂眞淵の春日の櫻で、かけろうの燃ゆるが如きゆつたりした有様を現はしたものに限る。

### 櫻の名所

櫻の名所として一番名高いのが大和の吉野山である。此處の櫻は吉野の山中から採つて來て植ゑたもので、其起原は分らないが極めて古いものであらう。櫻町中納言の如き、保元の頃今より七百六十餘年の昔に於て、吉野の櫻を移して住居の周圍に植ゑたことなどを見ても、此頃既に吉野に櫻が多かつたことが知れる。吉野の櫻の名高くなつたのは文祿三年豊太閤が花見に行つた時で、當時にあつては已に櫻の種々の名木があつたらしい。

此處の櫻は今日に見る所では、何れも近畿地方の白山櫻を代表した純粹の種類に屬して居る。是れが吉野の吉野たる所以で、吉野の櫻の特徴は全く茲にある。純粹の種類といつても、其内には夥しい天然品種があつて、それぞれ形態・性質上の差異がある。全體吉野では、昔から櫻を神木と稱して尅ることを禁じて居たことが貝原益軒の記事にも見えて居る。斯かる原因から同地では櫻を大切に、遠い昔から今日まで植ゑ繼いで來たもので、現今では櫻が數萬本もあらう。是等はすべて實生で生長したものを移し植ゑたのであるから、夥しい天然品種が出來て居る。一目千本の中などにも、多數の變りものがあるが、尙中の千本や、上の千本・奥の千本あたりまで多くの天然品種が見られる。櫻の多いことから見ても、來歴の古いことから考へても、學問上の資料として觀ても、此處の櫻は日本の櫻の代表として貴重なるものであらう。殊に昔の皇居の遺跡として、他の櫻の名所に比して著しい場所である。

吉野とは全く別の意味で、櫻の大切なる名所は武州小金井である。これは元文の頃今から凡そ百八十年前に於て、徳川八代將軍の時代に、土地の代官川崎平右衛門が櫻を移して植ゑたので、櫻が



水毒を消すといふことが、今日同所に遺つて居る碑文の中に記してある。實際櫻が上水の毒を消すや否やは分らないが、恐らく當時櫻を植ゑることに就て、臺命を受ける爲めに、斯やうな理由をつけたのであらう。此處の櫻は昔から吉野種と櫻川種とを集めたと云うて居る如く、今日吉野山で見られるやうな純白の山櫻に屬するものゝ外に、多少花の紅色を帯びた櫻川系統の山櫻が雜つて居る。尤も白い花の方が甚だ多い。此處の櫻の貴いのは、吉野の如き純粹なものでなくて、日本國中の山櫻の中の優れた天然品種を多く集めたことである。それ故に此の點からいへば小金井の櫻は雜駁であるが、併し一ヶ所に斯くも多數の變りものを見ることの出来る處は外には無い。今日水道の兩岸に植ゑてある約千五百本の櫻に就いて、一々調べて見ると、夥しい變異が現はれて居る。木振り・枝振り・花の大きさ・色・匂の有無などに至るまで、それ〴〵變つて居る。小金井の櫻は吉野の櫻と違つて、舊幕時代では江戸に近い爲に、江戸から人々が多く花見に行つたもので、文化二年三月には佐藤一齋が林大學頭と共に觀櫻に出掛けたことがある。當時に於ては交通不便の爲めに時間がかつたから、何れも小金井に一泊して曉の花を見た。現時の如く汽車で雜踏して行くやうな殺風景のものではなかつた。

古い櫻の名所としての常陸の櫻川は久しく忘れて居たが、近年になつてから再び世の中に紹介されて來た。此土地の出身者、石倉翠葉氏が、特に「櫻川考」其他櫻川の事蹟を書いたものを公けにして、此地の名勝を世に知らせたから、近年は次第に人が行くやうになつた。至つて閑靜な所であるから、小金井・吉野の如き雜踏が無い。櫻の數は多くは無いが、併し優れた天然品種がある。殊に其紅色の花と匂の良い花とが、此處の櫻の特色である。又此櫻川に近い雨引山にも、美しい山櫻が多い。

里櫻の隨一の名所としては、東京郊外の江北村がある。櫻のある處は荒川土手の一部の江北村内に屬する所で、明治十八年に當時の村長であつた清水謙吾氏の計畫に依つて、此處に多數の里櫻を植ゑたのが成木して今日に見る立派な並木になつた。然るに近頃河川工事の爲に、其多くの部分が取拂はれることになつたが、幸に有志者の盡力に依つて、残りの部分の櫻を保存することになるであらう。此處の櫻は、古來の里櫻の優れた品種を集めたもので、其中には室町時代の昔に知られたものもあり、又舊幕府時代の大名の庭園に植ゑられたものなども傳はつて居る。

### 櫻の植方

櫻の植方は、櫻の種類に依つて自から違ひがある。山櫻の如く山中に多い櫻で、殊に花の優美なものや若葉の綺麗なものは、之を小高い斜面に植ゑ、背景としては赤松や槭樹もみぢの如き陽氣な樹木が適して居る。杉や樅の如き陰氣な樹木は適當でない。又狭い場所などに並木の如く植ゑるのも面白



くない。東京でいへば、上野公園・芝公園・清水谷公園の如く木立のある中に、所々に山櫻の若葉の色の違つたものや花の色の違つたものを植ゑるが宜しい。

之に反して染井吉野の如きは、更に花部の變異の無い櫻であるが、而かも其咲き揃つた時には、立派であるから、隅田川堤のやうな所に並木として植ゑるのが宜しからう。染井吉野は木立の間などに植ゑる櫻ではない。

彼岸櫻・枝垂櫻の類は大木になるから、狭い場所には適して居ない。是等は大きな庭園、又は公園・佛閣の如き広い場所が良い。並木などには不適當である。

里櫻は、幹が低く又枝も餘り大きくないが、花は極めて立派である。遠方から観るべき櫻でなく、傍によつて一々眺むべき櫻であるから、餘り高い所や木立ちの間などに植ゑるには適して居ない。これも公園の中の或る場所又は土手のやう所へ植ゑるが宜しい。

すべて是等の櫻の中には、花の色・形等が様々であるから、能くそれが配合せられて、一つの品種ばかり集まらないやうに植ゑなければならぬ。荒川堤防には、植ゑた當時は七十八種の櫻があつたとしてある。是等の櫻を巧に配置した爲めに、長い堤防を見物して歩いてゐても變化が限りなく、少しも厭かない。五色櫻といふ如く花の色がそれぞれ變つて居る。

櫻は花の早いものから、晚いものまで花期が約二ヶ月もつゞく。寒櫻は東京で三月中旬頃から咲

出し、下旬より四月上旬になると、彼岸櫻・枝垂櫻が咲き、次いで十日前には染井吉野が咲き、中旬から山櫻が咲き、二十日前後から里櫻が咲く。里櫻の遅いのは五月上旬まで續くから、約二ヶ月の花見が出来る。それ故に色々の櫻を植ゑて順に花見の出来るやうにするが宜しい。今では遠く外國から花見に来る人も少くないから、これ等の觀櫻者の爲めに、成るべく十分に櫻が見られるやうにしたいものである。それには第一東京の内外に於て、適當の場所に適當の櫻を植ゑ着け、能く手を入れ、盛に成木させて、年々美しい花を咲かせるやうにしなければならぬ。櫻の國とも云はれる日本であるから、櫻に就いては篤と研究を施し、十分に保護を加へ、且優れた品種を保存し、併せて櫻に對する高尚なる趣味を普及させ、此花の眞の美性を觀賞することを希望して已まない。

(櫻第一號大正七年)

## 江戸時代以來の櫻

(武藏野會講演會に於て)

江戸時代以來の櫻に就いて述べようと思ふ。江戸時代と云ふと慶長からであるが、それから今日までの櫻に就いて述べる前に、尙其以前の櫻の歴史を大略述べる必要がある。櫻の研究の一つは國文學上からの研究であり、もう一つは植物學的研究である。私の調べるのは勿論植物學の方面であ



るが、併し日本の櫻の研究は單に植物學上のみでは十分でない。どうしても歴史に遡つて調べなければ櫻の段々變化して來たことがわからぬ。それ故に矢張り國史の方にも關係がある。けれどもそれらの研究はまだ不十分であるから、ここでは先づ江戸時代以來の櫻に就いて概略を述べるつもりである。

櫻の歴史に就いては私の考では之を三期に分ける。即ち上古、中古、近古此三つである。

上古とは遠く神代の昔から奈良時代あたりまで、中古とは奈良時代から平安時代に掛けて先づ慶長以前まで、次に近古とは慶長から徳川幕府三百年の間即ち明治維新の頃までを云ふのである。

上古の櫻の歴史は多く不明である。併し上古時代に於ても、日本の櫻が澤山に知られて居たことは、歴史に散見して居り又他の方面からしてもさう考へられる。櫻の根源は餘程古いものであるが、其櫻の中で最も古い歴史を有つて居るのは山櫻である。山櫻は日本の昔の櫻の代表として極めて古く、上古時代に於て既に多くの山櫻が知られて居たらしい。山櫻に次で知れて來たものは里櫻である。里櫻は八重もあれば一重もあり、花の色、大いさなども種々で、今日でいふ櫻の園藝品は殆ど是れである。これが既に上古時代即奈良時代以前に於て出來て居た形跡がある。

それから中古時代に入つて、平安時代には多數の里櫻が出來たやうである。殊に室町時代に於て、今日の里櫻の中の良い品種が既に出來て居たものと思はれる。それから足利氏の末になつて、

京都が兵亂に惱まされて居た時代に於ても、彼處此處に多數の櫻が知られて居たらしい。それが段段に後世に傳はつて來て、近古即慶長以後徳川幕府の出來た後に於て、益々其種類が繁殖して來たのである。近古時代になつては、慶長の頃から當分の間は江戸がまだ一向に開けて居なかつたから随つて櫻の如きも少なかつた。然るに京都の方では昔から繁華であつた爲めに、洛中洛外には種々の櫻が傳はつて來た。それはどういふ所にあつたかといふと、禁苑を始め個人の庭園其外神社、佛閣などにあつたので、其中花が立派で優れて居たものは、誰も愛觀し、自らそれぞれの名が附いた。西行櫻、薄墨櫻、墨染櫻などの如きも古い時代から知れて居る。是等の名の附いたのはいつの頃であつたか明でないが、恐らく中古時代に於て人に知られたものであらう。斯様に優れた櫻が彼處此處にあつたから、段々に之を調べる人が出來て、其の櫻の形狀を記し又圖説するやうになつた。是等の櫻の圖譜解説の古いものは稿本寫本などになつて居たので、多くは散逸して分らなくなつたが、版本となつたものは今日に傳はつて居る。其中でも著るしいのは松岡玄達の「櫻品」である。是れは寶曆八年の出版で、今日から約百八十年前である。「櫻品」の外に「梅品」、「菌品」、「蘭品」、「貝品」など、所謂松岡氏の十品と云うて一々品種を集めたものがある。松岡氏は當時一般の本草學者と違つて、動植物の種類や品種を集めて之を解説することに努めたのは特に記憶すべきことである。即ち動植物を雜多に集めて記載したのでなく、似寄つたものを集めて其品類を明にしたので、



今日の所謂品類學モノクラフヒの基礎を置いたのである。

「櫻品」には櫻が約六十餘り圖說されて居る。その中には山櫻もあるが、里櫻が多い。里櫻に屬するもので名稱の明かなものは約五十種も載つて居るが、其中今日に傳はつて居るものは約半數即二十五種位である。

兎に角松岡氏の著述に依つて當時の櫻の品種の解説が出来て其特徴を後世に傳へることになつたのである。それから後になつて寛政の頃には櫻の愛觀者又研究者として三熊花顛があつた。花顛の描いた櫻の繪又畫帖は今日では稀であるが、偶々之を見ると里櫻の品種が花顛の時代には可なり知れて居たことが分る。是等は多くは京都邊に出來た櫻である。

江戸の方はどうであるかと云ふと、慶長元和以後江戸の町が段々に開けるに隨つて處々に花木が植ゑられ、寛永の頃には櫻が上野其他に植ゑられた。上野の古い櫻殊に枝垂、彼岸の類は維新前では山内の寺院にあつたが今日では殆どなくなり、又は枯れかゝつて來た。寛永以後になつて度々江戸市内、市外に櫻を植ゑたが、武藏の平野にあつたものではない。武藏の山々にも固より櫻がある。今日でも春先きに山中を歩くと、櫻が綺麗に若葉を出して花の咲いて居るのが見える。併し江戸時代に植ゑた櫻は殆ど武藏固有のものではなくて、外から來たものである。大部分は吉野、其他京阪地方から來たもの、又東海道の諸地方から來たもの、又少部分は東北地方から來たものである。

全體江戸時代以來今日の東京の人口を作つて居る所の居住者は、江戸の草分け時代から居たものは甚だ少くて、大抵皆遠方から來たものである。多くは上方あたりから來て、江戸で商業其他の職業を営み繁昌したのである。櫻も矢張さうである。武藏固有の櫻でなくて外から來たのである。武藏の平原は、土質が一體に火山灰のやうで風が吹くと飛び易いざくざくした處が多い。これが又櫻に適して居る。さういふ土質の處には櫻が非常に好い。却つて櫻の根原である上方よりも、關東の平野の方が櫻の發生に宜しいから、それで櫻の中心が段々此方に移つて來た。それから江戸の發展に伴つて方々に櫻を植ゑるやうになり、隅田川の土手を始め、市内では山王其他彼方此方の神社佛寺に植ゑ、又江戸の郊外では飛鳥山、御殿山などに植ゑた。是等の櫻は皆山櫻の品種で、それに多少里櫻が加はつて居たが併しそれは僅である。其他彼岸櫻や枝垂櫻も昔から植ゑられた。

元文の頃今から百八十年前には小金井に櫻が植はつた。是れは武藏の平原に櫻を植ゑた一つの大切なる出來事である。武藏の平原は前に述べた通り櫻に適する處で、其處へ大規模に櫻を植附けたのである。其櫻は主に吉野山の種で、それに東北種が多少加はつて居た。何れも山櫻であるから、至つて單調のやうに思はれるが其實甚變異が多い。小金井の櫻の中には、若葉の色の變つたもの、花の色の變つたもの、葉や花の形の變つたもの、木振り、枝振りの變つたものなど殆ど一本毎に違つて居るやうに見えるものがある。尤も元文の頃に植はつた櫻が悉く今日まで傳はつて居るのでは



ない。後世に至つて度々植ゑ足したのである。其證據には古木と若い木とが混つて居る。

前にも述べた通り寛政の頃までは櫻の研究者が京都に知れて居たが、其後の時代からは江戸に出来た。即ち文化、文政から天保の頃になつては江戸で多數の櫻の品種が知られ、當時の大名の別業などに植ゑられた。随つて是等の櫻を圖説し後世へ傳へることになつた。其の中でも著しいのは白河樂翁公で、其別墅たる浴恩園に優れたる櫻を植ゑ、其他山茶など様々の花卉を集め、是等の品種を一々畫家に描かせた。其寫生圖卷は現に樂翁公の後なる松平子爵家に藏せられて居る。其他市橋星峰公の如きも亦多數の櫻を集めて寫生させた。

當時の江戸へは京都其他處々から櫻が移されたのであるが、それも今日の如く植木屋の手から買はれたのではなく、個人の庭園其他の名木を求めて接木したので、蒐集には容易ならぬ苦心をしたことと思ふ。此頃の江戸には櫻の愛護家が少くなかつたが、其中二、三の例を挙げると、久保櫻顛は青山の長者ヶ丸に居て邸内に櫻を多く植ゑ、古來の品種を集めた。「長者ヶ丸櫻譜」並に「櫻番附」を見ても其品種の多いことが知れる。又坂本浩然も櫻を多く描いた人で、其寫生圖は世に傳はつて居る。浩然は至つて繪が上手で、櫻の外種々の植物の寫生圖を作つた。外にも尙當時の櫻の寫生家があるが此には述べない。

前に述べた市橋星峰公の「花譜」、白河樂翁公の「浴恩園櫻譜」、久保櫻顛の「長者ヶ丸櫻譜」、坂本

浩然の「櫻譜」などを見ると、何れも櫻の品種の豊富で、昔の松岡玄達の「櫻品」などから見れば、數が甚しく殖えて居る。又此時代に於て、屋代弘賢の編輯した「古今要覽稿」の中の櫻の部にも多數の櫻の品種が圖説され、其數が二百五十に達して居る。又文久元年に堀良山が序を書いた「ツヤク要譜」といふ櫻の本には約二百五十許りの櫻が畫かれて居て、櫻の品種が古來多かつたことが分る。此の書にある櫻の畫は「古今要覽稿」のものと同じなものが多く、兩書の畫の根源が同じであつたことが知れる。

前に挙げた櫻は古くから京都邊に傳はつたものゝ外に、尙處々から集められたものであるが、併し又江戸で出来たものも必ずあるに違ひない。何故かといふと、昔から京都邊に知られなかつたものがあるからである。是等は江戸や其他で出来たものであらうが、どうして出来たかといふと、實生で出来たのである。櫻の實を蒔くと段々變つたものが出来る。そこで其中の性質が良く、花が立派で匂の良いものなどを選抜して、一々名を付けて、段々に殖やして行く。さういふ方法に由つて櫻の品種が寛政以後の江戸に殖えて来た。山櫻の方は小金井に多く集められた外に、江戸では飛鳥山、御殿山、向島などにあつたが、小金井ほど著しくなかつた。山櫻は別として、優れた里櫻が殖えて来たことは、今日から觀て注意すべき點である。

兎に角幕末頃の江戸には多數の里櫻が知られてゐたのであるが、それが今日にどれだけ傳はつてゐるかといふと、名のある櫻で確に残つて居るものは、僅に五十餘種に過ぎない。明治維新の頃ま



ではさういふ櫻が大名の邸宅、社寺の境内其他に残つて居たのであるが、維新の際に於て、大名は藩地に引上げる、邸宅の多くは取拂はれて、桑畑、茶畑に變る、社寺其他も時勢の推移に因つて變動があり、立派な庭園は一時殆ど皆荒廢に瀕した。其外東京並に地方の樹木なども此際伐り拂はれたものが多く、櫻も亦自ら無くなつて來た。昔の櫻を愛する人は、櫻の木が衰へない前に、順に接木して良種の絶えないやうに注意して來たもので、今日の普賢象などのやうな古い櫻を調べて見てもわかる。これは慥に室町時代から四百年以上接木によつて傳はつて來たのである。此櫻の花は雌蓋が葉に變つてしまつたから種子が出來ず隨つて實生が出來ない。それで皆接木によつて繁殖して來たのである。此櫻は幸に今日に傳はつて居るが、他には維新以來品種保存の注意を怠つた爲に良い櫻が無くなつたものが少くない。前に述べた樂翁公などの庭園にあつたものも、後には皆行き方が知れなくなつて仕舞つた。

然るに明治十年以後になつて、維新改革の餘波が收まつて、社會の秩序が立つて來るに隨ひ、又昔のものが次第に保存されるやうになつて來た。さういふ時代になつてから、昔からの櫻も段々に集められるやうになつたが、其中にも東京巢鴨の植木屋高木孫右衛門の集めた櫻には一々古來の名が附いてゐた。是等の櫻が何處から來たかは今日では分らないが、恐らくは樂翁公の庭園や長者ヶ丸の櫻園にあつたもので、それが明治十九年荒川の土手に植ゑられた。此櫻が學問上に貴い譯は、小金井の櫻と違つて里櫻の古來の優れた品種に屬して居るからである。是れが若し當時荒川堤に植ゑられなかつたならば、恐らく散りくゞになつてしまつたかも知れぬ。現に植木屋としての高木は今日には無い。

荒川堤の櫻は、小金井の山櫻に比すれば時代が極めて新しい。けれども全く他に類の無い櫻の蒐集で殊に歴史的に古いものが混つて居ることと特別に貴いのである。江戸時代では維新前までの間に多數の里櫻が出來て、處々に植はつて居たが、今日の荒川堤のやうに各種類が多く一ヶ所に纏まつて居なかつた。又白河侯の庭園や長者ヶ丸の庭園にも可なり良く纏まつて植ゑられて居つたにもせよ、個人の庭園であるから公開の場所とは違ふ。殊に大名の庭園の如きは容易に人の入ることが出來なかつたから、一般の人には知られず、隨つて櫻を研究するにも頗る不便であつた。然るに今日では是等の貴重なる生標本を自由に観ることが出來、十分に研究することが出來るやうになつたのは洵に喜ぶべきことである。

畢竟江戸時代に於て、今述べたやうに寛政以後明治維新の頃まで百餘年の間に里櫻が甚多くなつたのは、櫻の歴史の中に最も大切なることである。里櫻が斯様に多くなり品種の殖えたことは、無論篤志家の愛護に因るが、併し又國民性の點から觀ると別に原因がある。此原因とは特に櫻を研究すると云ふのではなく、唯櫻に就いて趣味を有つて居ることから來たのである。櫻を見ると唯何と



なく楽しい面白いといふだけである。此櫻に對する國民一般の趣味が櫻をして日本の國華たらしめ、櫻を愛することが日本の國民性となつたのである。

徳川幕府の時代に於て多數の里櫻が出来て、愛觀されたが、一方には歌人、俳諧師、狂歌師、浮世繪師などが櫻の美性を文字の上に表はしたり又は繪の上に表はすことが普通になつて來た。文化、文政、天保、嘉永、安政の頃の文學書を見ると、櫻の和歌のみを集めたものが澤山ある。殊に多いのは狂歌で、有名狂歌師によつて讀まれたもの、又他人の作を集めたものが多い。是等の狂歌などの中には一々の櫻の品種に就いて詠んだものがある。即普賢象、楊貴妃、曙櫻、王昭君など、それ／＼歌に詠まれて居り又其圖が描いてある。併し當時の歌人、狂歌師などがそれだけの櫻を實際に知つて居たか疑はしい。一々實物を見て詠んだのではあるまい。唯寫生家の作つた櫻の繪に就いて詠んだのであらう。當時は實物は容易に得ることが出来なかつたので今日の如く荒川堤に往つて誰でも櫻の品種を見られるやうには行かなかつた。古來の名花は皆それぞれの庭に祕藏して居たので、例へば楊貴妃といふ櫻でも、御車還といふ櫻でも實物を見たものは甚だ少なかつたであらう。それで是等の櫻の繪に就いて歌を詠み、俳句を作つても單に名の上から想像して詠むのであるから、固より一々の櫻の特徴は表はれない。併し兎に角櫻のそれ／＼の品種に就いて詠んだといふことは今日の時代には無い。明治維新後に於て若くは大正の今日に於て、一々里櫻の品種の歌、狂歌、又

は俳句を作る人は殆どあるまい。然るに昔はそれが盛であつた。それ故に櫻の色々の品種の名が普通に知られ、例へば普賢象といへば人が知つて居り、良い櫻であると想像する。又御車還といふも同様である。それが今日では普賢象といふも御車還といふも何であるか知らない。實物は容易に見られるにしても、是等の櫻の名は更に知れて居ない。

昔の浮世繪師などにも櫻の種類を描いたものがあつた。例へば玉蘭齋貞秀の如きは浮世繪師の中でも一風變つた人で、人物畫は多く描かない。農業博物地理などに關した畫が多い。此人の畫いたものに櫻の畫がある。「萬象寫真圖譜」といふ書に載つて居る。尤も此櫻の畫は玉蘭齋の寫生ではなく他の圖をそつくり取つたものである。前に述べた「古今要覽稿」の中の櫻の部にある畫が用ひられて居る。要するに櫻に對する文學的趣味は江戸時代に於ては極めて普通であつたので、少數の人々が櫻を専門的に調べた外に、世間一般には櫻の美性を賞揚するに様々の方法によつたのである。斯様に櫻に對する觀念は極めて通俗的になつたから、櫻の賞愛が國民性として益々深くなつて來た。

江戸時代の櫻の變遷に就ては大略前に述べたのである。江戸の市中市外又もつと遠い郊外即ち武藏野に於ても其古い時代の櫻が彼處此處に残つて居たことが知れて居る。例へば上野に名高い秋色櫻がある。今日でも後繼ぎはあるが、昔の秋色櫻とは全く違ふ。昔の秋色櫻が枯れない中に接木さへして置けば、本當のものが今日に傳はることが出来たが、今日の如く枯れた後に他の櫻を持つて



來て、唯來歴を知らせる爲に秋色櫻の名を附けて置くのは意味が無い。澁谷の金王櫻も現に今日にあるが、昔のものとは違ふやうである。それから武藏野の櫻としては古い木が彼處此處に残つて居るが、其中でも最も古いものは江戸時代以前のもので、彼の埼玉縣桶川在の石戸の蒲櫻である。此の櫻は蒲の冠者範頼時代からのものとしての傳説があり、馬琴の「玄同放言」に出てゐるので著しい。同書には此の櫻の立派な寫生畫がある。渡邊華山の描いたので、馬琴自身は往つて見なかつた。去る大正五年の春、私も往つて見たが、「玄同放言」に出て居る繪と今日の状態とは殆ど一致して居る。根元から出て居る株の中で、一本枯れた爲めに株の数が少くなつたゞけで、其外はそつくり残つて居る。此櫻の傍の板碑の中に貞永二年の年號が彫んであるものがある。兎に角此櫻は六百餘年を経たものとして考へられる。是れが武藏の平原にある古代の櫻の残りものゝ中で最も著しいものであらうと思ふ。併し武藏野は前に述べた通り、昔から固有の櫻が多く此處にあつたのでなく、大抵皆外から移して來たのである。夫故武藏野としては櫻の古い歴史は無い。比較的後世になつて京阪地方の櫻を植ゑて、是れが益々殖ゑたのである。恰も江戸の町が他國から集まつて來た人に依つて出來て、それが發展したやうに、遠方から來た櫻が武藏野の地味に適して、益々繁殖して來たのである。將來に於ても種々の櫻が益々殖ゑて行くであらうと思ふ。殊に近頃櫻の保護を講ずるやうになつて、櫻の會が出来、又櫻に就いて特に趣味を有つた人が出來たから、昔の良い品種を保存する外に、更に新に良種を作ることが行はれるであらう。

私の希望する所は、武藏の平原殊に東京を中心として、其周圍に於て櫻が將來益々多くなり、花の都、花の武藏野といふやうにしたいことである。小金井の櫻、荒川堤の櫻の如きは既に出來てゐるが、其外にも彼方此方に櫻の名所を拵へたい。此飯能<sup>はんのう</sup>地方に於ても、矢張り同じやうに櫻を植ゑて、新に武藏野の一つの名所を作つたならば、此土地へ多くの人が來て觀るやうになり、尙益々土地が繁昌するであらうと思ふ。此處には天覽山といふ立派な山があつて、赤松が翠色滴たる許りに全山を蔽うて、如何にも立派な景色である。あゝいふ好い背景のある處には、櫻が必ず適するであらう。併し松の間に植ゑるには山櫻に限るので、里櫻では引立たない。嵐山の櫻は若葉の綺麗なのが亦一つの眺めになつて居るが、天覽山に櫻を植ゑるにしても、此點に注意して、若葉の赤、茶、萌黄など色々の天然品種を取り交ぜて植ゑるが宜しい。而して一ヶ所に集めないで、彼所此所に植ゑたならば、必ず風致を添へるであらう。若し里櫻を植ゑるならば、平地へ並木のやうに植ゑる方が宜しい。山には必ず山櫻に限る。日本は櫻の國であり、日本の國華は櫻である。外國に往つても日本といへば櫻の立派に咲く國といふことが浮んで來る。これは我々が外國に往つて外國の景色を見て起す感想のみではない、外國人も同様の感想を有つて居る。現に外國人は日本の櫻を觀て皆さういつて居る。櫻の本國たる日本に於て、殊に帝都の周圍にある武藏野は、地味が最も櫻に適して



居るから、益々櫻の栽植に努め、而して立派な花を咲かせて、本居宣長の和歌にある「朝日に匂ふ山櫻」といふやうな大和心の心髓を發揮させたいと思ふのである。

(附記) 江戸時代の末期に今日の染井吉野が植ゑられて次第に繁殖して來たが、此櫻は古代からの櫻の歴史に關係がないから此處では述べなかつた。(櫻第二號大正八年)

### 科學より見たる日本の櫻

(大正九年櫻の會講演會に於て)

今日は植物學上から日本の櫻の話を簡單にしようと思ひます。日本の櫻の種類はどの位あるかと云ふと、植物學上から云ふ種類と世間で云ふ種類とは少し違ふ。植物學上の種類は嚴格に云ふので、世間で云ふ種類は植木屋などが拵へた少し變つたものまで種類と云つて居ます。嚴格の意味で日本には十數種の櫻があります。其一々の種類の中に又色々の變種、即ち種類と云ふよりも比較的些細の點で區別さるべきものがある。又變種の中には更に變形又は品種、天然品種と云つてモット僅の差別のあるものがある。さう云ふものまでも舉げると數百の多さに達して居ます。併し主な櫻の植物學上の種類は山櫻・里櫻・彼岸櫻・染井吉野櫻、其他緋寒櫻・富士櫻・千島櫻等である。是等は先づ日本の櫻の中で代表的のものであります。此各の櫻に就ても今申した通り其中に種々の變種や變形があります。殊に園藝品には多數の變り物が出來て居ます。

日本の櫻を科學上から観るとどう云ふ特色があるかと云ふことに就て簡單に御話しますと、日本には櫻の種類が多い、日本程櫻の種類が多い國は他にはありません。言葉を換へて言へば日本は地球上に於ての櫻の分布の中心である。中心が亞細亞の極東に位して居ると云ふことは面白い。又管に種類の多いばかりでなく、著しい種類が日本にある。是等の事柄は後に御話致します。

次には美しい櫻が日本には澤山あります。外國の櫻には美しいものが甚少い。斯う云ふ點も日本の櫻の特色である。もう一つ最も大切な特色があります。それは日本の櫻には自然に變化する性質が多いことである。即ち種子を蒔くか、又は天然に種子が落ちて生えると、其生えたものが親の櫻よりも多少違つて來る。斯う云ふ特性がある。夫に就て注意すべきことは、一般に園藝品などでは種子から生えた所の實生は親植物に劣るものが多い。殊に美しい花や良い果實を生ずるものは、實生では兎角親の通りのものが出來ないから接木をしたり根分をしたりして繁殖させます。然るに櫻は其等のものと違つて親木よりも一層良い性質の木が出来る。即ち實生の櫻は親木の櫻よりも花の性質が良くなる傾向がある。斯う云ふ特色があります。是は日本の櫻全體に就て云ふことではありませんが、是から御話する山櫻の如きは最も其性質が著しい。言葉を換へて言へば向上的性質即ち段々良い方へ進む性質を有つて居ます。是は誠に櫻の貴い性質で、日本の櫻が外國の櫻に對して誇



るべき特徴である。

もう一つ日本の櫻に就ての特徴は、日本の櫻は非常に古い歴史を有つて居る。即ち大昔以來の歴史があるから随つて櫻と國民性とは深い關係が生じてゐる。尤も此處では此點に涉らずに唯科學上から觀た櫻に就て御話します。

櫻の中で最も著しいものは山櫻で、櫻の中の櫻と謂ふべきものである。山櫻とは元山に生えて居るから斯く名づけたのでありますが、併し今日では山櫻を植物學上の種類と見ます。山にあるから山櫻と云ふのではなく、里に植ゑても山櫻は山櫻であります。一口に山櫻と云うと簡單なやうであります。山櫻の中には多數の變り物があります。それを大きく別けると白山櫻と紅山櫻べにと云ふが、白山櫻は日本の中部から南部に擴がつて居り、紅山櫻は中央山脈から奥羽地方・北海道などに亘つて居ます。双方とも山櫻であります。白山櫻では花が白い、尤も多少紅色を帯びたものもあります。其外に判然たる特徴があつて、紅山櫻と區別が出来る。白山櫻の花の柄は一點から出ずに、一本の總軸があつて、處々から枝を分つて居ります。又苞が粘らない。それから若葉の色が種々で、赤芽・茶芽・黄芽——黄芽と云つても眞黄色ではなく、萌黄のやうな黄色であります。——又青芽と云うて綠色であります。斯様に若葉の色が様々になつて居る。白山櫻は最も變異が多く、花の着方、花梗の長さ、一つ一つの花の大きさ、花瓣の形、其外雄蕊の數、雌蕊の長さなどそれぞれ差異がある。又花に匂のあるものもあつて、花の咲いてゐる傍へ、行くとよい匂を感じます。又或る花では花瓣の數が五枚でなく、六枚・七枚乃至十枚ぐらゐるまでになつてゐるのがある、さう云ふ變り物が小金井邊にもある。斯様に白山櫻には變異の範圍が多い。

白山櫻は日本の國華としての櫻を代表して居ます。昔の日本歴史に出て居るのは皆白山櫻で、關西地方殊に吉野山には最も多い。吉野の櫻は京都の嵐山に植ゑられたり、其他古來京阪地方にも植ゑられた。つまり吉野の山櫻は純然たる白山櫻で國華を代表する種類であります。

紅山櫻は東北地方に多い。東京に近い所では日光・會津等で、日光では中禪寺湖の周圍に多く見ます。此櫻は大きな木になり、花の色が赤いから非常に目立つ。日光などでは五月中旬頃に花が咲きます。奥州の方に行くと、あちこちの山や谷に此櫻がある。青森や弘前邊では平地にも處々に見られる。北海道へ渡ると、紅山櫻は全島の山々に自生して居ます。併し最も多く植ゑられて居る處は札幌の郊外圓山神社の境内で、立派に成木して居ます。紅山櫻の特徴は第一花が赤い。尤も濃淡の區別はある。花の形や大きさも多少違ひ、普通花梗が蝙蝠傘のやうに殆ど一處から出て居ます。次に苞が粘る。是れも著しい特徴である。此紅山櫻は日本ばかりでなく、樺太にもあり、黒龍江地方にもあります。

次は里櫻、これは元里にあるから山櫻に對して里櫻と云ひましたが、今日では植物學上の種類と



見るやうになりました。里櫻にどう云ふ特徴があるかと云ふと、花が大きく、花瓣が概ね多く、色も濃く、又花の鋸齒が著しく、木振枝振も變つてゐる。里櫻の出來た歴史は明には分りませぬが、非常に古い時代にもあつたと思はれる。併し最も盛に出來たのは平安朝から江戸時代である。櫻には大抵先天的變異性があるから、今山櫻の種子を蒔くと其特性が現はれ次第に向上する傾がある。其進み方は色々であるが、花に就て言へば一重であつたものが八重になり、又八重にならないでも一重の大輪の花になる。山櫻は大抵六七分位な直徑を有つて居ますが、それが里櫻の場合では一層著しく一寸五分位にもなる。一方には一重と八重と混つたものが出来る。又一重の中に旗のやうな花瓣が出るものがある。夫を旗瓣と云ふ。更に進んで來ると、全體が完全な八重になる。普通八重と云ふのは旗瓣が出ずに完全な花瓣に變り且大きくなつたのである。花瓣の排列が二重になると十枚、三重になると十五枚といふやうに五の數で殖えて行くのが規則正しいもので、中には必しもさうばかりではない。次は色であります、普通白が原色であります、それから淡紅になり、濃紅になり、赤紫になり、又全體がボンヤリ赤くなつたり又は斑が入るやうになります。中には黄色を帯びたものや、それに赤が加つて萌黄と赤と黄色と三色の混りになるのがあります。斯様に色の變異も様々になる。其外花の柄の長さが増して、長いになると全體の花序の長さが三四寸にも延びて來ます。さうして花の着方も七八輪以上になり一所に集まる。其外花の匂の強いものが出來て居

ます。又枝が眞直に上に延びたり、枝垂になつたり様々な變異が現はれて來ます。斯様に變つたものは元には戻りませぬ。尤も榮養不良の時などは小さくなりますが、併し全體から言へば一旦變つた性質は遺傳して行つて益々良くなることも悪くはならない。

里櫻は偶然變異によつて元は山櫻から出來て、さうして遂に特殊の種類になつて來たものと思はれる。山櫻から變つたと云つても大抵普通の山櫻即ち白山櫻から出たものである。白山櫻は古い時代から培養されて來たのみならず元來先天性變異に富んでゐるため、著しい進化を遂げたとしても決して不思議ではない。

次に彼岸櫻は東京では上野に多い。動物園の前や清水堂邊にある櫻の大本は皆彼岸櫻か又は枝垂櫻である。彼岸櫻には小さな花が咲きます。さうして花の柄と萼には毛がある。又花の柄が一點から出て居ます。彼岸櫻には白彼岸・薄紅彼岸・紅彼岸・八重彼岸などがあります。是れは何れも普通の彼岸櫻の一群であります、之とは別の彼岸性の櫻（曙彼岸）もあります。枝垂櫻は彼岸櫻から出たもので、花の形や其他の特徴に於ても彼岸櫻と同じで、唯枝の位置が變つて來て下に垂れる。此枝垂も遺傳して種子を蒔けば枝垂が出ます。枝垂櫻には又白枝垂・薄紅枝垂・紅枝垂・八重枝垂などがあつて、彼岸櫻と同じやうに變つて居ます。

次に染井吉野、是は東京に最も多い。東京市中、市外の櫻は八九分通り是であつて、植物學上一



つの種類であります。此櫻が近來朝鮮濟州島の山林に自生があると言はれますが、併し東京へ來た徑路は分らない。染井吉野と云ふ名は染井の植木屋が育て、繁殖したと云ふ所から附けられたので、普通の吉野櫻即ち山櫻と區別する爲である。染井吉野の培養されたのは明治維新の頃で、歴史が新しい。昔の時代には全く知れてなかつた。何故此櫻が斯様に擴がつたかと云ふと、繁殖力が強く、枝を挿して置くと發生する。又實生でも出来る。誠に強い櫻である。此櫻は花の咲く時には葉がまだ出ないで木全體が花で被はれ、如何にも立派であります。併し山櫻のやうに若葉の色の變異が無くして單調である。併し咲き揃つた所は壯觀であるから、世の嗜好に適したと見えて盛に植ゑられました。今日では東京市の内外は勿論、中仙道の熊谷土手其他にも多く植ゑられ、遠くは北海道函館の公園などにも一面に植はつて居ます。其外關西地方にもある。此櫻は花の柄に密毛があり、又他の點に於ても山櫻と違つてゐます。

其外富士櫻・緋寒櫻・千島櫻等があります。富士櫻は富士山麓から箱根などに自生し、花は小さいが、花部に種々の變異が現れてゐます。緋寒櫻は東京では稀に見ます。臺灣の阿里山中などに自生がある。併し昔から薩摩へ渡つて來たもので、鹿兒島などでは舊正月に咲きますから元日櫻と云ひました。此櫻は小石川植物園にもあります。花の色は甚赤く、さうして花の形は釣鐘のやうになつて居て十分に開かない。此緋寒櫻とは別物で白寒櫻・薄寒櫻などがある。是れは三月中旬頃咲く

櫻で、此中薄寒櫻は荒川の堤防にもあります。

千島櫻は日本の極北の櫻で、千島に自生して居る。同地方は夏が短く冬が長い。さうして氣候の極端な所であるから十分に延びない。大抵灌木状か又は小さい木で、花も小さい。此櫻にも變異が多少あつて、花の白いもの、淡紅色のものなどがあり、又花に匂のあるものもある。

前に述べた通り日本には南は臺灣、北は千島樺太にまで櫻がある。是等は各極南と極北の櫻であります。其中間の本州には優美なる白山櫻が多く、其外に尙色々の櫻がある。又里には美しい里櫻があつて、到る所櫻を見ることが出来る。斯様に日本には櫻が多いが、尤も外國にも櫻はないではない。即ち印度にもあり又支那の西部地方にも近世になつて大分發見された。此地方の櫻は日本の山櫻に稍似て居ますが、併し培養されて居るのでなくて、山中に生えて居る。概して一般に知れて居ない。さうして花の性質等もまだ十分に觀察されてない。印度の櫻はヒマラヤにあります。其中ヒマラヤ櫻と稱する櫻が日本の紅山櫻に幾らか似た點がある。即ち花の赤いこと、それから苞の粘ばることである。是等が外國にある櫻の中で日本の櫻に近いものであります。其外では日本の櫻のやうな美しいのは外國にはありませぬ。歐羅巴などで見る所のチェリーは全く種類が違ひ、花は見るに足らぬ。花としての最も美しい櫻は獨日本に於て見るのみである。

何故日本に櫻が多いかと云ふと、それは非常に古い時代から發達して來たからである。無論櫻が



日本の風土に適して居るとは言へ、櫻の原種が遠く地質學時代から續いて來てそれが今日に傳り、益々發達したもので、其淵源は甚遠い。日本が櫻の國と言はれるのは日本には開闢以來全國に櫻があるのみならず、優れたる種類や品種が多數に出來たからである。

日本の櫻の數あるものの中で、染井吉野の如きは今御話した通り比較的新しい櫻で、其上餘り變異がない。此櫻には八重や色變りが見られない。然るに山櫻や里櫻には夥しい變異があります。其譯は是等の櫻には先天的變異の性質があるからで、殊に里櫻の如きは其培養の歴史が非常に長い。其長い間に變つたものは殆んど算へることが出來ない程ある。併し其中の最も良い物が後世に遺つて來た。今日荒川に見る所の里櫻の品種は約五十種もありますが、是等は主に徳川幕府三百年の間に出來たものであるが、尤も其前即ち足利時代から傳はつたものもあります。さう云ふ古い櫻が何故今日まで遺つて來たかと云ふと、良い櫻は大事にされるからである。普通の櫻は打棄て、置くから、遂に其系統が盡きて滅びて仕舞ふ。良い櫻は接木にしたり、挿木にしたりして續けて來た。是等の櫻には何れも數百年の歴史がある。植物學上から見ると今日の良い里櫻には何れも著しい特徴があつて、實生試験をして見ると其性質が遺傳するのみならず、一方向的傾向に依つて一層良くなつて來る。少し匂がありさうな櫻は實生によつて一層匂が強くなり、少し八重になりかゝつた櫻は同様に八重が一層増して來る。又色が着いたものはそれが更に濃厚になる。是等の點は科學的に

非常に面白い。併し櫻に就てさう云ふ試験を行ふには天然の方法に依ると十年も懸つて僅に第一代の結果が出る。それから第二代・第三代と續けて行くには三十年も懸る譯で、人の一生の大なる部分<sup>ぶん</sup>がそれが爲に費される。併しながら天然の方法でなく、接木の法で早く花を咲かせるか、又は他の方法で開花を促すときは五年ぐらいで第一代の結果が出る。即ち前よりも約半分の年數を短縮することが出来る。斯様な方法に依つて私は試験して居ます。今までの試験年數は十五年ぐらいになります。中々まだ十分な結果が出ませぬ。併し年々新しい結果が出つゝありますから、それを樂んで居ます。

茲に紅山櫻と白山櫻の變異の實例として二三のものを挙げると、紅櫻<sup>くわんざくら</sup>は紅山櫻に屬する一の變形で、若葉も花も赤く美しい。又白山櫻に屬するものでは、薄毛櫻は黄芽で、花の柄に薄い毛がある、是は櫻川にあります。鄙櫻<sup>ひなざくら</sup>は茶芽で鎌倉邊の山中に見ます。小川匂は小金井の小川水衛所附近にある匂櫻。二輪櫻は殆ど二輪づゝ花が着き、鍾馗櫻は赤芽の美しい櫻です。小金井へ行つて見ると、多數の山櫻の中には若葉の色・花の形・大いさ其他の點で互に區別されるものが多い。櫻の科學的に面白い所はかやうに變異の範圍が広いことである。櫻川へ行つても、嵐山へ行つても同様で、すべて山櫻の多數生えて居る所へ行くと皆斯様な變異が現れて居る。それに反して染井吉野では、どれを見ても皆一様で研究の興味が無い。



大體に於て山櫻の科學上から觀た變異性と其他の日本の櫻の特徴を述べましたが、尙終りに申して置きたいことは櫻の保護であります。今日のやうな状態にして置くといふ櫻の系統は殆んどなくなつてしまふ虞がある。昔は櫻を保護した有力な人があつた。例へば白河樂翁公の如きは其庭園に當時の櫻の珍しい品種を集めて植ゑ、又それを繪に描かせて、後世に傳へました。是が今日吾々が櫻に就て研究する所の貴重な資料になつて居る。樂翁公其他の庭園にあつた櫻の品種が後年何處に行つたか分りませぬが、或は今日荒川に見る所の里櫻の淵源ともなつて居るかと思はれる。昔の時代はさう云ふ有力な大名や篤志家が櫻を保護した爲に良い種類が傳はつて來た。今日では何うであるかと云ふと總べて解放的になつて、從て殆ど櫻を保護することをしない。天然に委せて置くから櫻の木が傷み、櫻の老樹大木が無くなり、又櫻の良い品種が絶える。櫻の歴史から見ても遺憾であり、國華として見た上からも遺憾であり、又一般科學的研究から見ても遺憾であります。何うかして櫻の良い品種の盡さないやうにしたいと思ひます。今日の小金井の櫻や荒川の櫻は此點からして誠に貴重なものであります。小金井の櫻は主に吉野から移したもので、舊幕府中期頃から出來ました。彼所へ行くといふ山櫻の代表的天種品種を見ることが出來ます。斯様な優れた多數の山櫻は再び容易に集めることが出來ないから大事にして保存したい。即ち天念紀念物として遺したい。又名勝としても大切な場所である。今日政府では史蹟・名勝・天然紀念物の保存を行ふことになりまし

て、内務省の事業として實行されて居ることは誠に結構である。それに就て吾々の希望するのは小金井の山櫻・荒川の里櫻・櫻川の上野山・嵐山の櫻は言ふに及ばず、各地の櫻の名所を完全に保存したい。小石川植物園には荒川の里櫻が一通り保存されて居り、又徳川頼倫侯の大磯の別邸其他にも是等の品種が植ゑられて居ますが、併し將來安全に保存するには天然紀念物として指定される必要がある。

荒川の櫻の如きは今日公衆が自由に見られる。昔の大名の庭園のやうに見る事が出來なかつたものと違つて、誰でも行つて見られることは誠に便利である。是が明治大正の御世の有難い所でありませんが、併し餘り解放し過て居る爲に、枝を折られたり、木が傷つけられたりして良い品種が絶える危険がある。是等の櫻は日本の寶であるから大事にして愛護するやうにしたい。さうするには唯少數の人の考へばかりでなく、一般公衆が此觀念を有つやうにならなければならぬと思ひます。

(櫻第三號大正九年)



## 櫻に就て

(大正十年春岩手縣黒澤尻和賀展勝會に於ける講話の概要)

櫻に就いては種々の方面からお話が出来る。つまり科學上、文學上、歴史上等からお話出来るのであるが、私は植物學上よりお話をする。櫻は日本の花のみならず、世界の花として、單に日本の學者ばかりでなく、世界の學者も學問的に研究する時代になつて來てゐる。そこで吾々日本人としては、今日の知識を以て充分に研究せねばならぬ。

一體櫻には多くの種類があるが、其中の主なるものは山櫻である。

山櫻は大昔から知られてゐるもので、皇居が畿内にあつた頃、周圍の山々に美しい此櫻があつて、ことは勿論その他日本全國至る所に自生してゐたのである。本居宣長翁の「敷島の大和心を人とはし朝日にほふ山さくららはな」の歌、茶道の大家小堀遠州の「心ある人に見せはや山里のおのつからなる花のけしきを」の歌などで見る如く山櫻には自然の優美なる性質がある點で著しい。山櫻は西は九州地方より、北は奥羽邊から千島樺太まで廣く分布してゐて、そのうちに異つた種類や天然品種がある。山櫻の花は大抵純白なものであるが、時としては淡紅のものもあり、又紅色の濃いものもある。又若葉の色は赤・茶・萌黄・緑などがあり、其他花の形・花瓣の大きさ・開花期なども違

つてゐるものがある。又香の良いもの、八重になりかゝつたものなどがある。即ち山櫻で十瓣以上になつてゐるものがある。一體山櫻は變異に富むものであるから、斯様に多數の變り物が出来て居る。山櫻を學問上から二つに大分して、白山櫻と紅山櫻とする。其中、白山櫻は日本の大部分に分布してゐる。紅山櫻は之に反し、本邦中部以北即ち北海道千島樺太にある。總べて紅山櫻は古來邊鄙な地方にあつたために、舊時は殆ど知られてゐなかつた。古くから知られてゐたのは白山櫻で、殊に其名所として著しい所は吉野山である。吉野山の櫻は昔の歴史に有名で、奈良朝以前から續いて來たものと考へられる。

吉野の櫻は昔からその山奥から移し植ゑたもので、昔は神木として大切に居たことは、元祿年間貝原益軒の同處へ往つたときの記事にも見えてゐる。吉野は日本一の櫻の名所で、吉野へ行かねば櫻の觀念が得られぬとさへ云はれて居た。菅原桃花園の狂歌に「塵ひとつなさいにしへはみよしのの花そつもりて山となりけむ」とあるは能くこの山の櫻の多いことを表はして居る。吉野の櫻とは全く別で、染井吉野といふものがある。主に東京にあるが、これは大和の吉野山の櫻とは全然別種であつて、歴史上に何等の縁故がない。維新後になつて次第に繁殖して來たもので、今は東京をはじめ、全國一圓に見られるやうになつた。次は小金井の櫻で、これは白山櫻である。舊幕時代に武藏野の平原に水道を通じたとき、櫻は水の毒を消すといふ理由で、時の代官川崎平右衛門が幕



府の許によつて山櫻をその堤上に植ゑた。これは實に舊幕時代の櫻の紀念物として著しいものである。次は謠曲で名高い櫻川——常陸の筑波山脈の北の方にあるところで、主に白山櫻であるが、色々の天然品種殊で花の色の美しく、香の良いものがある。

日本は土地によつて多少のかはりはあるが、大抵山櫻で飾られてある。さうして國華としての櫻は白山櫻の謂で、色は純白で一點の俗氣がなく、實に清淨潔白高尙優美で、美しいこと限りがない。本居翁が其の朝日に映發した所を詠んだのは、此櫻の最も優美なる特徴をとつたのである、古人が賞讚したのもそこにある。櫻はその固有の天性として次第に性質が良くなり、發達して來る、即ち進化し向上する植物である。植物の種類によると退化して行くものもあるが、櫻はさうではない。一重櫻の五瓣のものゝ種子を蒔いて六七枚の花弁を見るやうになることは往々ある。それから遂には八重になり、十五枚ぐらゐになつたのも少くない。雷に花瓣が多くなる許りでなく、花が大きくなり、花の柄が長くなり、香が強くなるといふやうに、だんだんに性質が發達して來る。我が日本の國運の隆盛と一致するもので誠に目度い植物である。尙一つは壽命の長いことである、深山に自生したものは害せられることがないから特に長命である。富士の裾野の上井出に頼朝の下馬櫻といふのがあつて、周圍は目通り二丈餘もあり、數百年も經てゐると思はれる。自分の見た山櫻の中では最も大きいものである、一に駒止の櫻ともいふ。

櫻は昔は山野に自生したものを賞美してゐたが、後には里に移植して眺める様になつた。これは奈良時代から始り、平安時代になつてからは禁裏に植ゑられ、尙公卿の庭園や神社佛閣に植ゑられた。此時代に於て優れた櫻が吉野其他から京都へ移され、其中の著しいものには特別の名が附き、それが後世に傳はつたのである。是等の名櫻には山櫻もあり、又里櫻もあつたに違ひない。山櫻も里に植ゑられて、肥料を與へ手入をよくすると、だん／＼發生がよくなり。花も大きく、色もよく、木振り、枝振りもよくなり、花の香まで強くなる傾向がある。奈良時代には、既に八重櫻があつたらしいが、それが平安時代に至つて美しい品種の數も多くなり、江戸幕府になつてからは更に殖えて、今日遺つて居るやうな見事な櫻が出來た。これ等はすべて里櫻である。

里櫻は園藝品としては古い昔からあつたとしても、悪いものは人が賞美しないから、自滅するこゝとなり、よい品種だけが今までに残つて來た。元祿の頃には里櫻の品種が三四十もあつたやうであるが、白川樂翁公時代になつては二三百になつた。此時代は里櫻の全盛時代といつてよい。樂翁公の別邸である築地の浴恩園には多數の里櫻を植ゑられたが、當時江戸の市中でも幕臣其他が名櫻を植ゑたことが知れて居る。斯くて文化から天保以降も櫻の培養は續いたが明治維新の後大名の邸宅がなくなつてから、古來の園中にあつた名櫻も取拂はれた。併し幸に明治の中期に荒川の櫻堤が出來たため里櫻の品種が保存された。すべて里櫻は實生でなく接木で繁殖させる。昔から傳はつた



良い櫻は皆古人の苦心になつたのである。吾々も今後の研究によつて益々良い品種を造つて、後世に傳へて行かなければならぬ。

彼岸櫻は大木になり白彼岸・紅彼岸・薄紅彼岸等がある。彼岸櫻の枝が垂れると枝垂櫻になる。つまり枝垂櫻は彼岸櫻の變種である。花により白枝垂・紅枝垂・薄紅枝垂・八重枝垂などがある。仙臺の榴岡には彼岸櫻と枝垂櫻とが多い。京都の祇園にあるものは白枝垂である。甲州北巨摩郡山高の實相寺にある神代櫻も彼岸櫻で、幹の目通周圍は三丈五尺もあり、樹齡が甚だ古い。彼岸櫻の外に彼岸性の櫻としては尙曙彼岸と云ふものがある。木は小さいが花は比較的大きく咲揃つたときは美しい。

臺灣には緋寒櫻といふのがある。阿里山の中腹に生えて名の如くに眞紅で美しい。帝國の櫻の種類としては最も花の色の赤いものである。其他千島櫻・富士櫻・深山櫻・丁子櫻・上水櫻・犬櫻などいふものもある。

外國にも櫻はあるが、日本の櫻ほど美しい櫻はない。日本の櫻が多種で多數な點では世界一である。日本は實に隅々まで美しい櫻で飾られて居る。

外國の櫻について少し述べようと思ふ。今まで無いといはれた支那にも四川地方などには櫻が生えて居る。僻邊の土地であるから、同國の人でさへ昔から櫻はないと思つて居た。舊幕時代に支那

の使節が來た時、櫻を見せたことがあるが、こんな花はないといふのが例であつた。印度では櫻はヒマラヤ山中に限られ、それも東南部の四五千尺位の所に美しい櫻がある。歐羅巴には櫻といつてもチェリーが普通で、これは日本の櫻とは異り、實は大きいが見るに足らぬ。日本の櫻は花は美しいが、實が小さいから、改良して實も立派にして、花と實と兩得にしたいといふ人があるが、それは六ツかしい。日本の櫻はチェリーとは種類が違ひ、其上に美しい花を開く爲に精力を集中してゐるので、それが即日本の櫻の特徴である。此上に良い實を得ることは望まれない。

次に櫻はどう植ゑたらいいかといふと、染井吉野の如きは平坦な地でなくてはならない。學校の庭とか路傍に適してゐるが、純粹の山櫻になると見上げる山に植ゑて、さうして又芽色の青黄赤と變つたものを交せて植ゑるがよろしい。殊に赤芽のものが美しい。背景としては赤松・もみぢ其他落葉潤葉樹がよろしい。嵐山がよいといふのは背景がよいためである。桂川の水と赤松ともみぢとが櫻を一層ひき立て、自然の好風景を成してゐる。櫻の保護について次に述べたい。元來日本は櫻の國として稱せられ、外國人は櫻を見るために一度來れば再び來る。年と共に外國人の櫻の觀賞は増して行く。山水秀麗の日本は加ふるに櫻で裝飾されてゐるのである。然るに國內では櫻の保護には甚だ冷淡で、愛護の觀念に乏しい。花見に行けば枝を折つて歸る。年々花見の人が増加して行くから數萬の人が一枝づゝ折つて歸つたら一年にして全山の櫻はなくなつてしまふ。古人の櫻に對す



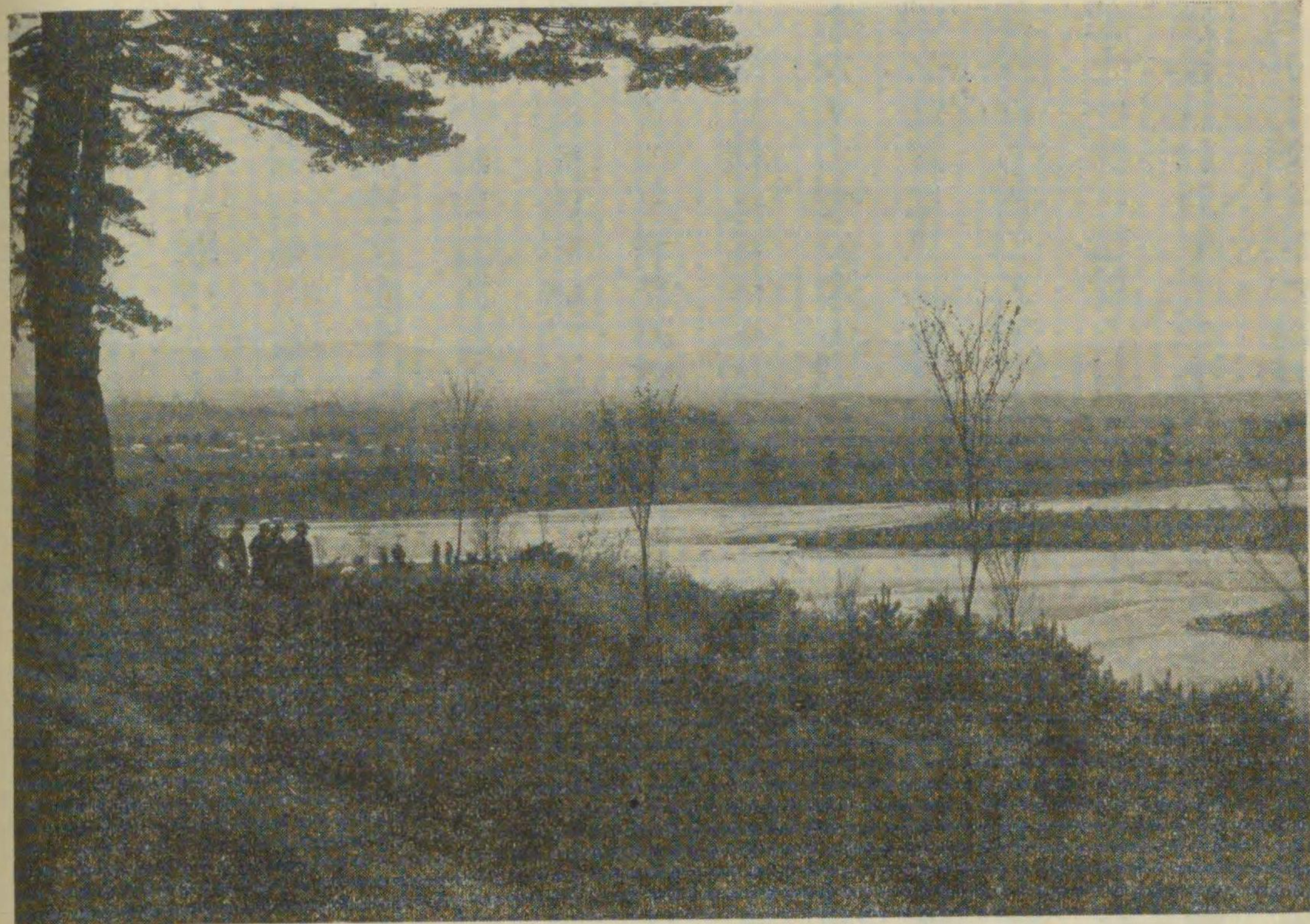
る愛護は今人の豫想外であつたことは記録に見える。一體今日では天然物の愛護心に乏しい。その原因には種々あるが、現代では物質的に傾き過ぎて優美心が乏しくなつたことなどにも關係があらう。

物質文明は人間にゆつたりとした感情を與へない、随つて天然物の保存も閑却される。かうして櫻は虐待されて來た。昔は櫻を大事にした。古人は櫻の名を知り、さうして文學の上、詩の上、和歌の上、俳句の上に櫻の花の特性を表はさうとした。然るに今日は大抵の人は櫻の種類の何たるかを殆んど知らずに居る、さうして又知らうともしない。東京附近の櫻も年々わるくなるばかりである、外國人はこの櫻の虐待に驚いてゐる。例へば害蟲などがついてゐても平氣である。先年東京市から米國へ櫻の苗木を贈つたことがある、所がそれに貝殻蟲が着いてゐた爲、米國では焼き棄てた。そこで再び燻蒸を行つたものを送つたが、それは今ワシントンの公園に大事に育てられてゐる。米國のやうに勞働賃金の高い所で櫻の番人が附いて居て始終見まはつて櫻の手入れをして居る。日本では全國で只一本よりない貴い櫻にさへ愛護の念を持たない現状である。概して日本では慣習として公衆的に樂しむよりも自分の邸宅で櫻を眺める風がある。然るに若し美しい櫻が個人の邸宅にのみあつたならば今日のやうに自由に花見をしたり又自由に研究することも出來ない。それゆゑ良い櫻は公衆的に愛護して一般に見られるやうにしなければならぬ、又彼の櫻の枝を折ることは十分に

取締らなければならぬ。止むを得ない場合に枝を切りとるとしても、切口を滑かにして置いて、そこにコールドタルを塗るがよい。これはバクテリアなどの侵入を防ぐためである。朽ち所はその部分を切り取つてクレオソードなどで消毒してコールドタルを塗る。幹に穴が明いたらセメントを詰める。これは素人にも出來ることでは是非やらなければならぬ。その他寒肥を施すことや、菌害・蟲害・風害に對する治療を怠つてはならぬ。

里櫻は山に植ゑては沒趣味で、とり交せて庭園堤防路傍などに植栽すべきものである。里櫻は一枝一花が美しい。要するに山櫻は遠くから見、里櫻は近くで見ると見るべきものである。前者は総合的に美しく、後者は園藝品として價値がある。彼岸櫻・枝垂櫻は大木になるから、神社佛閣の境内或は公園に植ゑるべきものである。その他の櫻に至つては學問的には大切なもので、觀賞用としては大したものではない。以上櫻について大體を述べたが、今日和賀展勝會の櫻の公園の敷地を一覽して誠に満足に思ふ次第である。それについて多少私の考を述べたいと思ふ。我が國に櫻の植ゑてある場所即ち櫻の名所は甚だ多いが、而かも雄大にして廣濶なる場所としてはこの地が適して居る。地位といひ、環境といひ、展望といひ、十分に特色がある。たとひ櫻に關する古い史蹟としての特徴は得られぬにもせよ、新しい日本に適する櫻の公園としてふさはしいやうに造らなければならぬ。我邦古來の櫻の名所は二三の外は現代の要求に副ふべきものではない、一般に規模が小さく境域が





岩手縣黒澤尻北川畔の栽種櫻

狭過ぎる。それで今回造られんとする此和賀の公園を單に地方的にして置くのは惜しい。出来るだけその設計を自然的にして、俗化されず、箱庭的ならず、規模の大きいことを要する。寸毫の地も餘さず利用せんとする今日では比較的餘裕のあるこの地に櫻の名所としての新計畫のあるのは喜ばしい。

關西などにはもはやさういふ餘地はなくなつてゐる。それで和賀展勝會では出来るだけゆつたりした設計をすゝめられたい。先づ基礎計畫として第一に天然を保存しなくてはならない。みだりに人工を加へることはよくない。道路も自動車を通ずることよりも山中に入つたら歩道だけで十分である。外國産の草花などを植ゑるのは禁物であると共に一方美しい野草や灌木の

保護を圖りたい。野生植物の中で此地方に多い山吹で山を飾るもよからう。或は山躑躅で飾るとか、秋草で飾るとか、紅葉で飾るもよい。かういふ風に植うべき草木や背景に十分の注意を拂ひ、其間に巧に櫻を植ゑるがよろしい。一方に於ては雄大でさうして變化に富んだ展望、知らず知らずのうち山に入り谷を渡り、再び元にかへるやうに歩道を造つてもらひたいと思ふ。建物にも注意することが肝要で、俗悪殺風景なものはいけな。矢鱈に大きいものや、目立つものは避けなくてはならぬ。腰掛茶屋、亭の如きものを造り、所々にベンチを備へ、又果物の皮や空瓶、紙屑を入れるべき屑籠を用意するがよい。外國では目立たぬやうに草色に塗つた金網製の屑籠を用ひる。さうして古城趾にはそれぞれ説明を附した札をたてるがよい。又周圍の山の名や高さを知らすべく見取圖を作り、それを適當な場所に立てるやうにしたい。一體櫻の公園といふことを本體として設計すべきは無論であるが、秋の眺めも出来るやうに工夫するがよい。今日では日本の名勝の紹介の爲めに出来てゐるツーリスト、ビュローがあるから、斯かる機關によつて外國人に知らせると次第に來觀者が多くならう。斯くして外國人でも來ることになると、多少の設備を要する。旅館は特別に洋館を建築する必要もあるまいが、幾分それに合ふ様に用意せねばならない。何れにせよ櫻の公園計畫の趣旨に賛成である。國華である櫻の保護といふ點から見ても良い計畫である。併し事業を起す最初には常に困難を伴ふものであるから、當事者は確固不拔の精神を持して、公園の實質の向上に努めら



りたい。今日會同された諸君はいづれも熱心な方々と思ふから、一致協力して櫻の新公園の完成を期せらんことを希望する次第である。(櫻第五號大正十一年)

### 優れたる櫻の品種

**櫻の來歴** 櫻は我邦では殆ど到る處の山野に自生し、殊に山櫻は極めて普通で、西南部から東北部に至るまで見ない處はない。我邦では古代から櫻を愛し、奈良時代から平安時代に及んで盛に山櫻が觀賞せられたことは、歴史に於て知ることが出来る。昔の時代では何れも山野に自生し居る山櫻を觀賞したもので、是が亦決して單調なる一種の花でなく、天然に色々の變りものが出來て居て、若葉の色、花の色、花の大きさ、形、着方、又は枝ぶり、木ぶりに至るまで變つて居るから、此櫻が木立の間に咲いて居る様は實に見事で、古人も此花木の變異に富んで居ることを認めて居た。

野生の山櫻が、斯様に古い時代から觀賞されて來たが、段々に亦之を培養することになつて、それから出た數多の變りもの、即ち品種が、昔から存在して居たやうに思はれる。是等の品種の特徴や來歴に就ては、固より一々はつきりした事實が傳はつては居ないが、其生成は少くとも千餘年前に遡るであらう。

我邦の山櫻の自生種、並に是から出た品種は、其來歴の古いだけ、それだけ多くの變異を呈して居るわけである。現に今日吾々の見る所の數多の品種の中には珍らしい特徴を有つて居て古代から傳はつて來たものも少くない、尤も比較的後世に生じたものもある。

山櫻の中には、いろ／＼の優れた品種があつて、櫻の名所として知られて居る土地に植ゑられ、又は所々の庭園公園、或は路傍などに植ゑられて居るものが多い。今是等の品種の優れたものを舉げる前に、我邦の櫻の名所に就て少し述べよう。

**櫻の名所** 櫻の名所として古來名高い所は、大和の吉野山を第一とし、武藏には小金井があり、又常陸には櫻川がある。此中で吉野と櫻川とは、最も古い櫻の名所であり、小金井は、此二箇所並に其他の場所から集めた櫻を植ゑた處である。是等の名所に植ゑられてある櫻を見るに、何れも野生の山櫻で、培養の影響は殆ど見ることが出來ない。吉野の櫻は、同地方の山中から取つて來て植ゑたもので、此邊の山櫻の品種を網羅したものと見られ、又櫻川は、關東地方の山櫻殊に東北種が多く植ゑられて居て、紅櫻・毛櫻・匂櫻などの天然品種が多い。小金井は、之に反して一箇所の純粹のものでなく、殆ど日本全國の櫻を代表的に集めたものゝやうに思はれる。此點から言ふと、山櫻の品種を調べるには、最も貴重な所である。

此外尙ほ嵐山や霞間谷其他諸所にある櫻の名所を見るに、それぞれ特色があつて、そこへ行くと



多くは其地方に固有なる櫻が見られる。

前に述べた名所は、何れも山櫻の天然品種を集めた所であるが、それに反して、里櫻を夥しく集めた所は、東京近郊の荒川土堤である。是は一に江北の櫻とも稱へられ、花の色、若葉の色が様々で、世に江北の五色櫻といふのは即ち是である。假令専門家でなくとも、櫻の園藝品の斯くまで多く出来て居ることが容易に知られる。

**櫻の品種** 前に述べた如く、山櫻並に其品種は極めて多い。今吉野へ往つても、小金井に往つても或は櫻川に往つても、夥しい品種の有ることが知れる。仔細に調べたならば、唯外観上に現はれた違ひの外に種々の細かい差異を見出すであらう。是等の事柄は専門に渉るから、茲で一々述べる必要はないが、唯一つ述べて置きたいことは、是等の變異は殆ど櫻の先天的特性と言ふべきもので、自然に起つた變異である、決して培養の結果として生じたものではない。元來山櫻には、自然に變化する特性があつて、是が天然に於ても現はれて居るが、一旦培養されると、更に其變異が著しくなり又現はれる機會が促される野生の山櫻にも、若葉の色の種々あること、又花の大きさ、花瓣の形、數などが様々になつて居ることは少し注意すると直ぐに分る。

山櫻の多くの品種の中で、今茲に著しく優れたるものを舉げると、先づ小金井の櫻並木の中で殊に目立つのは、日の出の櫻である。此櫻は、境の停車場の方からして、水道に沿うて上つて往くと、川上に向つて右の方の土堤に立つて居る大木で、太い丈夫な幹から、逞しい枝が擴がつて出て、眞白な花が一面に着き、其群がつた花の上から、眞赤な若葉が少しづつ現はれて、如何にも優美に見える。他の山櫻の中に、是れほど立派な櫻は少ない。此櫻は、遠方から見ても、他と區別の出来る如く立派であり、又一々手に取つて調べ見ると一層特徴が明になる。小金井には、日の出の櫻と同じ品種は一本に止まらない。諸處に散在して居るが、立派に成木して居るのは、前に述べた場所に見るものである。

小金井には、尙ほ入日の櫻といふ珍しい品種がある。これが日の出の櫻と違ふ點は、若葉の色が赤でなく、淡黄色になつて居ることである。此櫻も、花數の多いこと、花の色の立派なことでは、日の出の櫻に伯仲するものと言つて宜しい。

尙ほ小金井には、三吉野櫻と稱する一つの品種がある。是れは入日の櫻に似た點もあり、日の出の櫻に似た點もあるが、若葉は較、褐色を帯びて居る。さうして枝が傘の如く扁く擴がつて居るので著しい。

小金井の櫻の中で、紅色を帯びた花の咲くものが諸處に見られる。是れは東北種で、吉野山などには見られない。其中の一つの品種は、小町櫻と稱して、小金井橋の上一町ばかり往つた所の左側に立つて居る。花が淡桃色を帯びて、若葉も同じく赤くて、極めて美しい。



櫻川へ往くと、いろ／＼の優れた品種があるが、其中立派なのは、馬場の中央にある磯部櫻と稱する大木で、花は較、薄桃色で、葉も多少赤味を帯びて居る、木の立派なこと、花の咲き揃つた時の見事なことは、此處の櫻の中で、恐らく第一であらう。

櫻川には尙ほ櫻川匂と稱する見事な匂櫻がある。是れは馬場の中央の右側にある小さな木で、茶色の若芽が出て、白い花が咲く。此花に良い匂ひのあることは、此附近に往くと、忽ち風の香りで知られる。諸處に匂櫻は少くないが、山櫻の中では是れほど強い匂ひのあるものは少い。惜しいことには、此櫻は近年木が弱つて來たやうに見える。

櫻川の神社の境内に、大和櫻といふ白花赤芽の櫻がある。此櫻は山櫻でありながら、六瓣・七瓣・八瓣ぐらゐまで、花瓣の数が殖えて居ること珍らしい。

櫻川から一里餘も距つて居る雨引山の登り口に彌生櫻といふ大木が立つて居る。是は赤芽の櫻で、縁は淡紅色の暈ぼかしになつて居て優美に見える。是も雨引山の櫻の中の一つの優れたる品種であらう。

日光には、山櫻の品種が、色々あるが其中、中禪寺湖の岸邊なる松ヶ崎に、梔子櫻くちなしといふものがある。此櫻は、紅山櫻の一つの品種で、花が頗る大きく、直徑が約一寸二分もあり、綺麗な桃色である。花瓣は較、狭く、花瓣と花瓣との間が透いて、多少梔子の花に似て居る。

吉野には、いろ／＼の山櫻の名木があるが、其中殊に著しいのは、關屋の櫻である。此櫻は昔から名高いので、全體は日の出の櫻に似て居るが、精しく見ると、多少異なつて居る。又同山中には、吉野匂といふ匂櫻や花月櫻などの種々の優れたものがある。

以上述べたのは、何れも山櫻の野生種に屬するものであるが、以下更に里櫻の優れたものを少しく挙げよう。

里櫻には、優品が頗る多いが、其中殊に立派なものを挙げると、先づ白色大輪の一重又は八重の花の中で、大提燈・有明などが殊に著しい。又淡桃色の花で一重と八重とが混つて居る御車返があり、重ねが極めて厚く花の柄が甚だ長く、咲揃つた時は眞白に見える松月しょうげつ、淡桃色の花で、編笠形に花瓣が重なつて居て、しをらしい形の祇女、それから咲きたては淡桃色で、咲揃ふと色が較、淡白になり、花の柄が短かく、重ねの厚い江戸、一重で極淡い紅色を帯びて、若葉が赤くて美しい長州緋櫻、若芽が褐色で、純白雪の如き花が多く着き、花の柄に薄く毛が生えて居る白雪、若葉の色が赤紫で、花の色も亦赤紫を帯び、さうして花瓣が渦を卷いたやうに曲つて居る渦櫻、枝が多少箒形になつて上へこんもり出て、赤紫色の大きな八重の花が密に着き、赤い若葉の出る所の關山くわんざん、美しい赤芽の櫻で花の重ねが極めて厚く、外部が淡紅色、内部が殆ど白で、下へ向いた花の心から二本の緑色の小さい葉のやうなものが出て居る普賢象、花の重ねが殆ど二百にも垂んとして恰も菊の花のやうに見える菊櫻等がある。



茲に亦培養した櫻の中に、一群の匂櫻がある。此類も昔から知れて居たもので、屋代弘賢の「古今要覽稿」などにも、此類の櫻が圖説されて居る。今日傳はつて居るものの中には、青芽の白い花で、旗のやうな花瓣が出て居る細川匂、又同じく青芽で、白色大輪の見事な花の咲く満月、茶芽白花の瀧匂、上匂などがある。

此外尙ほ天の川といふ特殊の櫻がある。是れは枝が殆ど直立して居るので著しい。蕾に枝ばかりでなく、花の柄や雌蕊雄蕊まで同じやうに眞直に立つて居る。花は堅く多少八重になつて淡桃色を帯び、弱い香がある。此一種で白い花のものには、先年自分は七夕といふ名を附けた。

以上舉げて來たものは、多くの山櫻並に里櫻の品種の中の極めて少數の優れたるものに過ぎない。此外にも尙ほ著しい品種が色々あるが、茲では一々舉げる違がない。總べて是等の品種は自分の實驗に依つて得た結果で見ると、大抵其特性が遺傳するやうに思はれる。兎に角是等の品種は、其性質が或程度にまで固定して居て、種子によつて其花や葉の特性を傳へることが出来る。尤も實生では、蕾に親の特性が現はれるのみならず、更に進化の度が強くなる傾がある。

**櫻の保護** 前に述べた如く、我邦で櫻を觀賞した來歴は頗る古い、昔の時代に於ては、櫻に限らずいろいろの我邦固有の植物の品種が、能く保存されて來たもので、今日の如く、種々の損害を蒙ることは少なかつた。殊に文化文政の頃には、櫻の保護者が多くあつて庭園に櫻を栽培して、其

良い種類を、安全に遺して往つたやうに思はれる。今日となつては、世の嗜好が變つて來て、昔の如く、櫻に對する趣味を有つた人、又は特別に保護を加へる人などは少くなつた。随つて櫻の良い種類も段々に無くなる傾がある。學問上から見ても、亦園藝上から見ても、或は名所舊蹟等に聯關して考へて見ても、古來の櫻の良い品種は、成るべく完全に遺したいものである。現に今日吉野に見る所の櫻、其他小金井・櫻川・又は荒川などにある所の櫻の品種の中には、貴重なものが多く、我邦の櫻の品種を調べるには、他に是に優る所はない。此點から言つて見ても、是等の場所にある櫻は、十分に保護の策を講じたいものと思ふ。輓近歐米諸國に於ては、日本の櫻を觀賞することに、又之れを學術的に調べる人も出て來たから、櫻の本國たる日本に於ては、益々是等の良い品種を保存しなければなるまい。(史蹟名勝天然紀念物第一卷第一〇號大正五年)

## 珍しい櫻

櫻の珍しい種類や品種をこゝで悉く舉げることは出來ないが、其中で著しいものゝ實例を述べよう。此實例は今日に見られるもので、昔あつて今日に絶えたものは茲では舉げない。

山櫻性の櫻で珍しいものには菊咲山櫻がある。これは花が多少菊咲のやうになつて居るもので、



花瓣の数が約十五枚もある。山櫻の品種の中で花瓣が六七枚位のものは往々あるが、十五枚以上になつて居るものは甚だ稀である。此菊咲山櫻は花が淡紅色、蕾は眞赤、若葉の色は濃い赤色で、極めて美しい。花は割合に小輪ではあるが、花瓣が多く重つて居るので珍しい。一帯に遅咲きで、四月下旬頃に咲く。

枝垂櫻の内に八重紅枝垂一に遠藤櫻といふのがある。木は普通の枝垂櫻のやうであるが、花は八重になつて花瓣は十五枚もあり、濃厚なる紅色で、如何にも美しい。枝垂れた木振も優美で、花の密着したときは、遠方から見ると恰も造花のやうに見える。木は餘り大きくならない。此櫻は東北地方殊に仙臺邊に多い。

里櫻の珍種として擧ぐべきものは極めて多いが、其中著しいものを述べると、先づ花の着方の稀れなものには、虎の尾がある。是は花が尾のやうに枝の先に群がつて居るので區別される。此中紅虎の尾といふものは花が赤くて美しい。荒川の江北村の土堤に元此櫻があつた。

枝の先に花が多數群り着くものには手毬と糸括とがある。手毬では多數の花が一處に毬のやうに着いて居るが、約五つの花瓣から成立つて居る。一つの花序には花が三箇乃至四箇づゝあつて、各、短い柄で着いて居るから毬のやうに見える。糸括は花の柄が長い爲に花が括くられたやうになつて居る。是等は何れも八重で、花瓣の数は十五ぐらゐもあり、色は淡赤い。

花瓣の並び方の珍しいものには渦櫻がある。花瓣の数が三十ばかりで、多少渦巻のやうになつて居るから此名がついた。

瞿麥櫻といふものがある。花瓣が約十五枚乃至二十枚で、花の直径は一寸三四分、稍、桃色を帯びて居る。此花の特徴は花瓣の先がギザ／＼になつて、瞿麥の花弁のやうに見えるので珍しい。

花瓣の数の極めて多くなつたものには菊櫻の類がある。菊櫻とは菊咲の櫻で、古來知られて居るが、此中に品種が少くない。普通菊櫻と稱するもの、外に小菊櫻・鴨櫻・名島櫻・珠數掛櫻などがあり、何れも此類に屬する。

菊櫻は東京では五月の初頃に咲く。此櫻の蕾は眞紅で甚だ小さいが、それが開くと花の直径が一寸以上にもなり、淡桃色になる。花の中心には色が濃紅で、極めて小さな花瓣の如きものが密集して居る。曩に一つの菊櫻の花を解剖して調べたところが、花瓣の数が百八十六枚あつた。

小菊櫻は菊櫻よりも花が小さい。名島櫻は花序の甚だ長い櫻で、三寸餘にもなり、花瓣の数は百以上もある。珠數掛櫻は屋代弘賢撰「櫻花圖」によると、日蓮上人の舊蹟地の佐渡から持つて來たとしてある。兎に角古くから知られたものに違ひない。今日新潟縣下にある同名の櫻は花が白く、花瓣の数が百以上もある。

白菊櫻は花の純白な菊櫻で、花の直径が一寸五分以上にもなり、甚だ大きい。花序の長さは三寸



以上になる。一つの花に大きい花瓣が百五十ばかり、小さい花瓣が百餘もある。花瓣の多いことでは他に比類がなからう。

鶉櫻も菊櫻の一種で、花瓣の数が九十枚もある、花序が三寸五分以上にもなり、花は淡赤い。此櫻は他の菊櫻と違つて花の柄に毛があることで著しい。

花の色の變つた點に於て珍しい櫻には**鬱金・櫻淺黃櫻**などがある。又**御衣黃**といつて、黄赤緑の三色の混つたものもある。是等は單に色の變化したのみならず、花瓣の質まで變つて來て、堅くなり、表面がザラ／＼して居る。是等の櫻も古くから知られて居るが、其中御衣黃は前に述べた「櫻花圖」(文政頃)によると、向島にあつて御用木としてある。當時は珍奇なものであつたことが知れる。今日では此櫻は必しも稀ではないが、併し比較的珍しい。

里櫻の中に**日暮**といふ品種がある。長い枝の先に八重の花がこもつて咲き、其色合が如何にも美しい。外側の花瓣は赤く、内方に至るに従ひ淡色になり、優美に見える。此品種も亦珍奇なるもの一つである。

紫櫻といふものが元江北の土堤の櫻並木の中にあつた。是は花の色が濃い赤色から稍、赤紫に移つたもので、花瓣は十枚以上もある。

赤い櫻として色の最も濃厚なものは、臺灣に存する**緋寒櫻**であらう。此櫻は阿里山に生えて居るが、昔から稀に江戸へも持つて來た。是は薩摩から來たので、**薩摩緋櫻**、或は**元日櫻**ともいつた。併し薩摩には自生はない。琉球から來たものであらう。此櫻は舊曆元日頃に咲くから元日櫻の名が附いたのである。花瓣が極めて赤く、赤い桃のやうに見える、花は十分に開かず多少鐘狀になつて居る。

香櫻の種類として珍しいものが色々ある。香櫻は昔時より知られ、今日にも往々見られるが、併し普通ではない。此中で最も花の勝れ、匂の勝れたものには**瀧櫻・上匂**などがある。是も江北の堤上に植ゑられて居り、又稀に人家にも見られる。香櫻の類は大抵花が淡白で、上品である。一重又は僅に八重になりかゝつて居る。香櫻は里櫻に屬するもの、外、山櫻性のものもある。

木振の珍しいものには**天の川**がある。この櫻は幹や枝が直立して竿を立てたやうになつて居るか、冬になつて葉のないときでも直に區別される。又幹・枝ばかりでなく、花梗並に雄蕊などまで何れも上方に向つて居る。此櫻の花は桃色で美しく、さうして花に一種の香氣がある。

形の珍しいものには**筥櫻**の類がある。これは普通の里櫻とは別種である。筥櫻は細い枝が筥を立てたやうに出て居る。花は淡桃色で、花梗に細かい毛がある。筥櫻の一種で**猩々**といふ櫻は花瓣の数が二十ばかり、色が赤く、花の直径は約一寸五分、萼の筒状の部分が膨れて著しい。此櫻は「櫻品」に名が載せてあるのみで、種類が判らないとしてある。併し其後の櫻の書物には此櫻の圖が載



せられて居る。

**泰山府君**は昔から京都に知られてゐた櫻で、古來の櫻花銘や櫻花圖譜などにも出てゐる。舊幕府時代から江戸へ移植された爲め、明治十九年に江北の堤上にも植ゑられた。

泰山府君は普通の里櫻とは枝の出方、木振又花の着方其他の點に於て違つてゐる。古來名花の一として、珍しい櫻品に屬する。

**菊枝垂** 是は里櫻の枝垂になつたもので、花が菊咲きで、赤く美しい。稀な品種である。

花の咲く時期に關して珍しいものを挙げると、**寒櫻**と稱する一群がある。是は必ずしも珍奇なものではないが、比較的稀な品種が其中にある。寒櫻の中には花の白いもの、淡紅色のもの、輪の小さいもの、大きいものなど種々あつて、随つて其品種は凡べて同一ではない。唯寒中に花の咲く性質が一致して居るだけである。**正月櫻**と稱するものも此類であり、又彼の伊豫の松山の**十六日櫻**も同様である。十六日櫻は今から百八十年前寛保三年に出版した菊岡占涼の「諸國俚人談」に載つて居るところから見ると、古くから知られて居つたものに違ひない。其外秋咲く十月櫻の如きも、必ずしも稀ではないが、比較的珍奇である。四季櫻と稱するものは、春夏秋冬の四季に咲くといふところから此名が附いたが、併し必ずしも四季に限らない。花は絶えず多少咲いて居る。小輪で美しくはないが、是も比較的珍奇なものに屬する。年中絶えず開花する櫻で最も著しいものは次に述べる

白子の不斷櫻である。

伊勢の白子の觀音寺に昔から**不斷櫻**と稱して年中花が咲く櫻がある。此櫻は前記の「諸國俚人談」や「櫻品」にも載せられ、殊に古來の櫻譜の類に描かれて居る。現に觀音寺の境内に保存されて、石壁に圍まれて居る。根本から幾株にも分れ、幹が曲つて居るが樹勢は依然盛である。此櫻の特色は寒中でも葉が落ちないことで、綠葉と紅葉とが混じり、又若葉が絶えず出る。花は寒中から一年を通じて咲き續ける。

廣瀬花隱の「三十六櫻譜」の中には此白子不斷櫻の寒中紅葉の有様を畫いて居るが、全く眞實である。去る大正十年此櫻を調べるために度々觀音寺に行つたが、一月二十六日に見た時には、紅葉と青葉と若葉とが出て居て、白い花が咲き、又實を結んで居た。此時に見た花は冬の花で、花梗が甚だ短かく、花序の長さは僅に三四分、花は三つぐらゐづゝ一緒に出て居た。次に四月十三日に行つた時は、春の半ばの花が咲いて居た。此時は花序が一寸ほどになり、花は矢張り三つぐらゐづゝ着いて居たが、前に見たときよりも花梗が遙に伸びて居た。次に五月八日に晩春の花を見た。此時は花序が二寸五分にも伸び、花は五つぐらゐづゝ着き、且着方が複雑になつて、冬見た時とは全く別種の櫻のやうであつた。

次に十月十三日に行つたときには、花序は一寸七八分もあり、花の直径は、前に見たときと餘り



變らず、一寸ぐらゐであつた。五つ六つの花が一處に着いて居て、其趣は晩春に見た場合と左程違つて居なかつた。

斯やうに季節によつて花梗の長さ、花の着方の違ふことが著しいが、又普通落葉する時期にも依然として葉を存じ、且若葉が出ることに、殊に一年を通じて絶えず開花結實することは所謂不斷櫻の名に背かない。薔薇の種類にも四季咲薔薇があり、其他にも年中花の咲く植物もないではないが、此不斷櫻に於ては殊に著しい。

前に珍奇な櫻として述べて來たが、尙此外に岐阜縣の二度櫻の如きも珍奇なものである。是は山櫻のやうな櫻であるが、一重の花と八重の花と、二重咲の花と、自ら別の枝に咲くので著しい。二度櫻とは二段咲になるところから名付けられたもので、花瓣が散ると、其花の内部に更に小さい花が一箇或は數箇あつて、それが咲く。一株の櫻で部分的に花の變化する點で珍らしい。

〔學藝〕第四〇卷第四九九號大正十二年

### 公園庭園等に栽植すべき櫻樹の品種に就て

近年來天然紀念物の保存が次第に行はれんとするに伴ひ、園藝植物の優れた品種の保存をも圖らんとするに至つた。殊に我が國華として昔から賞愛せられた櫻の品種の保存を圖る爲に、諸所よりして其種類を集め、適當な場所に植ゑんとする計畫を耳にする。是れまで此點に關して諸方から質問を受けたことがあるから、茲に聊卑見を述べよう。

櫻を植ゑる場所は、公園又は種々の庭園其他路傍或は河川沿岸の堤防などで、小高い所や斜面に植ゑたり又は平地に雜植し、或は並木を造るなどいろいろの場合がある。是等の場合に就て、如何なる櫻の品種が最も適するかは、篤と考究を要することである。

櫻を植ゑる目的は、無論美觀上からすることであるから、第一櫻そのもの、特徴を考へなければならぬが、又植ゑる場所の状態を參考して、十分に其美觀を認めることの出来るやうにしなければならぬ。さうして又一方には、古來の優れた品種の保存を圖る必要があるから、是等の諸點に涉つて十分に調べるが宜しい。

**種類と品種** 櫻にはいろいろの種類があるが、茲に述べる目的に適するものは、山櫻並に染井吉野・彼岸櫻等である。是等の種類の中で、山櫻には多數の天然品種があり、又彼岸櫻にもそれぞれ變り物が出來て居る。山櫻は日本の中部以南に多い所の白山櫻と、中部以北にある紅山櫻との二つに分れて居る。此中白山櫻には夥しい品種が見られ、又これから培養に依つて變つた所の園藝品がある。里櫻には花の一重のもの、八重のもの、大輪、小輪があり、或は花色の變異、木振りの差異、



花期の早晩、匂の有無等いろいろの點に於て變つて居る。是等の品種に就て、一々述べることは出來ないが、尙後に其中の優れたるものを擧げよう。

**山櫻と里櫻** 山櫻は何れも丈けがすら／＼と高く伸び、枝が多く分れて美しい若葉が出、又しをらしい花の咲くので知られて居る。此中若葉の色に依つて、赤芽・茶芽・黄芽・青芽の四つに大別することが出来る。是等の若葉は何れも色の區別があつて、各、特色を現はして居る。殊に赤芽のものは甚だ美しい。花の色は純白なもの、外に少し淡紅色を現はして居るもの、又其色の更に濃くなりかゝつて居るものなどがある。美觀上からいふと、眞赤な若葉に雪の如き白い花が多く着いて居るものが殊に勝れて見える。斯かる櫻の咲揃つた時に青い空に對して眺めると、其美觀が一層能く現はれて来る。又淡紅色の花の山櫻も美しいが、併し花の色が強くなると、場合に依つては濃艶に過ぎて、山櫻の淡白なる趣味が失せる氣味がある。殊に北海道産の如き紅山櫻の咲揃つて居る時には其趣がある。茶芽の櫻、黄芽の櫻も、亦赤芽の櫻に對して美しい。併し是等は能く色の配合に注意して栽植する必要がある。

里櫻になると一層變異が著しく、極端にまで進んで居るものがある。此類の櫻には園藝上の珍種があるが、併し單に珍種として眺めるだけで、必しも庭園や公園に植ゑるに適しては居ない。里櫻の品種で昔から今日に傳はつて來たものの中には、優れたものが頗る多い。昔は數百の品種が揃つて居つたが、今日では此類の著しいものは僅に五六十ぐらゐに止まつて居る。其中で庭園などに植ゑべき美觀上の性質を具へて居るものは四五十種ばかりであらう。

里櫻の品種には、若葉の色の變異も無いではないが、併し此種類の櫻では、花の部分の變異が一層強くなつて來た爲に、餘り若葉の色が引立たない。花の部分の變異とは、先づ花の着方、次に一つの花序の中にある花の數、花梗の長さ、太さ、位置、又花の大きさ、形、花瓣の數、位置、色、などの變異で、此外に又匂の有無がある。又木振り枝振りなども無論各、品種の特徴を形づくつて居る。里櫻の品種の中に菊櫻と云ふものがあつて、花瓣の數が非常に多く、殆ど二百に達し、園藝上極めて珍奇なものであるが、公園などに植ゑるには適して居ない。

**花期の早晩** 山櫻里櫻を問はず、花期の早晩が必ずある。是は土地の氣候に依つても違ふが、併し先天的特性で、同じ場所でありながら、一つの品種は早く咲き、一つの品種は晚く咲く等の區別が現はれて居る。東京邊では、山櫻の早いものは四月十日過には咲き、晚いものは二十五六日頃に咲く。又里櫻でも是と同じで、四月上旬に花の開くものもあるが、中旬から下旬にかけて多く開き、最も晚いものは五月に入つてから開く。斯様に花期に早晩のあることも、亦櫻を植付ける點に於て注意すべきことと思ふ。

**品種の選定** 前に述べたやうに、山櫻里櫻は、それぞれ特色があるから、其特徴に應じて品種を



選定しなければならぬ。花期の早晩の點からいへば、早く開くものから先きに眺められるやうにして、順々に花期が移るに従つて、他の場所の櫻が咲き出すやうに植付けるが宜しからう。併し又一方には美觀上の點から、若葉の色や花などに就ても選定しなければならぬから、單に花期の早晩ばかりで植ふる譯には往かぬ。總べて同じ芽色の櫻が皆一つに集まつて居ては優美に見えない。成るべく入混つて居る方が面白い。小金井へ往つて見ても、櫻川へ往つても、いろ／＼の芽色の櫻が混じて咲いて居る所で美しく見える。然るに若し是が一様な色のものばかり並んで居たならば、始めて見た時は目立つかも知らぬが、直きに其單調に慣れて、美觀上の價値を損するであらう。

花の色も是と同じで、白色のものばかりが揃つて居ては面白くなし、又赤い色の花ばかりが咲揃つて居ても却て陰氣に見える。全體が白味が、つた花で、其間に淡赤なもの或は濃紅なものが少し混つて居ると、非常に引立つて来る、是も色の配合上大切なことと思ふ。

其他尙注意すべきことは、木振り枝振りである。里櫻でいへば、彼の天の川・箒櫻、或は絲括いとくくり・虎の尾のやうな珍奇な形をして居るものばかり集めて植ると、餘り畸形に失して、却て櫻の優美なる點が失せる。是等の畸形の櫻も、他のものゝ中に混せて植れば悪くは無い。山櫻にも矢張り是と同じことが當嵌まるので、枝振りの擴がつて居るものと、上へ立つものを入混せて植ふるが宜しい。

白山櫻に就て品種を選定するには、主として吉野種を標準とするが宜しからう。現に吉野山にある櫻は、白山櫻の純粹の品種に屬するもので、此中に多くの優れたものがある。此中から若葉の色、花の色の至つて優美で、様々に變つて居るものを選んで植えたならば必ず立派に見える。現に小金井にある櫻並木の中には吉野種に屬するものが甚だ多い。

小金井の日の出の櫻・入日の櫻・三吉野櫻・淡雪櫻・鏡櫻・口紅櫻などの品種は何れも優れた特色を有つて居る。又吉野山にある櫻の中には、關屋の櫻・花月櫻・布引櫻などの著しいものがある。

次に花の色の赤い種類、即ち紅山櫻に就ては、是亦いろ／＼天然の品種があるが、併し前の白山櫻ほど多くない。此中に於ても、日光や北海道又東北地方などにあるものゝ中で、良い天然品種を選んで植ふるが宜しからう。

里櫻には多くの品種があつて、花の部分其他いろ／＼の點に於て違つて居るが、茲に先づ其中の代表的品種を挙げると、花の一重のもの、或は少しく八重になりかゝつて居て、多くは白色で美事に花が着くものには、白雪・鷺の尾などがある。又花の重ねが多少殖えて來て、大輪になつて居るものには、白妙・有明・大提燈の如きものがある。花に少しく赤味がかゝり、葉も亦赤味を帯び、木振りも良く、大きくなつて立派なものには、小塩山・嵐山・便殿などがある。此類の中で一層若葉が赤くなり、花の色も赤く美しいものは、長州緋櫻がある。



花が一重八重混つて居て、花瓣に襞が出来、大輪で赤味があり、極めて美しいものには御車返がある。是も大きな木になつて夥しく花が着くから、庭園に植ゑるのには頗る適當である。又更に赤味の強く立派なものには八重曙・江戸・福祿壽の如きものがあつて、是等は何れも花が八重になつて居る。松月しょうげつといふ品種は、重ねが極めて厚く、蕾の頃は赤いが、咲いてしまふと殆ど純白で、大輪の花が長い柄から垂れて優美に見える。其他又八重の種類で、花の色の美しいものには、法輪寺・朱雀などがあり、或は祇女の如く花が編笠状になつて、しをらしいものもある。

以上の品種は、無論里櫻の中の優れたものであるが、併し此類の中で、最も立派で、さうして花が永く保ち、著しいものは、恐らく一葉・關山・普賢象の三種であらう。一葉いちえふは若芽が赤褐色で、花の咲きたては赤味を帯びて居るが、後には殆ど白くなり、重ねが厚く、花心中から一本の軸のやうな變り葉が出て居る。是は東京に多い櫻である。關山くわんざんは緋櫻の中の最も著しいもので、赤芽で花も赤く、重ねが厚く、輪りんが大きく、遠方からでも直ぐに知ることが出来る。詰り長州緋櫻の八重になつたやうな形である。普賢象は最も古い櫻の一つで、優美な點に於ては是に超すものはなからう。若葉は赤く、蕾は重ねが甚だ厚く、紅色で、其中から二枚の變り葉が出て居て、外側に曲り、普賢菩薩の乗つて居る象の鼻から芽の出たやうであるといふ所から此名が附いた。咲いてしまふと淡赤色で、花梗長く垂れ、十分に開いた花と蕾とが入混り、さうして枝が擴がつて居る爲に、極めて優

美に見える。前に述べた關山は、枝が箒のやうに上に立ち、一葉は斜に上に立つて居るが、普賢象は此二つのものと枝振りが違ふ。又花の時期も極めて永く、五月の始めまで花が續いて居る。是が普通の里櫻の中のしんが殿りに咲くものである。

變りものの中には、天の川のやうに直立して居るもの、七夕の如く天の川に類して花の色の白いもの、又絲括・紅虎の尾のやうに長い枝の先きに花が密集して居るものなどがあり、又箒櫻のやうに立つて居るものもある。其他花の色の變化して居るものには、鬱金櫻・御衣黄ぎらいくわうなどがある。鬱金櫻は鬱金色の花が咲くが、御衣黄では更に赤い筋が花瓣に這入つて居る。是等も亦變り物として珍重された古い櫻である。

此外に亦一群の香櫻がある。此中には彼の駿河臺句・瀧句・上句・千里香・萬里香・白華山などがあつて、香氣の強弱、花期の早晚、枝振りなど、それぞれ違つて居る。殊に駿河臺句・瀧句の如きは、香櫻として最も勝れたものに屬して居る。是等の櫻が咲き揃ふと、可なり遠い所から匂が知られる。又蝶や蜂が夥しく花に群集して居ることも分る。

**植ゑ方** 以上述べたのは、僅に代表的のものであるが、總べて山櫻にしる、里櫻にしる、是等を庭園に植ゑ又並木として植ゑる場合には、前に擧げた點に依つて若葉の色、花の色、枝振り、木振り、其他匂の有無、花期の早晚等に就て篤と調べた上で、適當な植方によらなければならぬ。同じ



ものが一つ處に固まることは忌むべきである。さりとて早咲きのものと晩咲きのものが、順序なく植ゑられて居るも、亦不自然であるから、能く是等の調和を圖るやうにしたい。場合に依つては晩咲きの中へ早咲きを混ぜて植ゑるのも悪くはないが、併し晩咲きのものの中に、少しばかり早咲きものを混ぜて植ゑた所で、一向引立たない。それより寧ろ花期の早晩に依つて植付けた方が宜しからう。

植ゑ方に就ては、それぞれ形式もあらうが、併し木と木との間を十分に取つて、枝の觸れないやうにし、能く日光に當て、空氣の流通の良いやうにしなければならぬ。又根元を成るべく踏まないやうにして、場合に依つては柵を繞らすことも宜しからう。總べて櫻は枝を伐り傷けることを忌むもので、疵口から黴菌が入り、害虫が入つて腐蝕を起すから、濫りに伐つてはならぬ。又暴風などに依つて枝の傷けられた所は、速かにアスファルトやセメントを塗る必要がある。其他植ゑた後には適當な時期に肥料をやる。綠肥・骨片・骨粉或は寒肥などを施すが宜しい、總べて植木は、何に限らず常に保護を怠つてはならぬから、平素是等の樹木に就て、害虫、害菌の注意をすることが肝心である。

**植付ける場所** 櫻を植付ける場所は、公園・庭園・道路・堤防など、場所に依つてそれぞれ違ふから、一概には言へぬが、併し櫻の爲には、水吐けの良い小高い所で、多少斜面になつて居る所が

宜しい。餘り風當りの強い所又は煤煙の來る所などは無論宜しくない。さうして又斜面の如き處が櫻を眺めるにも殊に面白い。是等の場所に植付けた時には、其間を歩行して見ると、順に早咲きから晩咲きの方に移つて往くことが出來、赤芽の櫻に次いで黄芽の櫻が來、茶芽の櫻、青芽の櫻が順に現はれ、白い花に次いで淡桃色の花が來り、赤い色の花が現はれたり、鬱金色の花が見えたり、又匂櫻があつたり、其他様々の枝振りをしたものが順に交代して居るときは、見るものをして飽かせることがない。かやうな植付け方を巧みに行ふのがよい。

**背景** 櫻にはよい背景があると一層引き立つ。嵐山の櫻が有名であるのは、一つには背景が宜しいのであつて、赤松やもみぢのある所に、山櫻が彼方此方に隠現して居るから、殊に優美に見える。櫻を植ゑると同時に、出來得べくば適當な背景を造りたい。併し杉や縦のやうな陰氣な樹木は櫻に適しない。櫻の美觀に伴ふ所の背景を造るには、矢張り赤松や其他適當の樹木を用ひるが宜しい。

**苗木の供給** 今日では諸處で櫻を植ゑることが流行して來たから、前に述べたやうないろ／＼な品種の需要が増した。然るに苗木の供給は餘り豊富でない爲に、十分に需要者を満足させることが出來ない。先づ今日で山櫻の苗木を求めるには、白山櫻であれば吉野山の産が宜しからう。又紅山櫻の方では北海道あたりから取るのがよい。里櫻の多くの品種に就ては、今まで荒川から接穂を取つたが、是も段々に多く取盡した爲に、今日では最早不可能になつたから、是等の櫻の苗木を培養



して居る植木屋から供給されなければならぬ。斯かる植木屋で、苗木に正しい名を付けて賣つて居るものは甚だ少い。それ故に是等の品種を求めるには慥な所から求めるが宜い。東京附近では巢鴨でんちやう殿中の萩原猪之吉方で、荒川の櫻の苗木を造つて居るといふことである。

**他の櫻の種類** 前には山櫻や里櫻に就て述べたが、此他尙染井吉野・彼岸櫻・枝垂櫻の類も無論植ふる價值がある。殊に染井吉野の如きは、葉に先立ちて花が群り出で、咲揃つた時は頗る美しい。此櫻の如きも庭園公園の一部分に多く植ゑて、其花が終ると山櫻が見られるやうにして置くが宜しからう。

彼岸櫻・枝垂櫻の類にも、亦色々の品種があつて、花の赤いもの、白いものがある。京都の有名な祇園の櫻は、白い枝垂櫻に屬して居る。東京では、上野に立派な赤い枝垂れや彼岸の品種があるが、近年は大分木が損じて來た。總べて彼岸の種類は大木になるから、狭い場所に植ゑる譯には往かない。庭園公園の中で自ら是に適する場所を選んで植ゑるが宜しい。是等の櫻も花期の早い方であるから、是が終つてから、染井吉野や山櫻が見られ、次いでいろ／＼の里櫻が見られるやうにして置けば、三月下旬から四月一杯は、花が見られるであらう。又更に寒櫻の種類があつて、是は三月頃には花が咲くから、是をも植ゑたならば、一層永く種々の櫻が見られることになる。

(史蹟名勝天然紀念物第一卷第一七號大正六年)

## 山櫻

日本には櫻の種類が多いが、其中の著しいもの殊に古來觀賞されたものは、山櫻を始め里櫻・彼岸櫻・枝垂櫻並に是等の櫻の無數の天然變種又は園藝品種がある。

此他にも富士櫻(豆櫻)・丁子櫻・深山櫻・四季櫻・冬櫻・寒櫻・緋寒櫻・千島櫻など野生又は培養の種類が多い。

是等の多數の櫻の中で、分布の點からも花性の優美の見地からも、亦古來觀賞の歴史の上から見ても最も大切なのは山櫻殊に下文に言ふ白山櫻である。此點から日本の國華としての櫻は嚴格の意義から言へば此櫻を指すのである。

山櫻は廣く日本國內に自生するが、主に山林の中に生えるから古來其名が附いた。植物學上の種類としては之を白山櫻と紅山櫻の二種に大別する。白山櫻は花が純白のものが多く、東北地方に産するものには稍、紅色を帯びたものもある。併し後に言ふ紅山櫻とは全く別種である。

## 白山櫻



白山櫻は先天的變異に富み、若葉の色を始め、花の着方、花の大きさ、花瓣の形態、花梗の長さが違ひ、又花梗に毛の全くないもの、微毛のあるもの、稍、密毛のあるものなどがあり、又花に香のないものが普通であるが、他には芳香を放つものもある。又花季の早晚も様々である。

白山櫻の最も著しい特色は若葉の色で、之を赤芽・茶芽・黄芽・青芽（綠芽）の四種に大別する。若葉の色彩はそれぞれ先天的に定まつてゐるが、時としては枝變りと稱して赤芽の山櫻の枝が偶然茶芽になることがある。

白山櫻は日本の櫻として最も古くから知られ、又全國に最も廣く分布してゐる。大木になり數百年の齡を保つ。其著例は静岡縣富士郡白糸村にある**狩宿の下馬櫻**で、一名頼朝の駒止櫻、地上約一米上の幹圍が約八・五米ある。美しい赤芽の山櫻で、樹勢の雄大なこと、又富士山の背景のあることで比類がない。富士の卷狩當時の遺木との傳説がある。先年の暴風で太い枝の一が折れた爲、稍、樹容を損じた。此櫻は大正十一年に天然紀念物として指定された。

尙白山櫻の巨樹として指定されたものには**大戸の櫻**がある。茨城縣東茨城郡長岡村にある。白山櫻で、昔水戸黄門光圀が此處へ來て花を観たと傳へられてゐる。老樹である爲幹や櫻の朽ちた處もあるが、年々尙盛に花を着ける。根元から多數の支幹に分れ、其總周圍が約一〇・四米ある。斯様に白山櫻は大木になり、樹齡が長く、抵抗力が比較的強い。殊に山中に自生するものでは

さうである。すべて白山櫻の美觀は若葉の色が花の白色と能く調和されるからで、特に赤芽のものでは美しい。

京都御所の紫宸殿前の左近の櫻は美しい赤芽の白山櫻で、古來此類の櫻を植ゑさせられたといふ。白山櫻の若葉の色と花の色との配合の美は吉野山・小金井・櫻川などの昔から名高かつた花の名所へ行つて見れば十分に觀察されるが、併し此櫻の自然の美觀は山中の樹林の間に點々現れた時に於てのみ知ることが出来る。

白山櫻の老樹の中で名木として指定されたものには大阪府三島郡三島村磯良神社の**いぼざくら**がある。八重の山櫻で「攝津名所圖會」にも圖が出てゐる。昔から立派な櫻で、舊時は著名であつたが、今日では樹勢が甚だ衰へた。

白山櫻の集植地として古來著名なのは吉野山・櫻川・小金井で、何れも名勝として指定された。此中最も古い歴史があり、地域の廣いのは大和の**吉野山**で、一目千本から中千本・上千本を経て奥千本まで夥しい櫻がある。此處の白山櫻は所謂吉野系統に屬するもので、關西地方の白山櫻の代表である。昔から幾度となく補植したが、近時になつて交通の便利が良くなり、年々花時に多數の出入がある爲櫻樹の損害も多くなつた。それで今日では櫻の保護に努め、殊に老樹には適當の手術を施してゐる。



吉野に次で古るい白山櫻の名所は常陸の櫻川である。櫻川は地域が狭く、櫻は主に神社の參道の兩側に植ゑられてゐる。此處の櫻は白山櫻であるが、吉野山のそれとは系統が違ひ、概ね東北地方の産に屬し、花が淡紅色を帯びたもの、花梗に毛のあるもの、花に芳香を有するものが多い。明治四十五年四月十一日自分が石倉翠葉氏の案内によつて戸川殘花翁と一處に始めて此處へ行つた時は閑靜な勝區で、立派な白山櫻の大樹があつた。又櫻川から遠くない雨引山（觀音の靈場）へも行つたが、こゝにも美しい白山櫻が多かつた。石倉氏は忘れられた櫻川の櫻を新に世に紹介した篤志家である。

櫻川は石倉氏の當時と違つて今日では多數の人が花見に来る、又老樹も次第に枯れる。其上に先年此地域の附近に染井吉野を植ゑて古るい櫻の名所を俗了したのは遺憾である。將來櫻の名所として櫻川は其美しい白山櫻の絶えないうやうに努めなければならぬ。

小金井には元文年間に植ゑた白山櫻の並木がある。數多の天然品種が集植され、若葉の色、花の大きさなどの變異が現れ、其上に大木が揃つて、約一里半の距離に互つてゐるから飽くまで花見が出来る、櫻の保護は東京市公園課の管理の下に十分に行はれ、樹勢旺盛、年々盛に開花する。此點では全國無數の山櫻の名勝として比類がない。

## 紅 山 櫻

紅山櫻は本州中部の山にも見られるが、同地方が此櫻の分布の南限で、北は北陸・奥羽・北海道・千島・樺太に亘つて自生がある。曩に指定された新潟縣椽平櫻樹林では白山櫻と紅山櫻とが山中に多く生え、其中前者は山の中腹に又後者は山頂に普通である。花期は後者が四月末頃前者が五月初である。紅山櫻は札幌の圓山や藻岩山にも自生が多いが、官幣大社札幌神社の境内には此櫻が多く植ゑられてゐる。すべて紅山櫻は花が紅色であるが、多數の個體の中には自ら花色の濃淡がある。若い幹や枝は黒褐色である。殊に著しいのは此櫻の苞が粘ること、此點で明に白山櫻の中の花の紅色を帯びたものと區別される。

江戸時代では紅山櫻が珍らしかつたから、日光中禪寺に今日でも自生のある此櫻が江戸へ移されて夕榮ゆきはへと名づけられて當時の櫻園に植ゑられた。昔の櫻の圖譜を見ると其寫生が載せてある。

紅山櫻は花は美しいが、若葉の美觀がなく、又白山櫻のやうに明るい感じがしない。それで北海道では却つて染井吉野を多く植ゑた所がある。

ヒマラヤの東南部の海拔四五千尺ぐらゐの高處に生えるヒマラヤ櫻は紅山櫻と花の特徴が似てゐる點がある。之に反して臺灣の緋寒櫻は是等の櫻とは特徴が全く別である。



## 白山櫻の美性

吉野・小金井の如き白山櫻の集植地は別として、此櫻の天真の美性は山中に自生した時に於て始めて知られる。すべて白山櫻は山林に點々散生し、樹幹は遠方から黒く見え、林樹の上に抽出した梢頭の花は白く目立つ。黒澤翁滿が

されはこそ峰の初花遠目にも

雲ならしとは思ひよりしか

の一首は此光景を詠んだのである。

白山櫻の美性は雨にも、風にも、月にも配合して表れるが、殊に白い花瓣が風のまにまに散り落ちる有様は自ら詩情である。併し山櫻の最大の美観は旭の光が咲揃つた花頭を照した時である。本居宣長の彼の有名な

敷島の大和心を人問はし

朝日ににほふ山櫻花

の歌は山櫻の美性を最も能く表現したものである。(庭園と風景第一七卷第四號昭和十年)

## 櫻の話

(昭和五年三月二十六日東北帝國大學卒業式記念講演)

櫻に就ては特に國華としての見地から御話を致します。日本は櫻の國と言はれて居るくらゐで、年々花時になると多數の外國人が花見に來ます。吾々は生れながらにして櫻を見て居りますから餘り氣が付きませんが、一度外國へ行つて來ますと日本程立派な櫻のある國は外には無いことが分ります。

日本にはどうして斯様な美しい櫻があるか又どうして國民が櫻を觀賞するかに就ては自ら深い原因があらうと考へられます。櫻の種類で良い花の咲くものはアジアの中部から東部に亙る地方で、即ちヒマラヤの東部から支那の四川省邊それから極東の日本であります。其中日本は櫻の種類殊に美しい櫻の多いことでは世界中唯一であります。

外國の櫻の中で花の美しいので有名なのは、印度のヒマラヤ山にあるヒマラヤ櫻で、ヒマラヤの東部アサム地方の海拔三千尺位から七千尺位の所に生えて居ます。去る明治四十年印度に旅行した時この櫻の野生を見ました。又ダーヂリンでも多く植ゑてありました。ヒマラヤ櫻は大木になり、木によつて淡紅色から可なり濃い紅色に至るまで花の色の變異があり誠に美しい櫻であります。高



い所では秋花が咲き、低い所では春咲きます。その頃になるとカルカタその他から花見に出掛けます。カルカタ邊ではダーヂリンのことを單にヒル(Hill)と呼びます。

支那には昔は櫻が無いと思つて居ました。昔支那から日本へ來た學者に貴國には花があるかと問ひましたら無いと答へたことが舊時の筆談に載せてあります。然るに近世になつて支那の西南部へ探檢旅行が企てられた結果、四川地方には我山櫻に似た多數の櫻のあることが知れました。併し日本の八重櫻のやうな美しい櫻は見られません。

日本は櫻の分布の中心で、全國何處へ行つても櫻があります。北は千島樺太から南は琉球臺灣に至るまで櫻が生えて居り又朝鮮にもあります。是等の櫻の中には野生のもの殊に又培養された美しい櫻が多いから日本は眞に櫻の國であります。

日本の櫻には植物學上から見た様々の種類がありますが、その中の最も大切なものは山櫻で、國華としての櫻は山櫻を言ふのであります。山櫻は分布が甚だ廣く、北から南に亘つて到る所に見られます。山櫻を二つに大別して一を白山櫻、一を紅山櫻と言ひます、白山櫻が即ち普通の山櫻で、古代皇居のあつた畿内地方、殊に吉野その他にも昔から多かつたことが知れて居ます。又嵐山小金井などの櫻もこの白山櫻であります。白山櫻は全國的でありませんが、紅山櫻は主に本州中部以北に分布して居り、殊に奥羽地方から北海道樺太に多く、又北は黒龍江地方にもあります。この櫻は花

が赤く、苞が粘り、花梗が傘を開いたやうに出、そして幹が栗色に見えます。紅山櫻は日光の中禪寺湖畔にも現に生えて居ます。舊幕時代には日光からこの櫻が江戸の大名の庭園へ移され、花の赤いところから珍重されて居ました。

培養した櫻では花が八重になつたものが多いが、又一重で立派なものもあります。この類はすべて里櫻と言ひます。里櫻の起原は明白ではありませんが、山櫻から偶然に變化したものと考へられます。昔のいつの時代からあつたかと言ふと、奈良時代には已にこの櫻のあつたらしい。それから平安時代になつてから次第に優れた品種が出来、室町時代には已に現代の里櫻が知れて居ります。里櫻の名稱は舊時より禁裏に植ゑられ、又公卿大名等の庭園、神社佛閣の境内などに栽培されました。殊に舊幕府時代に有力な愛櫻家の園中には多數の品種が集植され、一々名が附いてゐて、その寫生圖譜も作られました。

彼岸櫻は大木になり山中に自生があります。この櫻と又これから出た枝垂櫻とは寺院の境内に植ゑられ立派に成木したのが見られます。仙臺の榴ヶ岡の櫻は彼岸櫻と枝垂櫻で、伊達綱村が元祿年間に植ゑさせたものであります。幹の目通りの周圍が十五尺に達するものがあつて、彼岸櫻の代表的名勝として先年指定されました。

明治時代になつてから染井吉野といふ櫻が現れました。これは最初東京の染井(江戸時代から植



木屋の多い所)から出たものであらうかと藤野寄命氏が斯く命名したのであります。世間では單に吉野櫻と言ひますが、大和の吉野山の櫻即ち山櫻とは全く別であります。發生が盛んで接木や挿木で苗木が容易に出来るから、今は何處でもこの種類を植ゑます。併し染井吉野は日本の觀櫻の歴史に何等の關係がなく、又その栽培の起源も不明であります。

臺灣の阿里山には緋寒櫻といふものがあります。この櫻は昔琉球から薩摩に渡つて元日櫻と言はれました。舊正月元日の頃に咲くからであります。この櫻は紅山櫻やヒマラヤ櫻とは全く別種で、花が鐘狀になり濃紅色で、櫻の中での最も赤い花の咲くものであります。

富士櫻又は豆櫻と言ふ灌木性の櫻があります。富士の裾野や箱根、房總半島などに生えて居ます。花は小さく白又は淡紅で愛らしいから往々盆栽にされます。千島には千島櫻といふ灌木性の櫻があります。一寸富士櫻に似て居ますが、これとは別種であり花が匂ひます。

茲に尙四季櫻といふ櫻があつて年中花が咲き、主に神社佛閣の境内に植ゑられます。又別に冬櫻と稱して十一月頃落葉後に開花する珍らしい櫻があります。これも稀に神社に見られます。

前に述べたやうな日本の野生の櫻で花の美しいものが六種ばかり、この外に花の餘り美しくないものが色々あります。又野生にはなく培養されて居る美しい櫻は里櫻の外に數種あります。里櫻の園藝品種は夥しい數に達して居ます。これは里櫻が古い昔から培養されて生じたもので、その中の

優品には一々名が附けられ今日に傳はつたものが少くありません。是等の名花の中の普賢象ふけんぞうといふ櫻があります。これは已に室町時代に知られたもので、それから徳川幕府を経て現時に至るまで國內處々に見られます。この櫻は雌蕊が葉に變つて居て種子が出来ませんから、昔から悉く接木で繁殖させて居ます。何故この品種が斯様によく保存せられたかと言ふと、花性が實に優美で木振も立派であるからで、多數の劣等の品種が淘汰された間に普賢象は安全に遺つたのであります。これを見ても古來愛櫻家の苦心の容易でないことが分ります。

これから日本の櫻には概して向上的傾向のあることを御話します。先づ山櫻に就て述べますと、山櫻には先來若葉の色の美しいのが特徴で、殊に眞赤な若葉は最も著しく見えます。他には若葉の茶色のものや、黄赤色のものもあります。然るに茶芽の山櫻の實生から時として赤芽が生ずることがあります。これは若葉の細胞の内にある花青素といふ色素の分量が増したためで、性質の前進的即向上的傾向であります。次は花が八重になりかゝること、一重の山櫻の實生から六瓣七瓣乃至十瓣くらゐの八重の花が生ずることがあります。現に吉野・櫻川・小金井・嵐山などの山櫻にも八重になりかゝつたものが見られます。

山櫻の中には花に香のあるものがあります。古歌にも櫻の花の香を詠んだものが多くありますが、始めは歌人の理想と思はれました。然るに實地に多數の山櫻を調べて見ますと、花に好い香のある



のが少くないことが分りました。

次に里櫻の向上性に就て述べます。小石川植物園で私が実験しました里櫻の中に紫櫻の實生がありました。紫というても其實赤紫の花が咲きます。この櫻の親木は一重であります。實生は立派な八重になりました。同じく里櫻の一つである小鹽山こしはやまは一重でホンノリ赤味のある美しい花が咲きますが、その實生からは八重で好い香のあるものが出来ました。それでこれに小鹽山句といふ名をつけました。是等は何れも著しい向上的進化の實例であります。外にもこれに似た變異の起つたものが色々あります。里櫻の中に菊櫻と言ふものがあります。この櫻の花は恰も菊の花のやうに多數の花弁を着けて居て、外側の花弁は大きく内側のものは小さく、大小合はせて二百枚もあります。他には同様の櫻で花弁の数が總計三百枚に達するものもあります。花の色は紅色で五月上旬頃に咲きます。斯様な櫻には尙名島櫻・鴨櫻ひよどり・白菊櫻・小菊櫻等色々あつて、總べてこれを菊咲櫻と言ひます。又菊枝垂と言つて枝垂になつた菊咲櫻もあります。

山櫻にも香櫻がありますが、里櫻の中には一層香の強いものがあつて、遠くから香が傳はつて來ます。東京帝國大學内元法文科の建物の前に二本の瀧匂といふ香櫻がありました。大震災後どうなつたかは知りません。香櫻には蜂が多く集り又蝶が來ます。現に遺つて居る昔の香櫻の品種は十以上もあります。

茲に尙一つの珍しい櫻は伊勢の白子の不斷櫻しんごといふもので、寶曆年間の繪本にも此櫻の繪が出て居り有名なもので今日に保存されて居ます。冬も葉が落ちず、花が咲きます。寒い時に咲く花は小さく花梗が短く、暖かい時の花は大きく花梗が長く伸びます。絶えず花が咲くといふので不斷櫻の名が附きました。この櫻は白子觀音の靈樹となつて居るもので、先年天然紀念物として法律によつて指定されました。

これから櫻の名所・名木・大木の中で主に指定されたものに就て御話します。

大和の吉野山は歴史上著名であります。櫻の名所としても本邦第一であります。此處の櫻は白山櫻で、花が白く、香のあるものもあります。地域の廣いこと、櫻の多いことでは他に類がありません。文祿三年豊太閤が花見に來てから一層名高くなり、又是れより先天正七年大阪平野の郷士末吉勘兵衛が櫻の苗木一萬本を寄附したことも知れて居ります。今日の下千本（一目千本）中の千本・上の千本・奥の千本は昔とは自然の趣が變つて來ましたが、それでも山櫻の名所としては代表的であります。

常陸の櫻川は謠曲にもある通り櫻で有名であります。幸に今日に遺つて居ります。これも白山櫻であります。東北地方の天然品種を集めたもので、花の色が淡赤く花梗に毛があり又香のあるものが多い。櫻川の櫻は木花開耶姫を祭る社殿への參道即ち櫻の馬場の兩側に植はつて居ります。又昔



の櫻川の細い流れの岸邊にも櫻があります。

東京郊外の山櫻の名所は小金井で、元文年間代官川崎平右衛門が植ゑたものであります。この櫻は吉野と櫻川から來たものとして傳へられ、延長一里半に亘つて水道の兩傍に並木の如く立つて居ます。東京市の管理に屬して年々櫻の保護に努めて居ますから病害は殆ど無く、見事な花が咲きます。櫻の名所として樹木の保護が行届いて居る點では全國唯一であります。

彼岸櫻と枝垂櫻の名所としては仙臺の榴ヶ岡が第一で、木の古いので有名であります。もう一つ新らしい名所は愛知縣の木曾川堤で、これは明治の中頃に彼岸櫻・枝垂櫻・山櫻を交せて植ゑたもので、若木であります。長い堤防に植はつて居るため花時は見事であります。

染井吉野の名所としては熊谷堤が一番古く。明治十六年に植ゑたのであります。今日では染井吉野は殆ど全國的になりましたが、熊谷堤が先づこの櫻の代表であります。里櫻の優種を列植した名所は東京市外の荒川堤で、江北村内にあります。こゝは明治十九年築堤が出来た時古來の名花七十八種を植ゑた所で、一々正しい名が付き、花の形、大きさ、色、香の有無等千差萬別で、世に荒川の五色櫻と呼ぶのは實際花の色の様々であることを表して居ます。香に觀賞上無比の壯觀であるばかりでなく、學術上貴重な生標本であります。こゝの櫻はその後河川改修工事のため或部分が取拂はれ、又交通頻繁のため樹勢も損傷し品種も枯死したものが少くないが、尙大體に於ては依然里

櫻の名所として價値を保つて居ます。

櫻の名木で最も著しいのは京都の御所紫宸殿前の左近の櫻で、今までの櫻が枯れたため最近御植換になつたとのことであります。先年元の櫻を拜觀しましたが、立派な赤芽の山櫻で、純白の花が咲き、木振が優美で壯嚴でありました。櫻の名木として奈良の知足院の境内にある奈良八重櫻も珍しいものであります。老木で大抵五月の初に紅色の八重の美しい花が咲きます。徳川幕府時代から知れて居る名木であります。

岐阜縣の揖斐の二度櫻は一株の山櫻で一重の花が咲き、又或る枝には八重の花も咲きそれから後になると他の枝に二段咲きの八重の花が咲きます。二段咲きとは花の心から更に小さい花が出るのでこの名が附きました。

櫻は壽命が短いと言はれますが、それは保護が行届かず、又は短命の種類の場合に限るので、染井吉野の如きは壽命の短い種類であります。

櫻の中で最も大木になり樹齡の長いものは、彼岸櫻であります。この櫻の有名な巨樹は山梨縣の山高の神代櫻で、地上五尺の幹の周圍が三丈五尺、日本一の櫻の大木であります。樹齡は千年にも近いと言はれて居ます。

山櫻の巨樹は狩宿の下馬櫻一名頼朝の駒止櫻で、静岡縣の富士の裾野の上部にあります。幹の地



上四尺の周囲が二丈八尺、花の咲立ては淡紅色で、後に純白になり立派であります。もう一つ壯大なる櫻は福島縣三春の灌櫻であります。昔三春の藩主が觀賞したもので、地上五尺の幹の周囲が約三丈、花は紅色で長い枝が灌のやうに垂れてゐるところからこの名が附きました。現時も樹勢は健全で毎年立派に咲きます。この櫻の立つて居る所の上方に舊藩主の花見の臺地があります。又櫻の枝下の地面は昔から免税地で、維新後は國有になりました。櫻の根元には樹の保護のため舊藩時代には石灰の俵が積んであつたこととあります。樹齡は六七百年も経て居ると思ひます。東京から近い埼玉縣桶川驛の西一里石戸村に蒲櫻があります。この櫻は馬琴の著「玄同放言」に渡邊華山の寫生圖を掲げて由來が記載されて居るので名高くなりました。この圖には、五本の幹があります。が、今では真中の一本がなくなり四本残つて居ます。根元の周囲が四丈で枝が四方に出て居ます。これは山櫻ではなく別の種類であります。この櫻の根元の周囲に十數枚の古るい板碑が立つて居てその中貞永の年號のあるものが一枚あります。是等の板碑の中には樹の生長によつて幹の中へ一部分取込まれて居るものがあります。

我國華としての櫻は今御話しましたやうな特色があり、誠に立派な花木であります。然るに櫻の國に生れ櫻を國華とする吾々國民の間には未だ櫻に對する十分の理解がなく、随つて櫻の愛護が實現されて居りませんのは遺憾であります。先年英國からコリングウッド、イングラム氏が日本の櫻

を觀賞に来て、名所の櫻が損傷して病的になつて居ることを指摘せられました。實際其通りであります。

吾々は尙遺憾に思ふことは一般に櫻の種類的甄別の考が殆んどなく、櫻であればどれでもよいやうに思ふことであります。例へば勿來關の名所復舊に染井吉野を植ゑるとかの噂を聞きましたが、それでは義家の「みちもせにちるやまさくらかな」の歌意に協ひません。又滋賀の古都の所在地たる大津邊にも現に多く染井吉野が植ゑられて、忠度の「むかしなからのやまさくらかな」の歌趣は全く沒了されました。京都の嵐山でさへ渡月橋のあなたの廣場が已に染井吉野で飾られて居ります。斯様に櫻に對する甄別殊にその來歴に關する知識を缺いては決して國華としての櫻の眞義を解することは出来ません。

要するに櫻は花性が極めて優美で且向上的性質を有し我國運の隆盛を表はすシムボルで、國華として誠に貴い花であります。それで今目出度く卒業されました諸君のために、春の海の洋々たる前途を祝福しまして、諸君が將來我國華の如く益々、向上的發達を遂げられんことを祈る次第であります。



## 櫻の來歴

我國には美しい草木が多いが、中でも櫻が随一の花木として觀賞されるのは、この木が山にも里にも普通で、開花の時期があたかも陽春行樂の好季節に當るのみならず、また花性の特別優美であるからで、櫻の觀賞が我國民性となり、また櫻が國華として尊ばれるのも全くこのためである。

**櫻の分佈** の中心たる我國には多數の種類や品種があるが、そのうち最も普通なのは白山櫻で、花と同時に出る美しい若葉が一層花の美觀を發揮する。昔から和歌に詠まれたのはみなこの山櫻で、殊に本居宣長の「敷島の太和心を人間には朝日に匂ふ山櫻花」はこの櫻の眞美を象徴したものである。また古人の俳句にも「山櫻さくらの中の櫻かな」とある如く國華としての櫻は山櫻を指すのである。

彼岸櫻と枝垂櫻とは大木になり數百年も生きる。昔から寺院の境内に多く植ゑられ、關西では根來寺その他に見られる。

里櫻は一般庭園に見る濃艶の花の咲く櫻で、京阪地方では厚物といふ。一重もあるが八重のものが多く、花が大きく、白淡紅・濃紅・紫紅などで淡黄や萌黄のものさへある。里櫻の起原は甚だ古く、奈良時代にもあつたらしい。今日の里櫻の中には室町時代から傳はつた品種がある。

明治維新後東京に染井吉野といふ新しい櫻が現れた。これは江戸時代には知られなかつた櫻で、廣重の江戸の花見の繪などにもこの櫻は描かれてゐない。山櫻と違ひ花の盛りに葉が出ず、満樹皆花の盛觀はあるが、どれも千遍一律で、山櫻のやうに木ごとに芽色が異なり、かつ優美な特性がな

る。上述の普通の櫻の外に、日光から奥羽地方・北海道等には紅山櫻が生え、臺灣には緋寒櫻、富士山・箱根その他には富士櫻(一名豆櫻)、東北地方には丁子櫻などさまじくの野生の櫻がある。このうち臺灣の緋寒櫻は昔琉球へ移され、それから薩摩に渡つて、薩摩の緋櫻ともいひ、また舊正月元日ごろに花が咲くから元日櫻といつて、江戸時代には珍らしがられた。

**櫻の名所** で歴史的に最も名高く、且地域の廣いのは吉野山である。この山の櫻は白山櫻で、多數の天然品種があり、花の部分に變異が現れてゐる。吉野山には昔から櫻が多く、又櫻は神木として伐らなかつたから盛に繁殖したと貝原益軒も述べてゐる。

吉野山の櫻は昔の歴史に因んで名高くなつたことは「歌書よりも軍書に悲し吉野山」と詠んだ支考の句や、梁川星巖・藤井竹外・河野鐵兜のいはゆる芳野懷古の三絶によつても知られてゐる。

吉野の櫻に關する古今多數の文獻の中に元祿四年に僧雲水の著した「吉野夢見草」(版本五冊)が



ある。雲水は吉野山の麓比蘇の古寺に住んだ歌僧で、詩も作り、文章にも長じた。彌生のころ二日にわたつて山中の百餘の櫻の名所を一一歴訪して花を賞し、その他の史實や傳説を調べて多數の詩



八田知紀筆  
吉野山の和歌短冊  
(今村一駿氏寄贈)

歌を詠んだ。山中の史蹟に對して昔を偲ぶ至情が表はれてゐる。

吉野山の歴史に光彩を放つものは文祿三年豊太閤の花見である。關白秀次を始め右大臣季晴その他の公卿、また武將として浮田秀家・前田利家・伊達正宗、連歌師として紹巴・昌叱等を供して、飽くまで花を賞し、連歌の會を催した。兵馬倥傯の當時にあつても、英雄の胸中閑日月のあつたとが窺はれる。この時の詠草は「芳野花樹懷紙」として伊達伯爵家に藏せられてゐる。

昔の吉野觀花の人々の中には、俳人として貞室・芭蕉、歌人として西行・飛鳥井雅章、儒者として中井竹山・頼山陽、畫人として三熊花顛・岸竹堂の如き名家もあるが、國學者としては本居宣長が明和九年山に登つて「萱笠日記」を著した。宣長が和歌によつて櫻の美性の顯揚に努めたことは前に述べた「敷島の和大心」の一首に盡きてゐるが、そのほか「まくらの山」一名「櫻花三百首」(享和二年)によつても判る。

豊太閤の花見に先立ち、天正七年大阪平野の郷士末吉勘兵衛が櫻一萬本を吉野山へ寄附したことは同山の櫻樹存續上の一大美舉である。實際、吉野の櫻は古い昔から絶えず植ゑ繼がれたので、前に述べた僧雲水の著述や寛政十三年出版の三熊花顛の「吉野の榮」などにも、吉野山の登口で子供らが花見の客に櫻の苗を賣つて植させたことが書いてある。

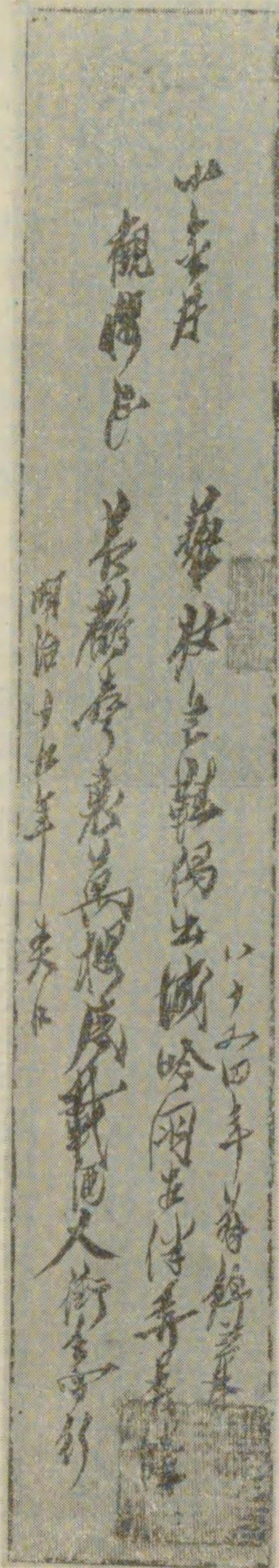
明治二十年自分が初めて吉野に行つたころは吉野はなほ深山幽谷の趣があつて、櫻も夥しく生え立派に育つてゐたが、近年交通の便が開けてから、多數の人が花見に行き従つて山中の有様が變り櫻の損傷も甚だしくなつた。大正十三年吉野山は史蹟及び名勝として法律によつて指定され、櫻の保護をも施すことになつたが、また吉野熊野一帯の國立公園の地域として指定せられる曉には、これによつても同所の櫻は保存されるであらう。

吉野に次での古い櫻の名所としては常陸の櫻川で茨城縣西茨城郡東那珂村にある。謠曲にある名高い櫻の名所であるにも拘はらず長く忘れられてゐたが、近世になつて再び世に紹介された。この櫻は東北系統の美しい山櫻で、櫻川の岸邊と木花開耶姫を祭る神社の參道とに植はつてゐる。

關東平野における山櫻の一大集植としては東京市外小金井の櫻である。玉川の水道の兩岸約一里半にわたつて、元文年間土地の代官川崎平右衛門が櫻は水毒を消すとの理由によつて幕府の許可を得て植付けたものである。その後櫻は地味に適して成木し立派な花が咲くやうになつたから、次第



に花見に行く人が殖え、文化三年には佐藤一齋が林大學頭と共に来て、名文によつて花見の有様を述べた。また文政九年には越前丸岡の城主有馬左兵衛佐譽純の一行は騎馬で花見をしたことが當時



伊藤孫令(贈寄) 小井金太郎 伊藤孫令(贈寄) 小井金太郎 伊藤孫令(贈寄) 小井金太郎 伊藤孫令(贈寄) 小井金太郎

の繪卷物として傳はつてゐる。

以上の三大名所の櫻は何れも山櫻であるが、京都の嵐山も同様で昔 龜山天皇の御時に吉野山から山櫻の苗を移され、また明治十六年には有吉三七氏が多數の山櫻を植繼いだ。これらの山櫻は今日多く枯損したから、大阪營林局では嵐山の櫻の補植について一大計畫を立て、昨年(明治三十四年)から實施されたから、將來において同所の櫻の景觀は面目を一新するであらう。

なほ昔からの櫻の名所としての御室の櫻は京都仁和寺の境内にあつて、美しい里櫻が灌木状になり、根本から多數の枝を出してゐるのが特徴である。また仙臺の榴ヶ岡の櫻は元祿年間伊達綱村の時に植ゑた彼岸櫻と枝垂櫻の老樹であり、岐阜縣霞間谷の櫻は主に山櫻で、文化文政の頃からすでに著名になつた。

このほかに明治年間に出來た新しい櫻の名所としては、東京市荒川堤の五色櫻は里櫻の品種から成り、また愛知縣木曾川堤の櫻は山櫻と彼岸櫻である。また埼玉縣熊谷堤、新潟縣加治川堤は何れも染井吉野の名所である。

**櫻の名木** として名高いのは奈良市知足院の奈良八重櫻で、「いにしへの奈良の都の八重櫻」の古歌に因んで名付けた名櫻である。大阪府三島郡磯良神社のいぼ櫻は八重山櫻の一大老樹で、「攝津名所圖繪」に圖説が出てゐる有名な櫻である。三重白子の子安觀音境内にある不斷櫻は年中開花する珍らしい櫻で、寒中にも落葉しない。この櫻は寶曆五年出版の「繪本櫻狩」に圖が載せられて「伊勢參宮名所圖繪」にも出てゐるが、白子の町にはこの櫻の謠曲が傳はつてゐて、都から勅使が下り、不斷櫻を見に來た時漁夫に化した櫻の精と問答することが仕組まれてゐる。その他富士の裾野の上部静岡縣富士郡白糸村には狩宿の下馬櫻一名頼朝駒止櫻といふ山櫻の巨樹がある。卷狩時代からの櫻といはれてゐるほど老大木である。

以上述べた如く昔の櫻は主に山櫻であつたが、近世になつて、前に述べた染井吉野が夥しく殖えて各地に植ゑられ、山櫻を壓倒するやうになつた。これもこの櫻の繁殖力が強く、苗木の供給が容易であるためである。

**櫻の保存** が近年頻りに講ぜられるのは喜ぶべきことであるが、一方櫻に對する歴史的または種



類的觀念の缺けてゐるため、彼の勿來の關址や滋賀の都址などへ染井吉野を植ゑて、古歌にあるこれ等の山櫻の名所の意義を没却するのは遺憾である。

櫻は花期が短いから何人もその延長を欲するが、保元の昔櫻町中納言は花神に祈つて三七日間花の壽命を延ばしたと傳へられた。今日から見ると、櫻の散るのは花瓣の本に離層といふ組織が生じて離れ落ちるのであるが、低温度はこの離層の形成を妨げるから花が散らない。さうして見ると櫻町中納言の花の壽命の延長は偶然氣候の寒くなつたためであらう。この實例は現に實驗で證明することが出来る。(大阪朝日新聞昭和九年四月十五日)

### 櫻の今昔

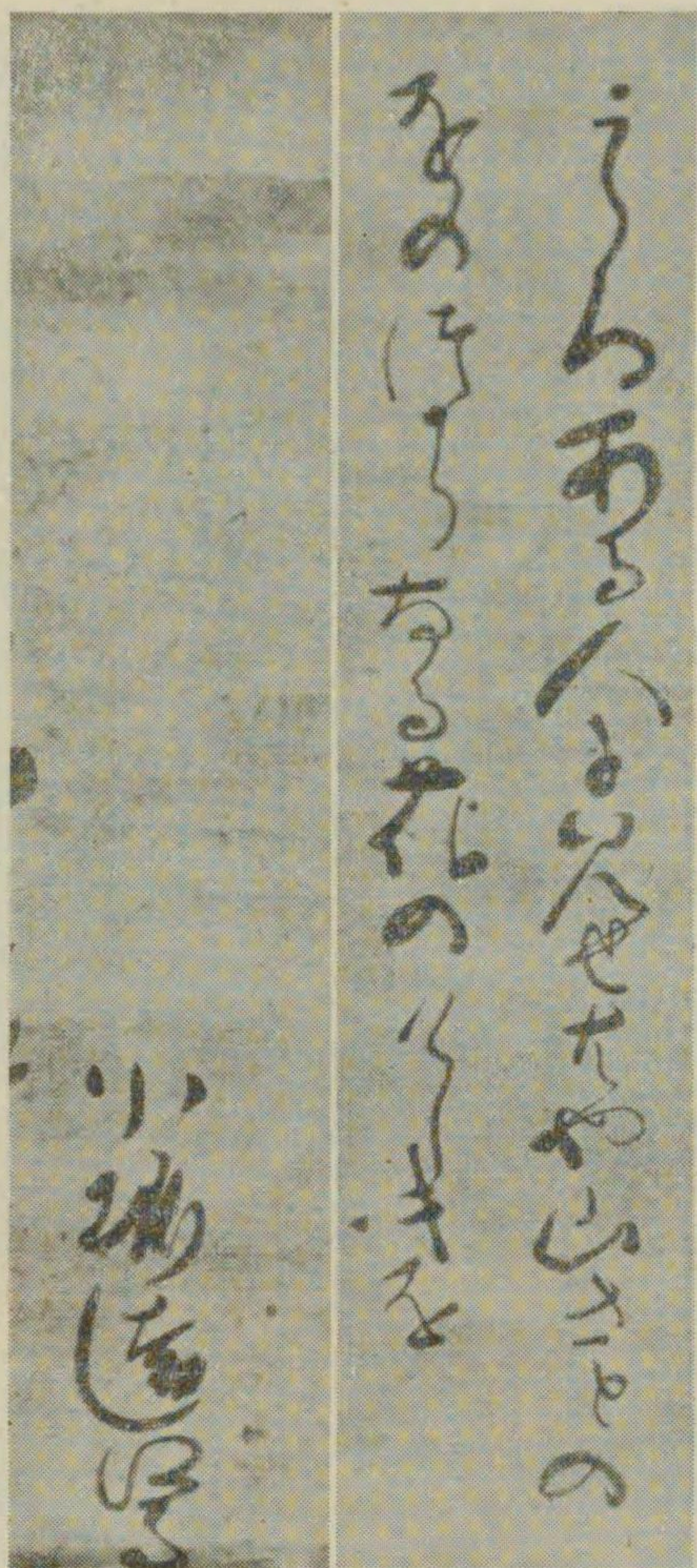
日本には昔から櫻が多い。實際日本のやうに野にも山にも庭園にも路傍にも美しい櫻が全國を通じて見られる國はない。

日本にはなぜかやうに櫻が多いか、これには深い原因があるが、つまり山櫻をはじめ色々の野生の櫻があり、又大昔からは等の野生種が栽培されて夥しい品種が生じたこと、尙後世に至つて近隣の地方からの別の櫻が這入つて來たのによるのである。

此外に日本に櫻の多い一つの原因としては櫻の觀賞が古來國民性となり、随つて其愛護が行れたためである。殊に彼の濃艶なる里櫻が生成した時代から千餘年後の今日までは等の品種が諸處の庭園に見られるのは全く右の原因に外ならない。

**山 櫻** 植物分布の上から日本を代表すべき櫻は固より野生の櫻で、其中でも最も固有で且最も重要なものは山櫻である。

山櫻は日本の東北部から西南部に至るまで普通で、上代の皇居のあつた奈良や京都は言ふに及ばず、如何なる山村僻邑にも生えてゐる。昔の花見や櫻狩は皆此山櫻によつたのである。



小堀遠州筆の和歌

彼の古來無數の和歌に詠まれ、文章に綴られた櫻は殆ど皆山櫻に限つてゐる。

山櫻の特徴は高い樹頭に咲揃つた白い花が美しい若葉で飾られたときに十分に發揮される。若葉の色は赤・茶・淡黄・緑など様々で、木毎に違ふが、殊に赤芽の山櫻は立派である。古來の山櫻の遠景畫には、皆此若葉の色を表現して、一見他の櫻と區別されるやうに描いてゐる。



山櫻の中には花が良い香を發するものがある。去る明治四十三年四月二十一日吉野山の山櫻を調べにいつたとき、中千本から上千本へ行く道の山腹に一株の野生の山櫻で、花の著しく匂ふものを認め、吉野匂と命名した。樹下に立つと風のまにまに香が傳はり、花の周囲には花虻其他の昆蟲が群集してゐた。

匂山櫻は其後尙吉野山中の他處又櫻川・小金井などの山櫻の集植地にも見出されたが、これに就いて思ひ起すことは、古來櫻の匂を詠んだ和歌は多いが、其中でも

山さくら霞にもるゝ匂こそ

ささぬとつくるつかひなりけれ

宗隆

淺みとり野邊の霞はつゝめとも

こほれて匂ふ花さくらかな

菅萬

などは單に歌人の理想によつたものとは思はれない。

山櫻は大木になり、數百年の樹齡を重ねる。花性は極めて優美で又品位が高い、國華の精粹としては山櫻以外に求むべきものはない。昔から紫宸殿前に植ゑさせられた左近の櫻も美しい山櫻である。山櫻が古來如何に多く讚美されたかは茲に述べる必要はない。

山櫻の眞美は旭の花を照したときで、本居宣長も其趣を彼の有名の和歌に詠んで、大和心の象徴

とされたが、又舊幕の能吏で愛櫻詩人の岡本花亭が

紅暎朝々映梢時

露泥濃香見麗姿

認取一春花好處

今朝正是半開枝

と吟じたのも櫻の最も美しく眺められる時刻を敍したのである。

併し山櫻は其生態上からも野山に咲揃つたときに総合的に見る櫻で、里櫻のやうに庭園で一株づつ觀賞すべきものでない。山櫻の見方は實際小

堀遠州の

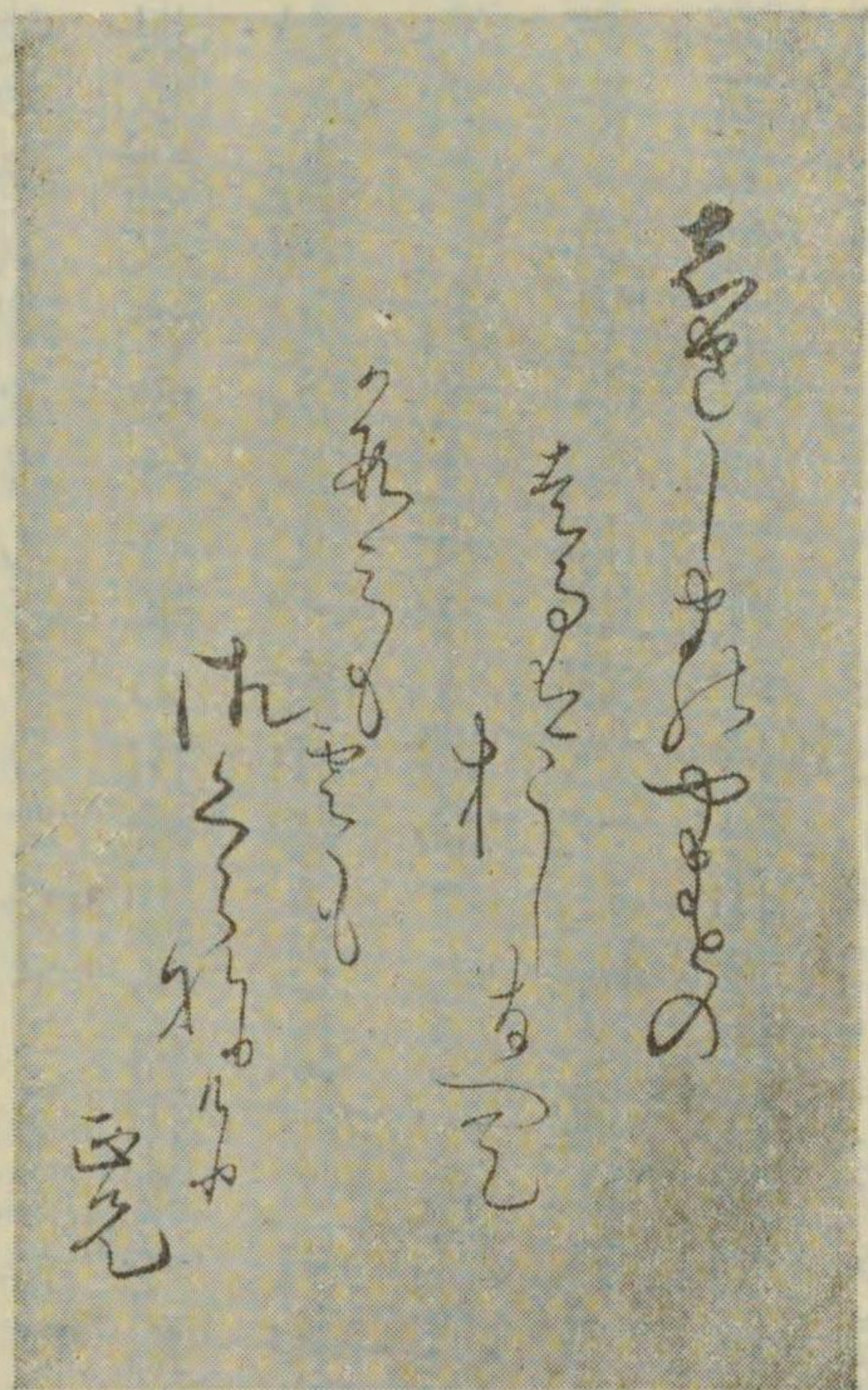
心ある人に見せはや山里の

おのつからなる花のけしきを

と詠んだ通りであるが、又福住正兄の

敷島の大和の春はをしなへて

かすみも雲もさくらなりけれ



歌和の櫻筆兄正住福

の一首にも國華による春の情調が能く表はれてゐる。

山櫻には著しい向上性がある。こゝで言ふ向上性とは花性の一層良くなることで、今一つの山櫻の實を蒔くと、これから生えた子櫻は親櫻よりも美しく、又勝れた花が咲く。此事に關して先年東京小石川植物園で私が試験したことがあるが、實生の山櫻には花が八重になつたり、又白花のもの



から淡紅色のもの、出たことがあつた。

尤もかやうな向上性は獨り山櫻に限るのではなく、里櫻にも亦他の櫻にも見られるが、山櫻では殊に著るしい。即ち山櫻には野山に生えてゐるときから已に如上の變異が現れ、又前に述べたやうに良い香を放つものさへ生じてゐる。國華としての山櫻にかゝるめでたい性質が先天的に具はつてゐることは喜ばしう。

以上述べたのは普通の山櫻即ち白山櫻であるが、これとは別に日本の中部以北の山中には赤い花の咲く山櫻があつて、紅山櫻といふ。五月中旬頃日光中禪寺湖畔又福島縣猪苗代湖の奥の盤梯山麓地方などへ行くと此櫻が咲いてゐる。紅山櫻は北海道では札幌其他に普通で、固有の景觀を呈してゐるが、花色が濃厚に過ぎて陰鬱の趣があるため同地方では却つて清白な染井吉野がすかれる。

交通不便の舊幕時代では紅山櫻は江戸では殆ど知られなかつたが、日光山參拜者などが珍らしがつて同山中から採つて來たものが、江戸の名園に植ゑられた過ぎない。

茲に面白いことは、紅山櫻の花の特徴が印度のヒマラヤ櫻に似てゐる。ヒマラヤ櫻はヒマラヤ山の東南部海拔五六千尺ぐらゐの高地に野生してゐて、ダーヅリン邊にも多いから、カルカタから花見に行く。私が去る明治四十年同地へ旅行したときには汽車の通る山林に此櫻が生え、又野生の孔雀のゐたのを見た。

**里櫻** 優美な山櫻に對して濃艶な里櫻がある。里櫻とは主に庭園に植ゑられる美しい櫻で、一重もあれば八重もあり、純白雪の如きものから淡紅、濃紅、紫紅、淺黃、綠に至るまで色の變異は様々である。俗に八重櫻と言はれるが、八重ばかりではない。上方では厚物と呼んでゐる。

里櫻の始めて現れた年代はわからないが、已に奈良時代に知られ、平安時代に至つて其品種が殖えたことと思ふ。すべて里櫻は庭園の櫻としては山櫻よりも特別美しく、又珍しかつたため、禁苑を始め公卿の邸宅、社寺の境内などに植ゑられ、其中特に花性の著しいものには自ら名がついた。

今日の里櫻の中で優秀で、又歴史の古るいものは普賢象ふげんぞうである。若葉は赤く、花は柄が長く垂れ、淡紅大輪、重ねが厚い。花心から二つの綠色の小さい葉が出て、其先が上へ向き、普賢菩薩の乗つてゐる象の鼻から牙の出たやうであるから此名がついた。

此櫻は伊勢貞丈の著した「弘治節用集」に普賢象櫻名自花間葉ノ出故也象ハ鼻間ヨリ牙出也と記されてゐるのを見ると、已に室町時代に汎く知られてゐたことがわかる。又同書に普賢堂櫻名と出てゐるから、彼の天明寛政頃に京都の三熊花顛並に其妹露香の描寫した三十六櫻譜の普賢象の圖に普賢堂と記されてゐるは、此櫻の京都に於ける名所を擧げたことになる。

室町時代には普賢象の外里櫻に屬する種々の櫻品があつたであらうが、一々其名が傳はらない。然るに徳川幕府の時代になると延寶元祿頃に出版された園藝書類殊に江戸染井の植木屋伊藤伊兵衛



の著したものには里櫻の品種の圖が載せられ、又享保頃の本草書例へば稻生若水の「庶物類纂」などには是等の櫻品が擧げてある。

文化文政から天保に至る頃は名櫻の觀賞と櫻品の甄別の全盛時代と言はれてゐる。此傾向は單に一部専門家や趣味者に限つたわけではなく、一般民衆的にも普及したことが認められる。今此櫻花讚美の原因に就て考へて見ると、徳川幕府の中期頃から櫻品に關する知識の通俗化が行はれて來たことは争へないが、其根源となつたのは恐らく寶曆八年に出版された京都の本草家松岡恕庵（名は玄達、怡顔齋と稱した）の著「櫻品」であらう。

此書には櫻の種類殊に里櫻で當時著名の品種を擧げ、其花性、故事、傳説を記し、一々簡單の圖を添へてある。同書が汎く世に行はれたのは著者の原著を俳人蘆田鈍永が通俗文に直して解り易く面白くしたため、櫻に關する最初の良書として愛讀されたのは當然である。

「櫻品」は後世になつて屋代弘賢の「古今要覽稿」を始め、此類の考證上の著述に引用せられたことは勿論、又其櫻の圖は狂歌堂眞顔の「花ぐはし」、松廼家の「花櫻狂歌集」其他に轉載せられ、又扇面にさへ同書の櫻圖が悉く載せられたものがある。其他通俗の繪本などにも彩色圖として現れた。すべて是等の圖には一々櫻の名がついてゐるから櫻品の知識の普及に有益であつたことは言ふまでもない。

松岡恕庵の櫻品はかやうに學術文藝其他の方面に引用されたが、是れとは別に文化以降名櫻の集植が頻りに行はれた動機の一は、是より前三熊花顛や露香の描寫した名畫が世に出たことによると思ふ。花顛は前に述べた如く三十六櫻の畫譜を作つた人で、安永の頃から畫いた櫻の作品が今日に遺つてゐる。殆ど其一生を名櫻の描寫と愛讀とに捧げたことでは古今唯一人である。

花顛は伴蒿蹊・僧六如其他當時の文藝の士と交り、文章に巧であつたことは、其著「續近世畸人傳」を見てもわかる。名櫻の所在地の探索のためには近畿地方は勿論態々飛驒高山邊まで旅行して、隨所で櫻を描寫した筆跡は現に高山に近い千光寺其他に傳はつてゐる。殊に吉野山へは度々行つて櫻を調べ、又其保護に關心してゐたことは其著「吉野菜」に述べてある。

花顛の櫻の畫幅や殊に名櫻三十六を擇んで畫がいた「櫻花帖」を見るに、其畫筆の巧妙で、彩色の絢爛たるは言ふまでもなく、卷を開けば櫻の畫が畫面から浮いて出るやうな心地がする。露香も亦櫻畫が巧で、兄の歿後は其筆意を承けて畫いた三十六櫻の寫生は「櫻華藪」（蜀山人が其著「一話一言」中に記したもの）、「倭花名品」（醍醐寺藏）、「花譜」（吉野山喜藏院藏）などとなつて現存してゐる。櫻の名畫は古今に少なくないが、此兩人の櫻畫が名櫻の讚美心を惹起せしめる上に効果のあつたことは明かである。

花顛露香の櫻畫上の事蹟は姑く措き、前に述べた江戸に於ける名櫻の集植は大名の別墅や民間の



庭園に行はれた。此中で著名のものを挙げると、享和文化の頃本所五の橋の市橋星峯公（名は長昭、近江仁正寺城主）の邸にあつた櫻園には各地から採植した二百有餘の珍しい櫻品、主に里櫻に屬するものが栽培され、又文政年間築地の白河樂翁公の別墅浴恩園には百二十四の名櫻が植ゑられた。又天保の頃に名高かつたのは麻布長者ケ丸の幕臣久保櫻顛（名は帶力）の櫻園で、こゝに栽培された百三十六櫻品は殆ど里櫻で、世間に見られない珍奇な種類があつたと記載されてゐる。

茲に述べて置きたいことは、是等の櫻園の設けられたのは單に娛樂のためでなく、又園藝のためでもない。其目的とする所は、一に名櫻の愛觀甄別保存であつたことは幸に今日に遺つてゐる各櫻園の櫻譜や關係文獻によつて知られる。即ち星峰公の櫻園の櫻は「花譜」（五帖）に畫がかれ、樂翁公の浴恩園の櫻は「はなのかゝみ」（二卷）に描寫され、又櫻顛の園中の櫻は「長者ケ丸櫻譜」（一帖）に其眞寫が傳はつてゐる。

上記の三櫻譜中の第一は櫻井雪鮮、第二は谷文晁門人、第三は坂本浩然の筆に成り、描法精緻、一面優れた美術畫とも見られる。共に櫻品研究の貴重なる參考となるのみならず、又是等の櫻園にあつた品種が現世に傳はつてゐるや否やを判斷すべき資料となる。

上に述べた櫻園の櫻は何れも多大なる苦心によつて集植されたものであつたが、惜いかな時勢の推移と環境の變化によつて、櫻園の廢頽と共に亡くなつたものもあつたが、中には他所へ移され、

接木其他によつて繁殖され、幸に今日に残つてゐるものもある。

明治の初に東京巢鴨傳中に高木孫右衛門といふ花戸があり、父子二代の丹精によつて、里櫻の名品種約八十を自園に集めて栽培した。これが即ち明治十九年東京の郊外江北村の荒川堤上に植ゑられた櫻で、他種の櫻を措いて特に此里櫻が擇ばれたのは、實に當時の村長清水謙吾氏の發意である。此時の栽櫻の顛末は同氏著「江北樂事」（明治二十四年）に述べてある。

荒川堤の櫻が其後成木して見事に咲くやうになつたのは明治三十四五年頃からで、堤上は艶麗無比の美花で飾られ、花見の人々をして我國にはかくも立派な櫻があるかと驚嘆せしめたのは無理もなし。

私が荒川の櫻を始めて見に行つたのは明治三十六年四月二十四日で、長堤の花候は眞盛り、白・紅・赤紫・黄・草色など、世にいふ五色櫻が咲亂れ、匂櫻からは芳香が傳はり、又枝の直立した天の川や箒を立てたやうな箒櫻など木振の珍しい櫻があつた。

それから同月二十七日再び荒川堤へ行つて同地の船津靜作氏を訪ひ、同氏の案内で堤上の櫻を見た。船津氏は清水氏を佑けて栽櫻事業を完成せしめ、昭和四年物故されるまで、櫻堤の保護と櫻品の調査とに寧日がなかつた程の愛櫻家で、荒川の櫻の恩人である。

かやうに荒川堤は古來嘗つて無かつた里櫻の多數の名種の栽植地として、明治時代に於ける櫻の



著しい名所となつた。然るに里櫻は一般に短命で、又枯損し易い性質があるため、年々の花時の際して、堤上の甚しい雑沓によつて枝が折られ、樹が傷つき、其上河川改修工事のため櫻堤の或る部分が取拂はれ、加ふるに今日では自動車殊にトラックの通過によつて櫻樹の枯損が一層甚しくなつた。これも環境の變化で已むを得ないといへ、誠に惜むべきである。

里櫻の名花の中で東京の庭園に普通見られるものは長州緋櫻（一重、紅、若葉も紅）、松月（八重、白、花梗が長い）、一葉（八重、咲立ては淡紅、後白、花から一枚の小葉が出る）、關山（八重濃紅、花心から小葉が出る。若葉も濃紅）、普賢象（八重、淡紅、後には殆白、花心から二枚の小葉が出る。葉は紅）、鬱金（八重、淡黄）、御衣黄（八重、緑と淡黄と紅との染分）などである。京都には車返（一重と八重との花が交つて咲く）が多い。

毎年新宿御苑で催させられる観櫻御會は美しい里櫻の咲揃つた時で殊に一葉櫻を多く拜観する。去る明治四十五年（大正元年）東京市から北米合衆國大統領タフト氏夫人に贈つた櫻は里櫻十品種と外に染井吉野で、ワシントン市のポトマック河畔にあるタイダルベトズン公園に列植した。是等の里櫻には一重もあり、八重もあり、又色も様々で何れも立派である。栽植後十分の保護が施されたため盛に成木して、年々異邦の春に日本の國華の美を示してゐる。

**彼岸櫻と枝垂櫻** 昔からの櫻として著しいものには尙彼岸櫻と枝垂櫻とがある。彼岸櫻は山中に

も自生するが、枝垂櫻はこれから變つたもので、唯庭園などに植ゑられてゐる。江戸には上野を始め處々の寺院に是等の櫻の老樹があつて、明治の中頃までは立派に生育してゐた。彼の廣重の「江戸百景」や「江戸名所四十八景」などにも上野日暮里邊の彼岸櫻や枝垂櫻の花盛りが描いてある。

彼岸櫻と枝垂櫻とは古來多く寺の境内に植ゑられた。それは是等の櫻は皆早咲で、年によつては彼岸詣の頃に花が見られるからであらうが、又其太い幹が高く聳え、殊に枝垂櫻では絲櫻とも呼ばれるやうに花を着けた長いしなやかな枝が高處から垂れて、堂塔の景色によく釣合ふことにもよる。

彼岸櫻の第一の巨樹は山梨縣山高の實相寺の神代櫻で、目通幹圍三丈五尺、日本の櫻の代表的大木である。然るに近年暴風で太い枝が折れ、樹勢が損じた。

彼岸櫻の第二の巨樹は岐阜縣根尾谷の淡墨櫻で、目通幹圍が三丈ばかり、樹は健全で、太い枝が出、其位置が高臺にあるため花時の眺望は壯觀である。

枝垂櫻の最大樹は福島縣三春の瀧櫻である。目通の太さ三丈一尺、四方に擴がつた枝から無數の垂枝に紅色の花が咲き、風に靡く様は一大美觀である。此櫻の立つてゐる所は盆地の中腹で、其上部に舊藩主の花見の場所がある。明治維新の頃までは此櫻の枝下の土地は無税であつたといふ。正保年間三春城主が封ぜられたとき大樹であつたから、此櫻は恐らく五六百年の樹齡を重ねてゐるものと考へられる。



かやうに彼岸櫻や枝垂櫻には大木になり、長壽のものがあるが、又山櫻にも同様の老樹がある。櫻は往々短命といはれるのは或る種類に限るか又は周囲の状態によるので一般には當らない。

彼岸櫻と枝垂櫻との集植地として名高いのは仙臺の榴ヶ岡で、元祿年間藩主伊達綱村卿の栽植せしめたものである。櫻は舊馬場の兩側に並んで、幹の頗る太いものがある。花の色は白又は淡紅で八重になりかゝつたものもある。

關西地方では紀州の根來寺にも此類の櫻が多かつたことは加納諸平（紀州の國學者）が文政十三年に同寺へ花見に行つたときの自筆の紀行「山菅」にも見え、又私自身の實地に見た記憶もあるが、今日では大抵染井吉野に變つてゐる。此一例によつても古來の彼岸櫻や枝垂櫻又は山櫻の名所が後世になつて櫻の種類の変遷と共に特色を失ふことがわかる。

**染井吉野** 「江戸名所圖繪」・「東都歳事記」・「江戸花曆」などは勿論、廣重の浮世繪に現れた上野向島などの櫻の景色は殆ど皆山櫻である。又清親の花見の繪などにもよく山櫻が畫かれてゐる。

私は江戸に生れ維新の時國へ行つたが其頃の江戸の櫻は幼少で覺えがない。明治十五年から東京に住んで、在學の餘暇花見に行つた。此時代にはまだ山櫻が多く、染井吉野は少かつたやうである。

染井吉野は朝鮮系統の櫻と認められるが、併し東京へ移植された徑路は明かでない。唯明治の初頃染井の植木屋で培養されたやうに言はれてゐる。此櫻を俗に吉野と呼ぶが、大和の吉野山の櫻は

山櫻で、これとは別種であることは述べるまでもない。

染井吉野は生長が盛んで早く花が見られ、又挿木で容易に繁殖するから、随つて苗木の供給が豊富で、價も亦安い。山櫻のやうに優美な特徴はないが、花の時には葉が出ないから滿樹皆花で、單調ではあるがもてはやされる。

染井吉野の老樹で、小石川植物園の正門内にあつたものは維新の頃の遺木と見られた。又此櫻の並木として明治六年に福島縣郡山の市外に植ゑられたものは即ち今日の開成山の櫻で、又山櫻や彼岸櫻も同所に植はつてゐる。植ゑられ場所が道路から隔たり、損害を受けなかつたため完全に成木して、染井吉野の目通幹圍九尺餘に達し、枝が四方へ伸びて地に垂れかかり、東京市内などの同樹の木振とは大きな違ひである。

埼玉縣熊谷の堤防にある染井吉野の並木も此櫻としては代表的で、明治十六年同地の林有章氏の栽植にかゝるものである。右の兩所の櫻並木は曩に天然紀念物として指定された。

染井吉野は兎に角明治の中頃までは珍しかつたから、前に述べた江北村の荒川堤に櫻樹栽植の議の起つたとき、村内では染井吉野を植ゑたい希望もあつたが、村長清水氏は衆議を排して名櫻保存のため優れた里櫻を集植したのである。

明治の末から大正を經、昭和の今日に至つては染井吉野は益々普及して、新規の櫻の名所を作る



ときは勿論昔の櫻の名所の復興にも亦此櫻が多く植ゑられた。櫻の名所の復興は善いが、近畿地方の都趾や古い關趾などに矢鱈に染井吉野を植ゑるのは和歌に因んだ山櫻の名所の歴史的意義を没却することになる。これも畢竟櫻品に對する認識不足の結果と言はねばならぬ。

近世の櫻としての染井吉野は植場所によつては適當であるが、併し觀賞の由來の最も古い日本固有の山櫻を始め、庭園に植ゑられる里櫻又寺院の境内にふさはしい彼岸櫻や枝垂櫻其他富士櫻・四季櫻・寒櫻・冬櫻・臺灣産の緋寒櫻など特殊の櫻の栽植と保存とを行ひ、併はせて櫻品甄別に關する知識の普及を圖り、以て國華の顯揚に努めんことを希望する。(文藝春秋第一五卷第一二〇頁昭和十二年)

## 名 櫻

### 櫻 の 名 所

#### 日本中部の山櫻の代表

日本は櫻の國と云はれて居るくらゐに、昔から花の名所は諸處にあります。殊に名高いのは大和の吉野山で、此處にある山櫻の数の多いことは他に並ぶ所はありません。此山櫻には多くの品種があり、若葉の色から花の色、花の着方や大いさ、香の有無、花期の早いのと遅いの、或は木振り枝振りに至るまで、いろ／＼の違ひがあります。

此處に行くには、今日では汽車の便利があり、吉野驛で吉野鐵道に乗換へて、六田まで行き、それから吉野川を渡つて約一里半ばかりも山の脊を登つて行くと、段々に櫻が見えて來ます、一番手前にある一目千本から始まり、中の千本・上の千本を経て、奥の千本に至るまで、約一里餘の間に山櫻が植はつて居ます。此處の山櫻は皆山奥から採つて來て植ゑた所の天然品種に屬するもので、



何れも日本中部の山櫻の代表であります。

### 鬱林の中の山櫻の眺め

吉野山の櫻は、歴史上有名なるのみならず、學問上からも貴重、又美觀上からも優れて居ます。此櫻の來歴は能く判りませぬが、恐らく太古以來此地に植ゑられ、漸次植ゑ足されたものであらう。花は四月十日過から見られます。先づ一目千本から咲き初め、段々と咲いて、奥の千本は約二週間も後れて咲きます。山中は閑靜で、樹間には鶯が啼いて居ます。茂つた林の中に、山櫻のあちこち見えるのは、得も言はれぬ優美な景色であります。

櫻を見るには晴れた朝早く起きて、旭が花に當つた時が最も美しい。月夜の櫻・風前の櫻・雨中の櫻など、それらの趣はありますが、何れも、旭の花の美觀には及びませぬ。吉野山には保勝會が設立されて櫻の保護を講じ、又同山中の史蹟の保存に努力めて居ます。

### 壺坂寺と嵐山の櫻

壺坂驛から約一里餘、壺坂寺の境内には、吉野の櫻の苗を多く植ゑてあります。これが近年生長して花が咲くやうになりました。同地は山谷の位置がまことに面白く、且つ吉野に通ふ立派な道路

も出來て居ますから、花見る人も尠くない。此地も將來は地方的名所となるでございませう。

嵐山の櫻は 龜山天皇の御時に、吉野の櫻を移植されたといふことで、それ故、吉野種が多く此地に見られます。嵐山は桂川に臨んだ松山でもみぢや他の樹木の茂つて居る間に、山櫻が隠見して居ますので、風景の點からいふと、最も優れて居ます。殊に大悲閣邊の高峯の花の趣は一入であります。

此地の山櫻の時期は、吉野よりは少し早く、大抵四月十日頃に開きます。關西地方には尙櫻の名所として、例へば紀州の根來の櫻、京都の御室の櫻などは、従前から能く知られて居ます。大阪の櫻の宮は元は櫻が多かつたが、今日は見る影もありません。播州では石寶殿邊りの山々に、可なり山櫻が多く、此處も天然の風景が勝つて居ますから、櫻が引立つて見えます。美濃には大垣から遠くない處の霞間ヶ谷に多くの山櫻があります。

關東の方へ來ますと、箱根山中には山櫻が可なりあります。殊に近年強羅附近には多數の染井吉野を植ゑたので、花時は美事であります。

### 小金井の櫻

東京附近の櫻としては、小金井の山櫻が最も名高い。此地の櫻は舊幕時代に、川崎平右衛門とい



ふ代官が、諸方から山櫻の品種を集めて、水道の両側に植ゑたものであります。無論一時にはなく、永い間かゝつて植ゑたので、それが今日のやうな櫻並木になりました。

現時の小金井の山櫻の中には、昔からの木も残つて居ますが、明治維新の頃から段々と植ゑ足したのもあります。此處の櫻は、境から國分寺に至るまで約一里半の間にあり、千五百本の多きに達して居ます。吉野山の如く一箇所の山櫻でなく、關西地方の品種と、關東地方の品種と入り交つて居るから、變異に富んで居ます。それで花の時分は若芽の色や花の色が様々に表はれて極めて立派です。取り分け、日の出の櫻や入日櫻・三吉野櫻などが著しく、殊に日の出の櫻は赤い若芽に雪のやうな純白の花が群り着いて、其上大きな木になり、枝が擴がり出て居るから、周圍の山櫻に比して一層美しく見えます。

小金井の櫻は大抵四月十日過から開き、二十日過まで續きます。尤も年により四月上旬に咲くこともあります。

### 荒川の櫻

荒川の櫻とは、都下江北村の荒川の堤防に沿うて長く植ゑられたもので、此處の櫻が著名になつたのは近來のことである。此櫻は小金井や吉野のそれと異り、悉く里櫻の多數の品種から成立つて居ます。即ち古來傳はつて來た所の名花を、殆ど網羅して居るので、植ゑた時には七十八種としてありますが能く調べると、此數は必ずしも當りませぬ。口元の宮城から埼玉縣境の鹿濱に至るまで一里餘の堤防に沿うて列植され居ます。花期は早いのは四月中旬頃からで、盛りは大抵二十日前後、尤も八重の櫻や匂櫻などは大抵下旬が盛りであります。

此處の櫻は治水工事の爲に、堤防の位置が變り、其或部分は既に取拂はれてしまひましたが、併し新堤防の下の方に此櫻を植ゑて品種を保存することになつたと聞きましたから、將來とても、荒川の櫻は無くなるやうなことはありません。

櫻の名所は日本全國に互つて見られますが、斯く里櫻の名種を多く集めた所は、荒川の外にはありません。

### 東京の櫻

東京市内の櫻は、今日では殆ど十中八九まで染井吉野で代表されて居ます。此櫻は俗に吉野櫻と呼ばれて居ますが、大和の吉野山の櫻とは全く違ひます。吉野の櫻は山櫻ですが、東京のは染井吉野で、全然他の種類に屬するものです。此櫻が東京に移植されたのは、明治維新の頃であります。



其證據には、廣重の繪などを見ても、皆山櫻が描いてあります。向島の櫻は、今日では皆染井吉野ですが、維新以前には山櫻であつたことが分ります。今日の向島の櫻は成島柳北が植ゑたといふことでもあります。兎に角今日帝都の櫻を代表するものが染井吉野であることは昔と變つて居る點で、關西地方の山櫻の多い所から來て見ると、殊に目立ちます。

染井吉野は花の盛りには葉が出ませぬ。夫故何處を見ても花ばかりで、咲揃つた所は美しいが、山櫻のやうな優美な特徴はありません。唯一時にパツと開いて盛りになるだけで、現代の趣味に叶つたものでありませう。

上野公園には染井吉野の外に尙昔から残つて居る彼岸櫻や枝垂櫻の立派な木があり、又里櫻の品種などがあります。飛鳥山には多少山櫻も植はつて居ます。江戸川の櫻も染井吉野で、今日では小金井と云つて居ますが、小金井のは山櫻ですから、全く種類が異なつて居ます。

### 熊谷堤と三里塚の櫻

東京附近の櫻の名所としては、尙熊谷の土堤や、上總の三里塚などがありますが、大抵染井吉野で成立つて居ます。殊に熊谷土堤は熊谷驛に近く、汽車からも見えます。此地の櫻は發生が良いので、向島邊のものよりも見事である。又三里塚の櫻は御料牧場にあるので、廣々とした野原に植はつて居ます。多くは染井吉野で、又山櫻も多少あります。春の日の長閑な時には、此處の櫻もなかなか趣があり、殊に其閑靜な所に價値があります。

### 櫻 川

常陸の櫻川は小金井や吉野に匹敵すべき立派な櫻の名所で、殊に其來歴の古いことでは吉野に次ぐものでありませう。此處の櫻には關東地方の良い品種が多く集つて居て、殊に東北種の赤い美しい花の咲くのが多く見られます。

櫻川は、水戸線の岩瀬驛に近く、約十丁ばかり先の木花開耶姬を祭つてある神社の前の馬場に櫻があります。土地の閑靜なことと、周圍の山の景色の佳いので、この櫻の名所に特色を添へて居ます。

櫻川から約一里、加波山の一部雨引山にも山櫻が多くあります。此地は札所の一で、參詣者が多く、其山中の奥深い木立の間に櫻が咲いて居る有様は、一入美しく見えます。山櫻の品種は櫻川のものと同小異です。



## 北海道の櫻

其他日光邊の山中の櫻は勿論、奥羽地方の山々の櫻などは主として赤い美しい花の咲く紅山櫻で、日本中部及び西南部の山櫻とは趣を異にして居ます。仙臺の榴ヶ岡には立派な彼岸櫻や枝垂櫻の類があり、函館の公園には染井吉野が多く見られます。又札幌には北海道固有の紅山櫻があります。殊に圓山公園の神社の境内に此種類が多く植はつて居ます。此地の開花の時期は五月中旬で、東京から約一月後れます。

以上挙げたのは日本中著しい花の名所でありますが、尙此他櫻の多い所は少くありません。今日では櫻のいろいろの種類を諸處に植ゑることが行はれますから、今後櫻の名所は益々殖ゑるであらませう。

日本の櫻は、外國殊に米國邊にまで行くやうになり、彼地でさへも花見が出来るやうになりました。(婦人畫報第一三三號大正六年)

## 吉野山の櫻

**吉野の位置** 山櫻に名高い大和の吉野山は吉野川の左岸に連なる一帯の山脈に位置を占め、其南方は山續きに大峯・大臺ヶ原などの高い峯が聳えて居る。吉野の町は此山脈が吉野川に臨んで居る先端に近い處で、山の背に沿うて人家が建てられて居る。昔は吉野へ行くには甚だ不便であつて、遠く江戸邊から出掛るには随分日數がかつた。それで態々花見に行つても、丁度盛りに出會はずに、或は早く或は遅く、思ふ存分に花を観ることが出来ずして歸つた人も尠くなかつた。

大和の諸地方から吉野へ往來した昔の道路は色々ある。曉鐘成の著した「芳山花枝折」(嘉永二年出版)に據ると、多武の峯から細峠を越えて行く道が最も險しくて、峠の上から遙に吉野山が南西の方に見え、花の盛り頃には吉野のあたりが白く見えると書いてある。又此書に據ると、岡ノ町から高取山・芋ヶ峠を越して行く道がある。此の道からも吉野が能く見える。其外尙數道あるが、其中壺坂越と言つて、今日の壺坂驛あたりから高取に出て、それから壺坂寺の中を通つて峠を越し、六田へ降りる道がある。途中で名所舊跡の見物も出来、又比較的道が樂である。

昔は斯様に色々の道を通つて來たのであるが、今日は吉野口驛から輕便鐵道で行けば六田まで直



ぐに行ける。以前六田の渡であつた所に今日では橋が架つて居るから、直ぐに對岸に越して山に登り、屈曲した坂を経て山の背に達すると、それから吉野の町までは約一里餘もある。

吉野は前に述べた通り山の背に位置を占めて、其兩側には許多の谷が在る。色々に曲りうねつて小高い所窪い所など高低の變化が多い。南方は深山が續いて居るが、其他の方面は多少眺望が開けて、所に據ると河内邊の山々が見える。

櫻の在る所は吉野の入口から山奥に至るまで約一里半乃至二里ぐらゐの間に跨つて、距離が頗る長い。六田から行けば一目千本へ出る手前邊からして兩側に櫻が現はれ、又上市から川向に渡つて、七曲の坂を登つて行く間にも多くの櫻がある。一目千本は一番櫻の多い所で、深い谷の斜面に密に植ゑられ、其數は實に夥しい。それから段々に進んで、藏王堂から吉水院あたりに達するに従つて、中の千本邊の櫻が段々に現はれて来る。これより追々に上の千本を経て奥の千本に達する間にも亦櫻が多く見られる。

前に述べた一目千本から奥の千本に至る間には名高い櫻がある。例へば吉野の入口に在る關屋の櫻、それから上の方へ行くと布引の櫻・雲井の櫻などがある。尤も此雲井の櫻は枝垂櫻で、吉野の普通の山櫻ではなかつたが、昔から名木として知られて居た。此櫻は先年枯れて仕舞つたが、今日では其後繼が段々に成木しつつある。



景の近附本千上

櫻山の野吉



吉野の櫻の在る所は主として馬の背のやうになつて居る山の峯續きの斜面で、下から登る間に十分に見ることが出来る。其他路傍や寺院の庭園などに立つて居る見事な櫻がある。

斯様に吉野全山は櫻で満たされて居るが、櫻の背景としては多くの杉があり。又其間には麥畑が散在して居る、其外昔の史蹟の多いことは一々言ふまでもない。

**花見の案内** 前にも述べた通り、舊時は吉野の花盛に會ふことは中々困難であつたが、今日のやうに交通が便利になつた時代では容易に花の盛を見ることが出来る、京阪地方からなら日歸りでさへも十分である。

吉野の櫻は前に云うたやうに長い距離に亘つて居るので、口元の所と山奥の所とは自から氣候も違ひ、従つて花の咲く時期が著しく違つて居る。年々の氣候に依つて花期の早晩はあるが、先づ概して下の千本即ち一目千本邊の盛りは四月十日過である。是まで數回花見に行つて見た自分の經驗に依つても、大抵四月中旬頃は花盛りであつた、併し春寒の強かつた年は餘程花期が遅れることがある。

中の千本になると、それよりも稍、遅れ、上の千本から奥の千本では一週乃至二週間も遅れて居る。それ故に吉野の櫻を悉く見るには少くとも二三週間はかゝる。

一目千本の盛りの時が吉野の櫻の最も美しい時で、其美しいことは見ない間は想像が附かぬ。殊



に六田の方から登つて来て、屈曲した道路を歩るきながら、初めて一目千本の見える所へ来た時の感想は實に忘れられない、此景色は小金井や其他の櫻並木の咲揃つたものとは全く別で、何處を見ても花でない所はない。八田知紀が「吉野山霞の奥はしらねともみゆるかさりは櫻なりけり」と詠んだのは實景である。

中の千本から上の千本に行くと一目千本程の壯觀はないが、而かも中々に見事である。それから奥の千本の方へ行くと櫻の数は少くなるが、自ら幽邃の趣があつて、深山の木立の彼方此方に美しい櫻の嫩葉や花が見えたり隠れたりする有様は又格段である。山櫻の優美にして閑雅なる趣は却つて奥の千本の方に於て知ることが出来る。

**吉野の櫻の品種と其特色** 吉野の櫻は總べて山櫻で、東京邊で俗に言ふ吉野櫻即ち染井吉野とは全く別の種類である。吉野の櫻は昔から此山中に自生して居たものを取つて来て植ゑたのであるが、又遠く大峯邊の山中から自然に下の方へ繁殖したのものもある、吉野山へ何時頃から斯様に櫻を植付けたかは記録に據るも分らない、併し古歌にも吉野の櫻を詠んだものがある所を以て見ると、極めて來歴の古いもので、恐らく大昔以來櫻が植はつたので、後世になつても絶えず植繼いで來たものと思はれる。殊に多く櫻が植はつたのは豊太閤の時代であつて、此頃に多數の苗木を植ゑたと云ふことである。其後も亦度々多く植ゑ繼いで遂に今日に傳はつて來た。「大和名所圖繪」其他吉野に關

する昔の案内記などを見ても此櫻の來歴の古いことが分る。貝原益軒の紀行に據ると、吉野地方では昔から櫻を神木と稱して伐ることを禁じてあつた爲に、櫻が多く保護せられて來たと云ふことである。今日では最早左様なことはないとしても、一旦名所として名高くなつた處であるから將來とも此櫻の盡きることにはあるまいと思はれる。

今日植ゑて居る櫻を見ると、少數の取除けの外は悉く此山中の特産で、日本の最も固有な山櫻の品種の代表として見ることが出来る。日本の山櫻にも色々の品種があつて、一々其特色を具へて居るが、吉野の櫻は其許多の品種中の最も普通なものを網羅して居る。併し東京附近の小金井の櫻や或は常陸の櫻川の櫻などに比べて見ると比較的品種の變異が少い。それは小金井などの櫻は一箇所の産でなく、日本の諸所から集めて植ゑたものであるに反し、吉野の櫻は獨其山中の自生種を集めたのであるから、つまり同所の櫻は大和地方の山櫻の純粹なる代表と云うて宜しい。小金井等は言はゞ雜駁である、併し雜駁なるだけ變異が多くなつて居る。

吉野の櫻を見るに、多くは嫩芽の色が茶褐色を呈して所謂茶芽の部類に屬して居る。尤も赤芽や黄芽や青芽などに屬するものもあるが、其數は比較的少い、又花の色も純白なものが多く、淡紅色を帯びるものもないのではないが、色の一層濃厚なものは全くない。

吉野山の櫻の中には自分の今まで調べた所では多くの品種がある。花の着方、花の大きさ、形、



香の有無、其他木振、枝振等に至るまで各、特色を現はして居る。併し是等の品種は何れも皆一つの純粹の系統に屬するものである。

吉野の櫻の中で優れた品種を少し挙げて見ると、前に述べた關屋の櫻の如きは最も著しいものである。此櫻と同じものが尙一目千本には所々に見られる。誠に美しい櫻で、花は夥しく着き、花瓣も割合に大きく、至つて見事である。藏王堂の附近にある花月櫻と云ふ品種は茶芽の櫻で、花序は甚だ長く、花は大輪純白である。一つの花序に二輪乃至四輪の花を着け、花徑は約三・五センチメートルで、四月中旬頃に咲く。上の千本に行く間に吉野句と云ふ一種の句櫻がある。是は曩に行つたとき見出した品種で、句の高いことで著しい。此櫻は全く野生の状態になつて居て、花には長い柄があり、花徑は直徑約二・八センチメートル、若葉は茶褐色である。

前に述べた品種の外に尙色々あるがこゝでは一々挙げない。總べて是等の品種は遠方から見ればかりでは區別の出来ないものが多く、一々手に取つて調べて見ると其特徴がはつきり知れる。單に其外觀を見て、少しの變異のあるやうに思はれるものでも、一々調べると變異が非常に多いことが分る。斯様な變異は是等の櫻に具つて居る先天的特性で、吉野の山櫻に限らず總べて我邦の山櫻は何れも斯やうな特徴を呈して居る。

全體吉野並に其山奥の地方は櫻の多い所で、今日でも林間に山櫻の多く散在して居るのが見られる。是等の櫻の實を鳥が食べて彼方此方に落すから、従つて櫻が諸所に分布される。斯様な天然に生えて居た櫻を集めて來て今日の吉野の櫻が成立つたので、此所には他の地方の櫻が殆ど入つて居ない。今の吉野の寺院などの庭園又は路傍にある少數の八重櫻や枝垂櫻などを除く外は悉く吉野の山櫻である。是が吉野の櫻の誇りとする所で、斯様に純粹の品種の多く揃つて居る所は我邦の他所には見ることが出来なう。

**吉野山の櫻の保護** 吉野ほど櫻の歴史の古い名所は外にはない。それ故昔から此櫻の名は全國に知られ、多くの人々から持て囃された譯である。古來吉野の櫻を觀賞した人は其數を知ることが出来ないが、今名高い二三の人々を挙げると、豊太閤は文祿三年の春に當時の英雄豪傑を引連れて此所に風流の花見を催したことで著しい。芭蕉は元祿元年に此所に來つて花を賞し、貝原益軒は其翌年に來て花を見、之に就て觀察した、又明和九年の春には本居宣長が此所に來た。斯く有名な人々の來たことに依つて吉野の花が世間に一層能く紹介され、花の美觀が文章となり和歌となり俳句となつて現はれて後世に傳つた。是等は皆同地の櫻の保護に間接の影響があつたが、又土地の有志家其他が此所へ櫻を植ゑ足したことも記憶せねばならぬ。併し段々世の中が開け交通の便が良くなるにつれて、人家も殖え周圍の状態が變つて來るから、古來の櫻が完全に遺つて行くか否かは問題である。日本全國を通じて史蹟名勝天然紀念物の保存に努める今日では、吉野山に於ても舊蹟の保護



と共に櫻の保護をも十分に行はなければならぬ。

櫻の保護と言へば日常櫻に對して綿密に注意を拂ふことであつて、現に植ゑられてゐる所の櫻の手入をして、枯枝を伐り朽株を除き、黴菌害虫を驅除し、又相當の肥料を施し、其他花見などの際に枝を折ることを絶対に禁ずることなどである。其他尙年々櫻を補植することが必要で、之が爲には苗圃を作り、一定の大きさに達した苗木を順に植ゑるが宜しからう。

櫻を植ゑた場所の背景其他全體の景觀に注意して、俗惡な建物などを造ることなく、道路の如きも餘り取擧げて櫻の害になるやうになつてはならぬ。近來名所舊蹟を保存する爲に動もすれば却つて手を入れ過ぎて、之を俗化し、甚しきに至つては天然の景色を打壞はして、人工化して仕舞ふ所もあるが、是は自然を保護する道に背いて居ることで、斯様な極端なる處置を執つてはならぬ。それで吉野の如きも成るべく天然を毀損せずして、在來の形を遺し、唯極めて不便な所又從來とても缺點のあつた所を改良することは差支ない。幸にして今日では同地には吉野山保勝會と云ふ團體があつて、熱心に吉野公園としての吉野の名所舊蹟の保存に努めて居るから、將來は櫻の保護も良く行き届くであらう。我邦唯一の櫻の名所としては是非斯くあらんことを望むのである。(教育畫報第四卷第五頁大正六年)

## 東京の名櫻に就て

舊幕府時代の江戸の花信風・花曆の類を見ると神社佛閣等に櫻の名木があつたことが判る。是等の櫻の名木にはそれぞれ名が附いてゐて、花の咲く時季も毎年豫報されてゐた。

江戸時代の花曆は毎年出版されて諸方へ頒布されたから、探花の人々に便利であつたことは言ふまでもない。花曆に記された櫻の名木は江戸市内ばかりでなく郊外にも及んでゐた。

是等の櫻の名木は明治の初から中頃までは未だ残つてゐたものがあつたが、其後次第に枯れ又は損じて今日に保存されてゐるものは甚少ない。尤も其樹の根元から蘖が出たり、又は原樹の在つた場所へ後繼樹を植ゑて僅に名残を留めてゐるものもある。

斯様に後世に植ゑられた後繼樹の中には原樹とは種類が違つてゐて、唯櫻の名ばかり保存されてゐるものも少くない。上野公園内清水堂の側にある秋色櫻の如きも其一で、昔の原樹とは櫻の種類が同じでない。

江戸舊時の名櫻で略々其面影を残してゐるのは澁谷の金王櫻・白山の旗櫻・大井來福寺の延命櫻などであるが、是等も今日では殆んど忘れられ、又樹の損じたものもある。



明治三十五年頃荒川の櫻が著名になりかけた時、自分は同地の櫻を調べ始め、同時に市内の名櫻にも注意したが、當時は可なり市中に櫻の品種が多かつた。本郷の拙家の庭にも普賢象が一株、鶯の尾が一株、江戸が二株、駿ヶ臺匂が一株あつた。駿ヶ臺匂は花に芳香のある櫻で、花時は風のまにまに室内へ香氣が傳はつて來たが、今日では普賢象が生存するのみで、他は皆枯れた。

本郷の帝國大學の法文科の前の芝生に見事な瀧匂が二三株あつたことを記憶する。又上野寛永寺附近の寺中に天の川と云ふ上方へ枝が立つ櫻があつた。此櫻は花が淡赤色で、微香があつたが、同所に一種白花のものを発見したから之に七夕の名を附けた。

當時本郷西片町邊の庭地には美しい里櫻があちこちに見られ、其品種は、一葉・關山・鬱金・御衣黄・長州緋櫻などであつた。

長州緋櫻は眞の赤芽で、若芽が其美麗であるのみならず、花も赤く、一重の里櫻としては優品である。今も誠之小學校の裏の畦に此櫻が一本立つてゐると思ふ。

其外東京市内には松月・普賢象・小鹽山・手毬・薄墨などの里櫻が處々の庭園に見られた。是は今から二十餘年前のこと、當時はまだ植木屋に古來の名櫻の苗木が保存されてゐたと思ふ。

然るに今日では市中には櫻の品種は甚稀になつて、どこもかしこも染井吉野の全盛を見るやうになつた。是れは畢竟染井吉野の苗木の供給が多いのと、此櫻の生長が盛んで、早く花が見られるか

らであらう。之に反して古來の名櫻は其正しい系統が無くなりかけてゐることと、又苗木の供給が少く、容易に求められない爲である。

舊幕府時代には櫻の愛護家があつて、稀なる品種を蒐集して、其系統の絶えないやうに栽培に努めたが、今日では我國華の愛護が十分に行はれない。それで染井吉野の如き新しい櫻が多く植ゑられ、數百年前の昔から古人の苦心によつて出來た名櫻の栽培と繁殖が怠つて來たのは遺憾である。

大正六年以來東京に櫻の會が設立され、國華殊に櫻の品種の保存を圖つてゐる。幸に今日には荒川堤其他に優れた櫻が多數保存されてゐるから、其絶えない内に汎く各地に栽植して其愛護に努め其美性を觀賞せんことを希望する。(明るい家第一四號昭和六年)

## 霞間ヶ谷の櫻

**霞間ヶ谷の地理** 霞間ヶ谷は岐阜縣美濃國揖斐郡本郷村大字藤代の池田山の一部にある。大垣停車場から輕便鐵道で池野町まで二十四分間乗車して、それから西へ約十町ばかりも進むと霞間ヶ谷に達することが出来る。

此地は美濃と近江の國境に連つて居る山脈中の一部で、東の方面は濃尾の平原に面して眺望が甚



だ広い。後うしろの方は山が深く、其奥は伊吹山に續いて居る。北の方へも山脈が延び、南の方は赤坂のきんしやう金生山の方面からして、垂井・關ヶ原邊に接して居る。

霞間ヶ谷は昔は鎌ヶ谷又は釜ヶ谷と書いたが、併し現今の如く霞間ヶ谷と書くことも舊幕府時代からである。此地が名高いのは一に此處にある櫻の爲であるが、併し櫻が無いにしても山水の景趣に富んで居る處である。

**風景** 霞間ヶ谷の風景は小嵐山の趣がある。尤も桂川のやうな廣い川があるのではなく、細い谷川があるに過ぎないが、谷が深く山が高く聳えて居る所が自然に好風景を形造つて居る。此地は前にも述べた如く前面が打開いて居て、高い所からの眺望が極めて宜しいのと、背面には峯が重なり、樹木が茂り谷川が流れて風景が幽邃であることで著るしい。谷の入口は殆ど池田山の麓で、それから次第に登つて行くに随つて山が深くなり、谷が狭くなり、奥に入る程深山の有様になつて来る。一體に樹木が茂つて居り、又灌木や草の類も多く、其上に美しい山櫻が彼方此方にあるから一段の美觀を添へることになる。

**櫻** 池野の町を離れて數町行くと、堤の如くになつた處がある。其先きが霞間ヶ谷の正面で、此處から數町を隔て、山櫻の前方に咲いて居るのが見える。此堤に沿うて左へ行くと、直ちに櫻の並木がある。道は小高くなり彎曲して趣がある。道の兩側には美しい山櫻が植ゑられて、花の盛りの時には既に霞間ヶ谷に至る前に十分に花見が出来る。此櫻のトンネルを數町通り越すと、小さな谷川があり、それを越えると可なり廣い斜面に多く櫻が植付けてある。此處が即ち霞間ヶ谷の入口で、櫻の中には彼岸性のものもあるが、其他は皆山櫻である。是等の櫻は多くは若木で、まだ十分に生長しては居ないが、併し現今でも已に花は美事である。

霞間ヶ谷は地勢上からして此附近の土地よりも氣候が暖である爲に、櫻の咲く時期が他よりも早い。養老などに較べると數日も早く開花する。昨年四月十四日に此地に行つた時には既に盛りが過ぎて居た。毎年の花の盛は略、四月八九日である。

寺院の建物が此處に二棟ばかりある外は何等の家屋が無い。此邊りの斜面が櫻の最も多く植はつて居る所で、それから山の上の方に進むと櫻は諸處に散在して居るに過ぎない。又山の下の方間にも彼方此方に可なり大きな山櫻が見える。其中で最も太いのは目通りの周圍が約七尺内外ぐらゐである、尤も山奥の方にも櫻の大木がある由を聞いた。山の小高い所から谷川を隔て、石谷シヤクダニと呼ばれて居る方を見上げると、谷の上には高い所に美しい山櫻が諸處に群つて咲いて居る。道が険しい爲に容易に登ることが出来ない。

今日の霞間ヶ谷の櫻は、前に述べた如く谷へ達するまでの櫻並木と、谷の入口の斜面にある櫻林と、谷間並に高嶺にある櫻の立木とに區別せられる。此中で櫻並木が先づ觀櫻の人々に最初の美觀